

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法演習 I	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	3年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 50分模擬授業、全体討議を通して、英語で授業を行うと共に、授業内容について英語で説明ができる技能を習得する。	メッセージ 教育実習に向けて、まずは英語で堂々と授業ができるようになるよう授業外で十分練習しよう。 【実務経験】中学校教師及び指導主事としての現場経験を活かして、学校現場と行政の両面から日本の英語教育を概説します。
	到達目標 (1) 英文で指導案が書ける (2) 英語で授業ができる(文法指導) (3) 授業のねらい、構成、内容について英語で説明ができる (4) 英検準1級レベル以上の英語力をつける	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション	Reading Assignment, Drills
	2	(対) ワークショップ 1 (Classroom English)	Reading Assignment, Drills
	3	(対) ワークショップ 2 (コミュニケーションとしての文法指導: 理論と実践)	Reading Assignment, Drills
	4	(対) ワークショップ 3 (コミュニケーションとしての文法指導: 目標設定と導入)	Reading Assignment, Drills
	5	(対) ワークショップ 4 (4技能統合型指導: 課題の与え方)	Reading Assignment, Drills
	6	(対) ワークショップ 5 (4技能統合型指導: 発問の工夫)	模擬授業準備・練習
	7	(対) 模擬授業・全体討議 1 (導入)	模擬授業準備・練習
	8	(対) 模擬授業・全体討議 2 (展開)	模擬授業準備・練習
	9	(対) 模擬授業・全体討議 3 (指示・発問)	模擬授業準備・練習
	10	(対) 模擬授業・全体討議 4 (ドリル・コミュニケーション活動)	模擬授業準備・練習
	11	(対) 模擬授業・全体討議 5 (課題と評価の観点)	模擬授業準備・練習
	12	(対) 模擬授業・全体討議 6 (ワークシート)	模擬授業準備・練習
	13	(対) 模擬授業・全体討議 7 (指導形態)	模擬授業準備・練習
	14	(対) 模擬授業・全体討議 8 (英語運用力)	Reading Assignment, Drills
15	(対) 英語力アップドリル	Reading Assignment, Drills	
16	(対) 英語力アップドリル		
	テキスト・参考文献・資料など 「成長する英語教師」高橋一幸(大修館) 「小学校学習指導要領 外国語活動編」(平成20年8月 文部科学省) 「中学校学習指導要領解説 外国語編」(平成20年9月 文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(平成22年5月 文部科学省)		
	学びの手立て 英語検定、グループ学習、模擬授業練習を通して英語力・英語指導力の強化を図って下さい。		
	評価 (1) 模擬授業の評価(40%) (2) 英語力の評価(40%) (3) 提出物(20%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教科書の内容を扱う授業のデザインと実演
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法演習 I	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	3年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 英語科教育法 I・II の学習内容を踏まえ、個人模擬授業を行います。学習指導案を各自で作成し、I では授業成立度（成否）に焦点を当てます。模擬授業後は、全体討論の時間を取り、各授業の評価・検討を行います。以上の実践を通して、中高における英語授業を計画・実施・評価する技能を磨きます。	メッセージ 学んだ原理を踏襲しながら、つながる授業を目指そう。
	到達目標 interaction を意識しながら、授業目標を達成できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	syllabus 熟読
	2	Demo (student A) and Q & A	reaction paper 作成
	3	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
4	Demo (student B) and Q & A	reaction paper 作成	
5	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践	
6	Demo (student C) and Q & A	reaction paper 作成	
7	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践	
8	Demo (student D) and Q & A	reaction paper 作成	
9	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践	
10	Demo (student E) and Q & A	reaction paper 作成	
11	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践	
12	Demo (student F) and Q & A	reaction paper 作成	
13	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践	
14	Demo (student G) and Q & A	reaction paper 作成	
15	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践	
16	Final	課題提出	
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で配布する。		
	学びの手立て 先輩の teaching plans や demo classes を参考にする。		
	評価 ① 授業参加度 15% ② demonstration class 50% ③ 期末試験 20% ④ 課題 15%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語科教育法演習 II につなげる。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法演習Ⅱ	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	4年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 英語科教育法演習Ⅰの実践内容を踏まえ、個人模擬授業に再度取り組みます。学習指導案を各自で作成し、Ⅱでは授業深化度（向上的変容）に焦点を当てます。模擬授業後は、全体討論の時間を取り、各授業の評価・検討を行います。以上の実践を通して、中高における英語授業を計画・実施・評価する技能を磨きます。	メッセージ 英語教育領域の総仕上げの科目です。原理・原則を基本に、自分の言語観・教育観・生徒観を反映させよう。
	到達目標 授業目標の達成のみならず、生徒の学びを促せる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	syllabus 熟読
	2	Demo (studnet A), Q & A	reaction paper 作成
	3	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	4	Demo (studnet B), Q & A	reaction paper 作成
	5	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	6	Demo (studnet C), Q & A	reaction paper 作成
	7	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	8	Demo (studnet D), Q & A	reaction paper 作成
	9	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	10	Demo (studnet E), Q & A	reaction paper 作成
	11	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	12	Demo (studnet F), Q & A	reaction paper 作成
	13	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	14	Demo (studnet G), Q & A	reaction paper 作成
	15	Class Discussion and Evaluation	reflection 実践
	16	Final	課題提出
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で配布する。		
	学びの手立て 英教法の仲間との協働学習が肝です。		
	評価 ① 授業参加度 15% ② demonstration class 50% ③ 期末試験 20% ④ 課題 15%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習の授業実践につなげる。
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法演習Ⅱ	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	4年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 教育実習前の最終点検を行う。	メッセージ 教育実習に臨むにあたり、最終自己点検を。 【実務経験】中学校教師としての現場経験を活かして、教科書の効果的な活用法を解説します。
	到達目標 (1) 英文で指導案が書ける (2) 英語で授業ができる (3) 授業のねらい、構成、内容について英語で説明ができる (4) 英検準1級レベル以上の英語力をつける	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) Orientation, Quiz 1	Drills
	2	(対) Workshop 1, Quiz 2	Drills
	3	(対) Workshop 2, Quiz 3	Drills
	4	(対) Workshop 3, Quiz 4	Drills
	5	(対) Workshop 4, Quiz 5	Making a lesson plan
	6	(対) Workshop 5, Quiz 6	Making a lesson plan
	7	(対) Workshop 6, Quiz 2-2	Making a lesson plan
	8	(対) Workshop 7, Quiz 3-2	Making a lesson plan
	9	(対) Workshop 8, Quiz 4-2	Making a lesson plan
	10	(対) Workshop 9, Quiz 5-2	Practice for Demonstration
	11	(対) Drills 1, Quiz 6-2	Practice for Demonstration
	12	(対) Drills 2, Quiz 6-3	Practice for Demonstration
	13	(対) Workshop 10	Practice for Demonstration
	14	(対) Demonstrations 1-2	Practice for Demonstration
	15	(対) Demonstrations 3-4	Practice for Demonstration
	16	(対) Reflection	
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で紹介します。		
	学びの手立て (1) 英語力、英語指導力の強化を図って下さい (2) 教員試験対策を計画的に行ってください		
	評価 (1) 模擬授業の評価 (40%) (2) 英語力の評価 (40%) (3) 提出物 (20%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法 I	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	2年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい (1) 自主学習力および学びあう力を身につける (2) 学校教育全般の現状や課題、学習指導要領を理解する (3) 英語習得理論、教授法を理解し基礎的な指導技術を身につける (4) 英語で指導できる運用能力を身につける	メッセージ 自主学習力、協働学習力を身につけよう。 【実務経験】中学校教師及び指導主事としての経験を活かして学校現場と行政の両面から英語教育を解説します。
	到達目標 (1) 英語教育に関する基礎的知識・技能を習得する (2) 英検準1級レベルの英語力を獲得する (3) 英語教師としての素養を身につける	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション	
	2	(対) 世界の中の英語	Reading、語彙・文法強化
	3	(対) 第二言語習得	Reading、語彙・文法強化
	4	(対) 外国語教授法	Reading、語彙・文法強化
	5	(対) 学習者	Reading、語彙・文法強化
	6	(対) 学習指導要領	Reading、語彙・文法強化
	7	(対) 言語要素の指導	Reading、語彙・文法強化
	8	(対) 4技能の指導	Reading、語彙・文法強化
9	(対) 4技能の指導	Reading、語彙・文法強化	
10	(対) 前半総復習、中間テスト	Reading、語彙・文法強化	
11	(対) 授業展開	Reading、語彙・文法強化	
12	(対) 教材・教具	Reading、語彙・文法強化	
13	(対) テストと評価	Reading、語彙・文法強化	
14	(対) 教員養成と教員研修	Reading、語彙・文法強化	
15	(対) 小学校英語	Reading、語彙・文法強化	
16	(対) 総復習、期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト オリエンテーションで連絡します。 参考書 「中学校学習指導要領解説 外国語編」(平成20年9月 文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(平成22年5月 文部科学省) 「現場で使える教室英語」吉田研作・金子朝子(監修)、SANSHUSHA		
	学びの手立て (1) 学級役員(級長、副級長、班長)を決め、役員を中心に学級を運営する (2) 授業内外でクラスメート及び班員と協力しながら課題解決に臨む (3) 授業は討論中心になるため、積極的な発言が望まれる (4) 事前に教科書を熟読して授業に臨む (5) Group Presentationは教科書の章を担当し、授業形式で進める		
	評価 (1) 授業参加(発言) 20% (2) テスト 40% (3) 課題(プレゼンテーション、書評、ワークシート) 40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語科教育法IIでは、英語科教育法Iで学習した内容を実践に移していきます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法 I	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	2年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期は、英語教育の在り方に関する理論的な研究成果を概観し、英語教師としての教育観並びに指導観を確立します。そのために、次の2点に注意を払います。まず、英語のコミュニケーション能力を高めることにより、英語を通して英語を教える能力を培います。次に、技能向上のみに偏ることなく、現在の学校教育に求められている「心の教育」に繋がる視点を養成します。	メッセージ 英語を教える原理を学びます。まずは、専門用語を整理しよう。
	到達目標 英語科教育の概要を把握できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	syllabus 熟読
	2	Purposes of English Education	quiz予習, 文献講読
	3	Becoming a Good Language Teacher	quiz予習, 文献講読
	4	Becoming a Successful Learner	quiz予習, 文献講読
	5	Language Acquisition and Language Teaching	quiz予習, 文献講読
	6	Ways of Teaching	quiz予習, 文献講読
	7	The Courses of Study	quiz予習, 文献講読
	8	Teaching Listening	quiz予習, 文献講読
	9	Teaching Speaking	quiz予習, 文献講読
	10	Teaching Reading	quiz予習, 文献講読
	11	Teaching Writing	quiz予習, 文献講読
	12	Materials Development	quiz予習, 文献講読
	13	Lesson Plans	quiz予習, 文献講読
	14	Team Teaching	quiz予習, 文献講読
	15	Assessment and Testing	quiz予習, 文献講読
	16	Final	課題提出
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で配布する。		
	学びの手立て 関連図書・学外 seminars・Internet・図書館などあらゆる機会を利用し、講義を補足する。		
	評価 ①授業参加度 20% ② presentation 30% ③ 期末試験 30% ④ 課題 20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語教育教材研究と関連づける。英語科教育法Ⅱとつなげる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法Ⅱ	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	3年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 英語指導の基本的な技能を習得する	メッセージ いよいよ実践です。講師にあるための準備（意欲・自己研鑽）ができていないか再点検しよう。【実務経験】中学校教師及び指導主事としての現場経験を活かして、理論と実践について解説します。
	到達目標 (1) 英語教授法に関する知識を基に指導技術の基礎を身につける (2) 原書講読、英語による発表、指導案作成を通して英語力の向上を図る (3) クラスルームイングリッシュを的確に使用できる運用能力を身につける	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) Chapter 1 & 2	Reading Assignment
	2	(対) Chapter 3	Reading Assignment
	3	(対) Chapter 4	Reading Assignment
	4	(対) Chapter 8	Reading Assignment
	5	(対) Chapter 9	Reading Assignment
	6	(対) Chapter 10	Reading Assignment
	7	(対) Chapter 11	Preparation for Test
	8	(対) Review, Mid-term Exam	Preparation for Demonstration
	9	(対) Lesson Plan 1	Preparation for Demonstration
	10	(対) 5-Minute-Demonstration 1	Preparation for Demonstration
	11	(対) 5-Minute-Demonstration 2	Preparation for Demonstration
	12	(対) Lesson Plan 2	Preparation for Demonstration
	13	(対) 10-Minute-Demonstration 1	Preparation for Demonstration
	14	(対) 10-Minute-Demonstration 2	Preparation for Demonstration
	15	(対) 10-Minute-Demonstration 3	Preparation for Test
	16	(対) Review, Final Exam	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト How Languages are Learned (3rd Edition) by P. M. Lightbrow & N. Spada Oxford) 参考書 「中学校学習指導要領解説 外国語編」(平成20年9月 文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(平成22年5月 文部科学省)		
	学びの手立て (1) 課題は基本的に授業外に班・クラス単位で取り組む (2) 学外講演会、研修会、ワークショップ等に参加する (3) 英語準1級を取得する		
	評価 (1) 授業参加(発言) 20% (2) テスト 40% (3) 課題(指導案、書評、5分・10分模擬) 40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 文法指導の授業デザインと実演(英語科教育法演習I)
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法Ⅱ	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	3年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期履修済みの「英語科教育法Ⅰ」で学んだ教育観及び指導観を踏まえ、後期は実際の教室での指導に役立つ知識や技能の養成を目指します。そこで、micro-teachingを試みます。これを通して、教材分析力・教材作成力・教案構成力を培います。また、micro-teachingを核に展開しながら、前期でcoverしていない項目や更に深く掘り下げる内容を取り上げ、理論と実践の橋渡しを試みます。	メッセージ 専門用語の理解を更に進め、目指す授業を具体化しよう。
	到達目標 学んだ原理を生かして teaching plan (略案) が書ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	syllabus 熟読
	2	人間形成的英語教育	quiz予習, 文献講読
	3	語るべき自己の未発達	quiz予習, 文献講読
	4	日本語コミュニケーション不全	quiz予習, 文献講読
	5	Input, Output and Interaction	quiz予習, 文献講読
	6	Attention and Noticing	quiz予習, 文献講読
	7	Explicit and Implicit Learning	quiz予習, 文献講読
	8	Language Learners	quiz予習, 文献講読
	9	Teaching Plan 1	teaching plan 作成
	10	Teaching Plan 2	teaching plan 作成
	11	Teaching Plan 3	teaching plan 作成
	12	Microteaching (students A & B) 1	reaction paper 作成
	13	Microteaching (students C & D) 2	reaction paper 作成
	14	Microteaching (students E & F) 3	reaction paper 作成
	15	Microteaching (students G & H) 4	reaction paper 作成
	16	Final	課題提出
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で配布する。		
	学びの手立て 関連書籍の読みを継続し、原理と実践を結ぼう。		
	評価 ①授業参加度 20% ② presentation 30% ③ 期末試験 30% ④ 課題 20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語科教育法演習Ⅰにつなげる。
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	外国史 I	期別	曜日・時限	単位
	担当者	藤波 潔	前期	木 5	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			1年	研究室（5434）、またはfujinami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	本講義では、近代以降の通史を取扱いながら、中学校社会科または高等学校地理歴史科の教員になるために不可欠な外国史の基礎知識を修得するとともに、歴史的事象を多面的多角的に考察するために必要な史料の読解力や、歴史的事象の意義を表現する能力を養成することをねらいとします。	メッセージ	単に歴史的な知識を教えるのではなく、「なぜ世界の歴史を学ぶ必要があるのか」について語ることでできる能力を持った教員となるよう、「考える歴史」を実践できるようにしましょう。
	到達目標	(1) 近代以降の世界の歴史の大きな枠組みと展開を理解することができる。 (2) 世界の歴史に関する史料・資料を読解し、論理的に説明することができる。 (3) 世界の歴史に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連について、多面的・多角的に考察することができる。 (4) 近代以降の世界の歴史と現代社会との関連性について、意欲的に探究する態度をもつことができる。		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	04/08 ガイダンス：講義に関するルールは何か？	シラバス内容の理解・ワークシート
	2	04/15 近代の幕あけ：ルネサンス、大航海時代、宗教改革	予習プリント・ワークシート
	3	04/22 イギリスの革命：清教徒革命、王政復古、名誉革命	予習プリント・ワークシート
	4	05/06 独立戦争とアメリカ社会：独立戦争、合衆国憲法	予習プリント・ワークシート
	5	05/13 フランス革命とナポレオン05：フランス革命、人権宣言、ナポレオン体制	予習プリント・ワークシート
	6	05/20 ドイツ統一とビスマルク体制：ビスマルク、ドイツ統一戦争、ドイツ帝国	予習プリント・ワークシート
	7	05/27 海城アジア世界への進出：ヨーロッパ諸国のアジア進出、海禁政策	予習プリント・ワークシート
	8	06/03 アヘン戦争と不平等条約体制：華夷秩序、アヘン戦争、南京条約体制	予習プリント・ワークシート
	9	06/10 19/20世紀転換期の東アジア世界：日朝修好条規、日清戦争、義和団事変	予習プリント・ワークシート
	10	06/17 日露戦争と朝鮮半島情勢：日露戦争、韓国併合	予習プリント・ワークシート
	11	06/24 第1次世界大戦：同盟協商体制、総力戦体制、ロシア革命	予習プリント・ワークシート
	12	07/01 ヴェルサイユ体制：ヴェルサイユ講和会議、国際連盟、ドーズ案	予習プリント・ワークシート
	13	07/08 中国における民衆運動の展開：孫文、辛亥革命、中華民国、袁世凱	予習プリント・ワークシート
	14	07/22 世界恐慌：「黄金の20年代」、ニューディール政策	予習プリント・ワークシート
15	07/29 第2次世界大戦：ナチス、融和政策、独ソ戦	予習プリント・ワークシート	
16	レポート形式による試験	試験への取り組み	

実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用せず、毎回、講義レジュメを配布します。 主な参考文献は、下記の通りです。 ①南塚信吾他編『新しく学ぶ西洋の歴史 アジアから考える』（ミネルヴァ書房、2016年） ②大下尚一他編『西洋の歴史 [近現代編]』（ミネルヴァ書房、1987年） ③中井義明他『教養のための西洋史入門』（ミネルヴァ書房、2007年） ④金澤周作監修『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房、2020年）、他。
----	--

学びの手立て	① 学びの手立て 単に履修登録をただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。配付資料をしっかりと読んだ上で予習プリントに取り組み、講義資料をしっかりと読み、講義終了後にワークシートを作成するように求めます。 ② 学びを深めるために 講義前に配布資料を熟読して、予習プリントを解くことと、講義終了後のワークシートにしっかりと取り組むこと。
--------	--

評価	到達目標 (1) の評価：予習プリント (10%) 到達目標 (2) の評価：ワークシート (20%) 到達目標 (3) の評価：レポート型試験 (50%) 到達目標 (4) の評価：レポート (20%) による総合評価とします。なお、出席が講義回数の3分の2に満たない者は、試験の評価の対象外とします。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 高校地理歴史の免許取得には「外国史Ⅱ」も必修となっています。 また、多面的な歴史認識を深めるために、共通科目の歴史関係科目の履修を勧めます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国史Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	1年	研究室（5434）、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、古代から中世に至る時代の通史を取り扱いながら、中学校社会科または高等学校地理歴史科の教員として不可欠な外国史の基礎知識を修得するとともに、歴史的事象を多面的多角的に考察するために必要な史資料の読解力や、歴史的事象の意義を表現する能力を養成することをねらいとします。	単に歴史的な知識を教えるのではなく、「なぜ世界の歴史を学ぶ必要があるのか」について語ることでできる能力を持った教員となるよう、「考える歴史」を実践できるようにしましょう。
到達目標	(1) 古代から中世に至る世界の歴史の大きな枠組みと展開を理解することができる。 (2) 世界の歴史に関する史料・資料を読解し、論理的に説明することができる。 (3) 世界の歴史に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連について、多面的・多角的に考察することができる。 (4) 古代から中世に至る世界の歴史と現代社会との関連性について、意欲的に探究する態度をもつことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	09/30 ガイダンス：講義に関するルールは何か？	シラバス内容の理解
	2	10/07 オリент世界の成立：エジプト文明、メソポタミア文明	予習プリント・ワークシート
	3	10/14 インドの古代文明：インダス文明、バラモン教、「新しい思想」	予習プリント・ワークシート
	4	10/21 中国の古代文明：殷、周、春秋戦国	予習プリント・ワークシート
	5	10/28 中国の古代帝国：秦・漢	予習プリント・ワークシート
	6	11/04 中国の中世国家：隋、唐	予習プリント・ワークシート
	7	11/11 漢民族王朝と異民族国家：五代十国、宋、遼、金、元	予習プリント・ワークシート
	8	11/18 明帝国とアジア世界：明、北方世界、海禁	予習プリント・ワークシート
	9	12/09 満州人と清帝国：満州、多民族国家、華夷秩序	予習プリント・ワークシート
	10	12/16 アテナイの発展と民主政：古代民主政、ペルシア戦争、ペロポネソス戦争	予習プリント・ワークシート
	11	12/23 ローマ世界の展開：共和政、三頭政治、元首政、ローマの平和	予習プリント・ワークシート
	12	01/06 西ヨーロッパ世界の成立：ゲルマン人、フランク王国、カール大帝	予習プリント・ワークシート
	13	01/13 初期キリスト教の展開：ユダヤ教、キリスト教	予習プリント・ワークシート
	14	01/20 教皇権と王権：グレゴリウス改革、叙任権闘争	予習プリント・ワークシート
15	01/27 中世の西ヨーロッパ世界：大憲章、百年戦争	予習プリント・ワークシート	
16	レポート型試験	レポート型試験の準備	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用せず、レジュメ資料を配付します。 主な参考文献は、下記の通りです。①山本茂他編『西洋の歴史 [古代・中世編]』（ミネルヴァ書房、1988年）、②中井義明他『教養のための西洋史入門』（ミネルヴァ書房、2007年）、③津田資久・井ノ口哲也編著『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018年）、④金澤周作監修『論点・西洋史』（ミネルヴァ書房、2020年）他。
-------	--

学びの実践	学びの手立て ① 学びの手立て 単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。講義をしっかりと聴き、講義内容に関するメモを作成し、講義終了後にノートを作成した上で、ワークシートを作成するように求めます。 ② 学びを深めるために 次週の講義内容に関係する資料を配布するので熟読し、予習プリントを解いた上で講義を受け、復習としてのワークシートに取り組んでください。
-------	---

学びの実践	評価 到達目標（1）の評価：予習プリント（10%） 到達目標（2）の評価：ワークシート（20%） 到達目標（3）の評価：レポート型学期末試験（50%） 到達目標（4）の評価：レポート（20%） による総合評価とします。なお、出席が講義回数分の3分の2に満たない者は、試験の評価の対象外とします。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 高校地理歴史の教員免許取得には、外国史Ⅰ・Ⅱ両方とも必修となっています。世界の歴史を通史として理解するためにも、外国史Ⅰを履修することが望ましいです。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学習支援実習	前期	集中講義	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	2年	研究室（5434）またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、教職課程履修者を対象として、学習支援活動に従事することを通じて中学校現場の実態を理解するとともに、自らの教員としての適正を顧みる機会とすることを目的とします。	メッセージ 本講義は、宜野湾市教育委員会と本学との協定に基づいて実施されるものです。中学校の実際の学級で学習支援活動に従事することで中学生の学修実態に触れることができ、より実践的な教職課程の学びにつながられます。
	到達目標 (1) 学習支援活動を通じて、中学校現場の実態を理解することができる。 (2) 学習支援活動を通じて、自らの教員としての適正を顧みることができる。 (3) 学習支援者として適切な身なり、態度、言葉遣いで生徒と接することができる。 (4) 活動記録を適切に作成し、期限内に提出することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>学内事前ガイダンス</td> <td>支援計画の作成</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>中学校ガイダンス</td> <td>レポートの作成</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>学習支援活動①、②</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>学習支援活動③、④</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>学習支援活動⑤、⑥</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>学習支援活動⑦、⑧</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>学習支援活動⑨、⑩</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>学内事後ガイダンス</td> <td>レポートの作成</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	時間外学習	第1回	学内事前ガイダンス	支援計画の作成	第2回	中学校ガイダンス	レポートの作成	第3回	学習支援活動①、②	活動参加記録の作成	第4回	学習支援活動③、④	活動参加記録の作成	第5回	学習支援活動⑤、⑥	活動参加記録の作成	第6回	学習支援活動⑦、⑧	活動参加記録の作成	第7回	学習支援活動⑨、⑩	活動参加記録の作成	第8回	学内事後ガイダンス	レポートの作成
	回	内容	時間外学習																									
	第1回	学内事前ガイダンス	支援計画の作成																									
第2回	中学校ガイダンス	レポートの作成																										
第3回	学習支援活動①、②	活動参加記録の作成																										
第4回	学習支援活動③、④	活動参加記録の作成																										
第5回	学習支援活動⑤、⑥	活動参加記録の作成																										
第6回	学習支援活動⑦、⑧	活動参加記録の作成																										
第7回	学習支援活動⑨、⑩	活動参加記録の作成																										
第8回	学内事後ガイダンス	レポートの作成																										
テキスト・参考文献・資料など ① テキスト 本講義を受講するための特定のテキストはありません。 ② 参考文献 『中学校学習指導要領』																												
学びの手立て ① 本講義を受講するためには「教職研究Ⅰ」「教育の思想と原則」「進路指導・生活指導」の単位を修得していることが前提条件となります。 ② 取得希望の免許の種類は問いません。また、高校の免許科目のみを取得希望の学生も受講ができます。																												
評価 到達目標（1）の評価：最終レポートの内容（40%） 到達目標（2）の評価：活動報告書の内容（40%） 到達目標（3）の評価：中学校担当者による評価（10%） 到達目標（4）の評価：最終レポート、活動報告書の提出（10%）																												

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義での経験を踏まえて、教職課程の各科目の理解、とくに模擬授業科目における実践的、具体的な理解につながることで、ならびに自らの教員としての適正を考える機会につながることを期待します。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学習支援実習	後期	集中講義	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	2年	研究室（5434）またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、教職課程履修者を対象として、学習支援活動に従事することを通じて中学校現場の実態を理解するとともに、自らの教員としての適正を顧みる機会とすることを目的とします。	メッセージ 本講義は、宜野湾市教育委員会と本学との協定に基づいて実施されるものです。中学校の実際の学級で学習支援活動に従事することで中学生の学修実態に触れることができ、より実践的な教職課程の学びにつながられます。
	到達目標 (1) 学習支援活動を通じて、中学校現場の実態を理解することができる。 (2) 学習支援活動を通じて、自らの教員としての適正を顧みることができる。 (3) 学習支援者として適切な身なり、態度、言葉遣いで生徒と接することができる。 (4) 活動記録を適切に作成し、期限内に提出することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>学内事前ガイダンス</td> <td>支援計画の作成</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>中学校ガイダンス</td> <td>レポートの作成</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>学習支援活動①、②</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>学習支援活動③、④</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>学習支援活動⑤、⑥</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>学習支援活動⑦、⑧</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>学習支援活動⑨、⑩</td> <td>活動参加記録の作成</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>学内事後ガイダンス</td> <td>レポートの作成</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	時間外学習	第1回	学内事前ガイダンス	支援計画の作成	第2回	中学校ガイダンス	レポートの作成	第3回	学習支援活動①、②	活動参加記録の作成	第4回	学習支援活動③、④	活動参加記録の作成	第5回	学習支援活動⑤、⑥	活動参加記録の作成	第6回	学習支援活動⑦、⑧	活動参加記録の作成	第7回	学習支援活動⑨、⑩	活動参加記録の作成	第8回	学内事後ガイダンス	レポートの作成
	回	内容	時間外学習																									
	第1回	学内事前ガイダンス	支援計画の作成																									
第2回	中学校ガイダンス	レポートの作成																										
第3回	学習支援活動①、②	活動参加記録の作成																										
第4回	学習支援活動③、④	活動参加記録の作成																										
第5回	学習支援活動⑤、⑥	活動参加記録の作成																										
第6回	学習支援活動⑦、⑧	活動参加記録の作成																										
第7回	学習支援活動⑨、⑩	活動参加記録の作成																										
第8回	学内事後ガイダンス	レポートの作成																										
テキスト・参考文献・資料など ① テキスト 本講義を受講するための特定のテキストはありません。 ② 参考文献 『中学校学習指導要領』																												
学びの手立て ① 本講義を受講するためには「教職研究Ⅰ」「教育の思想と原則」「進路指導・生活指導」の単位を修得していることが前提条件となります。 ② 取得希望の免許の種類は問いません。また、高校の免許科目のみを取得希望の学生も受講ができます。																												
評価 到達目標（1）の評価：最終レポートの内容（40%） 到達目標（2）の評価：活動報告書の内容（40%） 到達目標（3）の評価：中学校担当者による評価（10%） 到達目標（4）の評価：最終レポート、活動報告書の提出（10%）																												

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義での経験を踏まえて、教職課程の各科目の理解、とくに模擬授業科目における実践的、具体的な理解につながることで、ならびに自らの教員としての適正を考える機会につながることを期待します。
-------	---

※ポリシーとの関連性

カウンセリングの諸理論と技法を用いた本学の養成する教員像に求められる指導のありかたを実践的に学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学校カウンセリング	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-助川 菜生	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本科目では、「教育心理学」の基礎、「進路指導・生活指導」のより実践的な知識を踏まえ、発達心理学、臨床心理学の基礎知識を確認しながら進めます。同時に、グループワークやロールプレイ等の体験を交え、学校教育におけるカウンセリングの技法と実際について実践的に学びます。	メッセージ 皆さんが学校現場に入るとき教育相談が対象とする問題にどう向かうか、実践に役立つように体験的に理解、獲得できる授業を目指します。なお、本講義は、スクールカウンセラー等、臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
	到達目標 教育相談、学校カウンセリングの基礎的な知識を身につけ、自分の言葉で説明できる。 自己理解、他者理解の方法を身につけ、対人関係に応用できる。 文部科学省、教育委員会の資料や教育に関する時事問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。 「教育心理学」「進路指導・生活指導」で学んだ理論と合わせて、学校現場で役立つ姿勢や対応を体験的に身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整	シラバスを読んでもくる
	2	幼児期・児童期から青年期にかけての発達の理解	講義中に指示する課題
	3	児童期の悩みの理解	講義中に指示する課題
	4	青年期の葛藤と理解	講義中に指示する課題
	5	教育相談に関する基礎的知識（心理療法）	講義中に指示する課題
	6	学校教育におけるカウンセリングの技法と実際	講義中に指示する課題
	7	子どもを支える各専門職の役割	講義中に指示する課題
	8	個別対応	講義中に指示する課題
	9	校内連携	講義中に指示する課題
	10	専門職連携	講義中に指示する課題
	11	不登校・非行・家庭環境	講義中に指示する課題
	12	いじめ問題対応	講義中に指示する課題
	13	発達障害傾向のある子どもとその保護者に対する理解と関わり	講義中に指示する課題
	14	専門職連携（事例検討）	講義中に指示する課題
15	教師自身のメンタルヘルスケア、まとめと振り返り	講義中に指示する課題	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜資料を配布します。 文部科学省「生徒指導提要」「いじめ防止対策推進法」「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」 「学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き」令和2年6月改定版 他 角南なおみ編著『やさしく学ぶ教職課程 教育相談』学文社 森俊夫『“問題行動の意味”にこだわるより“解決志向”で行こう』ほんの森出版 石隈利紀『学校心理学 教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス』誠信書房 他
-------	---

学びの実践	学びの手立て ①課題レポート、グループワーク等に自ら課題を見出し、取り組む姿勢を求めます。 グループワークへの不参加は認めません。 ②配布資料・課題レポートは次回必ず持参してください。 ③欠席は「履修規定」通り厳密に扱います。出欠状況は、自ら管理・記録してください。
-------	---

学びの実践	評価 ①受講態度（15%）講義毎の課題レポート（15%） ②期末試験（70%） 出席と課題レポートを提出したという事実だけでは、評価対象になりません。 あくまで、教職につくために必要な能力という観点から、「到達目標」がどの程度できているかを評価します。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目の単位を取得する際には教職課程履修が中盤にさしかかっています。「介護等の体験」や「特別活動演習」、「教育実習」、総まとめの「教職実践演習」を通じ、最終的には教師として採用された現場で本講義の学びがいかせるよう、模擬授業等にこの科目で得た知見や態度、スキルを反映させていくことが求められます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学校カウンセリング	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	3年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目では、教育心理学の基礎、進路指導・生活指導のより実践的な知識を踏まえ、臨床心理学の基礎知識を確認しながら、カウンセリングの理論と技法に基づいてグループワーク、ロールプレイ等を変え学校現場でのカウンセリング的アプローチについて実践的に学んでいきます。</p>	<p>「カウンセラーになるわけでもないのにこんな科目不要では」と思いませんか?しかしカウンセリングの理論や技法を用いると通常の指導とは違う対応のヒントが見えるかも知れません。カウンセリングの発想を活用して実際の場面での対応の幅を広げて講義室のドアを出ませんか?なお本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>

到達目標
<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④「教育心理学」「進路指導・生活指導」で学んだ理論が定着していることが確認できる。 ⑤④を踏まえて、カウンセリングの理論や技法に基づいて学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション・登録調整 (グループワークを含む)	シラバスを読んでくる
	2	(特) 学校カウンセリングとは (グループワークを含む)	講義中に指示の課題①
	3	(特) 異性の理解とライフサイクル理論にもとづいてキャリア・子育て・生徒指導を考察する (〃)	講義中に指示の課題②
	4	(特) 臨床心理学の基礎知識① 無意識についての理論～フロイトとユング (〃)	講義中に指示の課題③
	5	(特) 発達理論～フロイトを中心に (〃)	講義中に指示の課題④
	6	(特) カウンセリングの実際① (〃)	講義中に指示の課題⑤
	7	(特) 学校におけるカウンセリングの注意点と教師の役割 ～ロジャーズの理論 (〃)	講義中に指示の課題⑥
	8	(特) 心理テストの注意点 (〃)	講義中に指示の課題⑦
	9	(特) 問題行動の理解① 不登校への対応 (思春期のカウンセリングと心理療法の各種技法) (〃)	講義中に指示の課題⑧
	10	(特) 問題行動の理解② 非行への対応 (過ちを犯した生地に反省を促し行動の改善を図る) (〃)	講義中に指示の課題⑨
	11	(特) 学校現場での緊急事態への対応の実際 (ワークショップ)	講義中に指示の課題⑩
	12	(特) こころの病の理解と自殺予防 (〃)	講義中に指示の課題⑪
	13	(特) 教師のメンタルヘルス (〃)	講義中に指示の課題⑫
	14	(特) 保護者・地域・他の専門機関との連携～クレームへの対応をめぐる～ (〃)	講義中に指示の課題⑬
15	(特) まとめ・振り返り (〃)	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。適宜資料を配付する。 文部科学省「生徒指導提要」菅佐和子他「臨床心理学の世界」有斐閣 桑原知子「教室で生かすカウンセリングマインド」日本評論社 氏原寛「実践から知る学校カウンセリングー教師カウンセラーのためにー」培風館 高橋祥友「自殺予防」岩波新書 藤掛明「非行カウンセリング入門」金剛出版 岩宮恵子「フツの子の思春期」岩波書店 他</p>
----	--

学びの手立て	<p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み取り組んだ課題をもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。</p>
--------	--

評価	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 … 20% ②期末試験 … 80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得する際には教職課程履修が中盤にさしかかっています。「介護等の体験」や「特別活動演習」、「教育実習」、総まとめの「教職実践演習」を通じ、最終的には教師として採用された現場で本講義の学びがいかせるよう、模擬授業等にこの科目で得た知見やスキルを反映させていくことが求められます。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 教育課程・教育方法	期別 後期	曜日・時限 木6	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 5号館5階 5505室 mimura*okiu. ac. jp(*は半角@に変換します)	

学びの準備	ねらい これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また、学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。	メッセージ 小中高と毎日のように受け、大学でも毎日のように受けている授業（講義も授業の一つです）。教師になれば仕事の中心となる授業。この授業について、まず哲学的に解明します。授業とは何か分かったら、具体的な授業づくりの方法について、一般教授学の成果を用いて解説をします。教育課程については、教科課程のあり方を中心に、その意義・編成方法・改善方法について講義します。
	到達目標 授業は「教授と学習の統一した過程」として捉えるべきであること、その認識に至る教授学史に関する深い知識・理解を身につける。また、そうした授業を成立させるために欠かせない「指導案づくり」（ICT及び教材の活用を含む）の方法と「授業展開のタクト」の方法に関して深い知識・理解を身につける。これらを通して、授業を行うことへの意欲と自信を持つことができる。さらに、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業びらき/「教授学キーワード」について	テキスト精読ページ(以下同じ)133
	2	授業とは何か1 教授と学習の統一としての授業	132, 171-3, 175, 177, 192
	3	授業とは何か2 教授理論と授業観の史的変遷	14, 21
	4	授業とは何か3 ドラマとしての授業の成立	117, 130, 138, 180, 指導案・教材精読
	5	授業とは何か4 授業のビデオ視聴/ICT活用指導力	視聴した授業の感想文☆ 260-4
	6	授業とは何か5 ビデオで視聴した授業の分析・批評	102, 119-20, 123, 140-3, 147, 181, 188
	7	指導案と教育課程1 指導案の意味、指導案の内容項目とその順序・書き方	137, 179, 213, 154
	8	指導案と教育課程2 指導目標と学力観・指導要録の関連、「主体的・対話的で深い学び」の必要性	163, 231-2, 239-241, 252, 通知表調べ
	9	指導案と教育課程3 本時の展開計画の枠組みの変遷と授業観の変遷	22, 26-9, 201-2, 212
	10	指導案と教育課程4 学習指導要領の変遷、今日の学習指導要領、カリキュラム・マネジメント	学習指導要領領域変遷☆ 30, 157
	11	教科内容の確定と教材研究1 教科内容と教材の関係、教科の成立条件と教育課程	152, 164, 270, 272, 274, 275, 279
	12	教科内容の確定と教材研究2 教材研究(教材づくり・教材解釈・ICTの活用)	教材研究☆ 155, 159, 160
	13	発問づくりと指導言の構想1 発問	118, 169, 183, 185, 191, 224, 228
	14	発問づくりと指導言の構想2 説明、指示、評価、助言/応答予想と切り返しの構想の方法1	147, 168, 184, 186
	15	応答予想と切り返しの構想の方法2 /授業実践としての授業展開のタクト	71, 135-6, 144, 193-4, 208, 215/213
16	試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。③恒吉宏典他編『授業研究 重要用語300の基礎知識』明治図書、1999年。主要参考文献：①天野正輝編『教育課程 重要用語300の基礎知識』明治図書、1996年。②三村和則著『沖繩・学力向上のための提言』ポーターインク、2010年。③岩垣攝他編『吉本均著作選集(全5巻)』明治図書、2006年。④吉本均編著『新 教授学のすすめ(全5巻)』明治図書、1989年。⑤岩垣攝他『教室で教えるということ』八千代出版、2010年。⑥深澤広明編著『教育方法技術論』協同出版、2014年。⑦『中学校学習指導要領』2017年。⑧『高等学校学習指導要領』2009年、2018年。残余については別途、指示する。</p>
----	--

学びの手立て	<p>①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。</p> <p>②「学びを深めるために」：大学の講義も授業であることから、授業者の授業展開方法、表現方法、教材・教具使用方法ならびに教材研究方法を学ぶことが大切である。レジュメ集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標達成には至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。</p>
--------	---

評価	<p>小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合、その3分の2以上の提出をもって期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験90%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、意欲をなるべく網羅的に評価する。特に「教授学キーワード」として整理した授業づくりの専門用語に関する知識・理解に40%程度配点する。論述問題については各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に応じて配点する。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示する)。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義の内容は、各教科教授学の母体でもあり統合の学問でもある一般教授学の成果を内容にしているの、どの教科の授業においても共通している。そのため本講義をベースにして「教科教育法」と「同演習」を履修することが望ましい。特に授業をつくるための「教授学キーワード」は大いに活用されるだろう。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 教育課程・教育方法	期別 後期	曜日・時限 木 4	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 5号館5階 5505室 mimura*okiu. ac. jp(*は半角@に変換します)	

学びの準備	ねらい これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また、学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。	メッセージ 小中高と毎日のように受け、大学でも毎日のように受けている授業（講義も授業の一つです）。教師になれば仕事の中心となる授業。この授業について、まず哲学的に解明します。授業とは何か分かったら、具体的な授業づくりの方法について、一般教授学の成果を用いて解説をします。教育課程については、教科課程のあり方を中心に、その意義・編成方法・改善方法について講義します。
	到達目標 授業は「教授と学習の統一した過程」として捉えるべきであること、その認識に至る教授学史に関する深い知識・理解を身につける。また、そうした授業を成立させるために欠かせない「指導案づくり」（ICT及び教材の活用を含む）の方法と「授業展開のタクト」の方法に関して深い知識・理解を身につける。これらを通して、授業を行うことへの意欲と自信を持つことができる。さらに、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業びらき/「教授学キーワード」について	テキスト精読ページ(以下同じ)133
	2	授業とは何か1 教授と学習の統一としての授業	132, 171-3, 175, 177, 192
	3	授業とは何か2 教授理論と授業観の史的変遷	14, 21
	4	授業とは何か3 ドラマとしての授業の成立	117, 130, 138, 180, 指導案・教材精読
	5	授業とは何か4 授業のビデオ視聴/ICT活用指導力	視聴した授業の感想文☆ 260-4
	6	授業とは何か5 ビデオで視聴した授業の分析・批評	102, 119-20, 123, 140-3, 147, 181, 188
	7	指導案と教育課程1 指導案の意味、指導案の内容項目とその順序・書き方	137, 179, 213, 154
	8	指導案と教育課程2 指導目標と学力観・指導要録の関連、「主体的・対話的で深い学び」の必要性	163, 231-2, 239-241, 252, 通知表調べ
	9	指導案と教育課程3 本時の展開計画の枠組みの変遷と授業観の変遷	22, 26-9, 201-2, 212
	10	指導案と教育課程4 学習指導要領の変遷、今日の学習指導要領、カリキュラム・マネジメント	学習指導要領領域変遷☆ 30, 157
	11	教科内容の確定と教材研究1 教科内容と教材の関係、教科の成立条件と教育課程	152, 164, 270, 272, 274, 275, 279
	12	教科内容の確定と教材研究2 教材研究(教材づくり・教材解釈・ICTの活用)	教材研究☆ 155, 159, 160
	13	発問づくりと指導言の構想1 発問	118, 169, 183, 185, 191, 224, 228
	14	発問づくりと指導言の構想2 説明、指示、評価、助言/応答予想と切り返しの構想の方法1	147, 168, 184, 186
	15	応答予想と切り返しの構想の方法2 /授業実践としての授業展開のタクト	71, 135-6, 144, 193-4, 208, 215/213
16	試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。③恒吉宏典他編『授業研究 重要用語300の基礎知識』明治図書、1999年。主要参考文献：①天野正輝編『教育課程 重要用語300の基礎知識』明治図書、1996年。②三村和則著『沖繩・学力向上のための提言』ポーターインク、2010年。③岩垣攝他編『吉本均著作選集(全5巻)』明治図書、2006年。④吉本均編著『新 教授学のすすめ(全5巻)』明治図書、1989年。⑤岩垣攝他『教室で教えるということ』八千代出版、2010年。⑥深澤広明編著『教育方法技術論』協同出版、2014年。⑦『中学校学習指導要領』2017年。⑧『高等学校学習指導要領』2009年、2018年。残余については別途、指示する。
----	---

学びの手立て	①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②「学びを深めるために」：大学の講義も授業であることから、授業者の授業展開方法、表現方法、教材・教具使用方法ならびに教材研究方法を学ぶことが大切である。レジュメ集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標達成には至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。
--------	--

評価	小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合、その3分の2以上の提出をもって期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験90%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、意欲をなるべく網羅的に評価する。特に「教授学キーワード」として整理した授業づくりの専門用語に関する知識・理解に40%程度配点する。論述問題については各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に応じて配点する。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示する)。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容は、各教科教授学の母体でもあり統合の学問でもある一般教授学の成果を内容にしているのので、どの教科の授業においても共通している。そのため本講義をベースにして「教科教育法」と「同演習」を履修することが望ましい。特に授業をつくるための「教授学キーワード」は大いに活用されるだろう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育心理学	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	2年	オフィスアワー：水曜4校時	

学びの準備	ねらい 本科目は、教職に必要な発達・学習・教育評価・障害の理解を柱として、基礎理論と学校現場とのつながりや活用の仕方についてグループメンバーや教員とともに考察します。	メッセージ 理論など面白くないと思うかもしれません。予習・復習も難儀と感ずるかもしれません。しかし、スポーツと同様学問や教職にも基礎トレーニングは必要ですし、それが結局、一番役に立ちます。一人で悩んで「正解」を出す必要も失敗を恐れる必要もありません。毎回の講義でさまざまな考えを出し合いながら仲間や教員と一緒に「この理論は使える!」と発見して講義室のドアを出しましょう。
	到達目標 ①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができる。 ④教育に関する諸理論の現場での活用についてイメージできるようになる。 ⑤教育現場の諸問題について学問を基礎とした解決法が探せるようになる。	

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	
	回	テーマ
	1	(特) オリエンテーション・登録調整 (グループワークを含む)
	2	(特) 発達① 青年期の発達 (グループワークを含む)
	3	(特) 発達② 幼児・児童の発達とピアジェ理論 (")
	4	(特) 発達③ 成人期～中年期危機と老年期 ～保護者との連携のために (")
	5	(特) 発達④ 「発達」の視点を教育に生かす (発達理論を用いた授業・生徒指導の工夫) (")
	6	(特) 学習・教育① さまざまな学習理論 (")
	7	(特) 学習・教育② 動機づけ (")
	8	(特) 学習・教育③ 学習理論の現場での活用 社会的存在としての人間の学習 (")
	9	(特) 教育評価① 教育評価 (近代科学・統計学の考え方の基礎) (")
	10	(特) 教育評価② 教育評価の注意点 (テストや通知表の活用) (")
	11	(特) 教育評価③ 知能・知能テスト (")
	12	(特) 障がいの理解① さまざまな障害の理解を踏まえた中学高校の指導の課題 (")
	13	(特) 障がいの理解② 発達障がい LD・ADHD・ASD・DCD (")
	14	(特) 障がいの理解③ 学校の中のマイノリティ (")
15	(特) まとめ・振り返り (")	
16	期末試験	
	時間外学習の内容	
	シラバスを読んでくる	
	講義中に指示の課題①	
	講義中に指示の課題②	
	講義中に指示の課題③	
	講義中に指示の課題④	
	講義中に指示の課題⑤	
	講義中に指示の課題⑥	
	講義中に指示の課題⑦	
	講義中に指示の課題⑧	
	講義中に指示の課題⑨	
	講義中に指示の課題⑩	
	講義中に指示の課題⑪	
	講義中に指示の課題⑫	
	講義中に指示の課題⑬	
	講義中に指示の課題⑭	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト： 仲淳「こどものころが見えてくる本 臨床心理士が提案するちょっと新しい教育心理学のかたち」あいり出版 参考文献：北村邦夫+JUNIE編集部「ティーンズ・ボディブック改訂版」扶桑社 金森俊朗「希望の教室」角川出版 東田直樹「自閉症の僕が飛び跳ねる理由」エスコアール出版部 他
----	--

学びの手立て	①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み取り組んだ課題をもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物についても、講義内で説明した通りに薦めます。 上記は成績評価に反映します。 また、前提科目として共通科目の「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」の受講を推奨します。
--------	--

評価	①予習復習・課題成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 … 20% ②期末試験…80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、と言うことはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「介護等の体験」や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて授業や指導の計画を立てることが求められます。 また、心理学の関連科目として「学校カウンセリング」があります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育心理学	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金武 育子	2年	講義終了後に講義室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 学校現場の諸問題について発達・学習・教育評価を柱とする教育心理学の諸理論や知識を基に考える。	メッセージ 教育心理学で取り上げる理論は、どれも基礎・基本に根差したものです。だからこそ実生活にも役立てられるものが多く含まれています。講義を立体的な自身の力に変えていくアイデアをご自身のために活用してください。
	到達目標 学校現場の諸問題について発達・学習・教育評価を柱とする教育心理学の諸理論や知識を基礎とした解決法について考え、探せるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1回：オリエンテーション～教育心理学を教職課程で学ぶ意義 第2回：発達① 青年期の発達その1 青年期の発達に関するさまざまな理論 第3回：発達② 青年期の発達その2 理論をふまえた青年期への対応 第4回：発達③ 幼児・児童の心身の発達～ピアジェ理論を中心に 第5回：発達④ 成人の発達 第6回：発達⑤ 発達の視点を学校教育に生かす 第7回：学習の過程① さまざまな学習理論 第8回：学習の過程② 動機づけ 第9回：学習の過程③ 社会的存在としての人間の学習 第10回：学習の過程④ 学習理論を生かした生徒への対応 第11回：教育評価① 教育評価の基本～統計学・近代科学の考え方 第12回：教育評価② 望ましいテストと通知表とは 第13回：知能 第14回：適応 第15回：まとめと振り返り 定期試験</p> <p><時間外学習> 各回の講義内で、課題やワークシートを指示します。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト 仲淳「こどものこころが見えてくる本」あいり出版</p> <p>参考書 富永他「教職をめざすひとのための発達と教育の心理学」ナカニシヤ出版</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「教育心理学」は、前提科目として共通科目「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」を推奨しています。遅刻や欠席につきましては、科目の特性上、毎回の積み上げになりますのでできる限り無いようにお願いします。受講態度につきましては、過度な私語やモバイルツールの使用は原則認めません（要相談）。他の受講者の迷惑になったり、士気がさがるような態度は謹んでください。</p>
	<p>評価</p> <p>毎回の授業に関する振り返りをまとめた小レポート・ワークシート（40%） 学期末テスト／レポート（60%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>単位取得後、「教科教育法」や介護等の体験、教育実習等では、本講義で学んだ理論について指導や授業の計画を立てることが求められます。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 教育心理学	期別 前期	曜日・時限 火3	単位 2
	担当者 片本 恵利	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい 本科目は、教職に必要な発達・学習・教育評価・障がいの理解を柱として、基礎理論が学校現場とのつながりや活用のしかたについてグループメンバーや教員とともに考察します。	メッセージ 理論など面白くない、予習復習も難儀と感じるかも知れません。しかしスポーツ同様学問や教職にも基礎トレーニングは必要ですし、結局一番役に立ちます。仲間や教員と考えを出し合いながら「この理論は使える！」と発見して講義室のドアを出しましょう。なお本講義はスクールカウンセラーをはじめとする諸領域での担当教員の臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
	到達目標 ①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができる。 ④教育に関する諸理論の現場での活用についてイメージできるようになる。 ⑤教育現場での諸問題について学問を基礎とした解決法が探せるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)オリエンテーション・登録調整 (グループワークを含む)	シラバスを読んでくる
	2	(特) 発達① 青年期の発達 (グループワークを含む)	講義中に指示の課題①
	3	(特) 発達② 幼児・児童の発達とピアジェ理論 (グループワークを含む)	講義中に指示の課題②
	4	(特) 発達③ 成人期～中年期危機と老年期 ～保護者との連携のために (")	講義中に指示の課題③
	5	(特) 発達④「発達」の視点を教育に活かす (発達理論を用いた授業・生徒指導の工夫) (")	講義中に指示の課題④
	6	(特) 学習・教育① さまざまな学習理論 (")	講義中に指示の課題⑤
	7	(特) 学習・教育② 動機づけ (")	講義中に指示の課題⑥
	8	(特) 学習・教育③ 学習理論の現場での活用 社会的存在としての人間の学習 (")	講義中に指示の課題⑦
	9	(特) 教育評価① 教育評価 (近代科学・統計学の考え方の基礎) (")	講義中に指示の課題⑧
	10	(特) 教育評価② 教育評価の注意点 (テストや通知表の活用) (")	講義中に指示の課題⑨
	11	(特) 教育評価③ 知能・知能テスト (")	講義中に指示の課題⑩
	12	(特) 障がいの理解① さまざまな障がいの理解をふまえた中学高校の指導の課題 (")	講義中に指示の課題⑪
	13	(特) 障がいの理解② 発達障がい LD・ADHD・ASD・DCD (")	講義中に指示の課題⑫
	14	(特) 障がいの理解③ 学校の中のマイノリティ (")	講義中に指示の課題⑬
	15	(特) まとめ・振り返り (")	講義中に指示の課題⑭
16	期末試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：仲 淳「こどものこころが見えてくろ本 臨床心理士が提案するちょっとあたらしい教育心理学のかたち」 あいり出版 参考書等：北村邦夫＋JUNIE編集部「ティーンズ・ボディブック改訂版」扶桑社 金森俊朗「希望の教室」角川書店 東田直樹「自閉症の僕が跳びはねる理由」エスコアール出版部 他
----	---

学びの手立て	①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み取り組んだ課題をもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。 なお、前提科目として共通科目の「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」を受講されることを推奨します。
--------	---

評価	①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …20% ②最終レポート …80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 各教科教育法や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて授業や指導の計画を立てることが求められます。また、介護等体験を行う方にも必須の知識が含まれている科目です。 心理学の関連科目として「学校カウンセリング」があります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育実習指導	集中	集中	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収、他	4年	科目全体に関しては教職課程主任か学務課、個別の内容は担当者に直接問合わせること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、「教育実習A」「教育実習B」の事前指導、中間指導ならびに事後指導のために開講され、2回の全体オリエンテーション、1回の教科別オリエンテーション、中間懇談会、教科別反省会によって構成される科目である。</p>	<p>教育実習にふさわしい服装、身だしなみ、マナーが修得されていない、または、遅刻、欠席等が多く教育実習に行くことが適当でないと判断された場合は、本科目の受講を認めず、結果として教育実習に行くことができなくなる場合がある。前年度9月に開催された「教育実習校選定方法説明会」における説明資料を、再度熟読しておくこと。</p>
到達目標	<p>(1) 教育法規やハラスメントなど、必要な知識について理解できる。 (2) 教育実習に参加する者としての自覚を確立し、教育実習に際しての目標を設定できる。 (3) 自らの教育実習体験を省察し、課題を明確にして、他者に向けて表現できる。 (4) 他者の教育実習体験を、当事者意識をもって受け止めることができる。 (5) 教育実習に適切な服装、身だしなみ、マナー等を実践することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回教育実習オリエンテーション①：講話「学校現場と教育法規」／諸指導	学習した内容の教育実習録への記録
	2	第1回教育実習オリエンテーション②：学校安全について（1）	学習した内容の教育実習録への記録
	3	第1回教育実習オリエンテーション③：学校安全について（2）	学習した内容の教育実習録への記録
	4	第2回教育実習オリエンテーション：講話／ハラスメント研修	学習した内容の教育実習録への記録
	5	教科別オリエンテーション	学習した内容の教育実習録への記録
	6	中間懇談会	懇談会内容の教育実習録への記録
	7	教科別反省会	教育実習反省録の作成と提出
	8	教育実習録の返却とまとめ	教育実習録の指摘事項の修正
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは使用しない。適宜、資料を配付する。参考文献は、(1) 教育実習校選定方法説明会資料、(2) 『教育実習の手引き』。</p>
----	---

学びの手立て	<p>各オリエンテーションの日程については、教育実習校選定方法説明会で配布された日程表を参考にすること。ただし、変更の場合があるので、大学からの連絡を必ず確認すること。また、オリエンテーションにおける学習内容を忘れずに「教育実習録」に記入し、各自振り返りをしておくこと。</p>
--------	---

評価	<p>到達目標 (1) の評価：教育実習録の記載内容 (25%) 到達目標 (2) の評価：教科別オリエンテーションでの取り組み内容 (15%) 到達目標 (3) の評価：中間懇談会、教科別反省会での取り組み内容 (15%) / 教育実習反省録の提出 (15%) 到達目標 (4) の評価：中間懇談会での取り組み内容 (15%) 到達目標 (5) の評価：各回における取り組み内容 (15%)</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教職実践演習</p>
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性

教免法が定める「教育の基礎的理解に関する科目」のうち、「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関する科目

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 教育制度論	期別 後期	曜日・時限 火5	単位 2
	担当者 照屋 翔大	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい 日本の学校教育の基盤となる諸制度について、それらの制度を成り立たせている法規と法規を基に展開される教育行政、さらに制度の下で展開される学校現場の取組に目を向けながら、その特徴と現代的課題について考える。	メッセージ 教育の制度のあり様は、教育を受ける権利や学びの保障という点で重要であるだけでなく、教師にとっては自らの仕事の在り方を決定つけます。教育、特に学校教育の現状に対して「そもそも」を問いながら、学校教育をよりよくしていくための方策について一緒に考えてみましょう。
	到達目標 ①教育を受ける権利を保障する公教育制度の原理と法規について理解している。 ②教育制度の下で展開される教育行政および学校経営の特徴と現代的課題について理解している。 ③国内外の改革動向を踏まえながら、望ましい教育制度の在り方に関する自分の考えを表現できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション
	2	教育法規の体系
	3	公教育の概念と原理
	4	義務教育制度の特徴と課題
	5	教育における国の役割
	6	教育における地方公共団体の役割
	7	教育費をめぐる日本人的特徴と課題
	8	社会の変化と学校教育の理念
	9	教育課程の制度とマネジメント
	10	学校経営と校長の役割
	11	学校経営改革の進展と特徴
	12	学校・教員の日本人的特徴と現代的課題に対応する改革の進展
	13	地域ともにある学校づくり
	14	子どもの安全・安心を守る学校づくり
	15	まとめ・振り返り
16	定期試験	
		時間外学習の内容
		課題①、テキスト28-39頁
		課題②、テキスト10-21頁
		課題③、テキスト22-27頁
		課題④、テキスト40-50頁
		課題⑤、テキスト51-64頁
		課題⑥、テキスト65-77頁
		課題⑦、テキスト78-93頁
		課題⑧、テキスト94-103頁
		課題⑨、テキスト104-121頁
		課題⑩、テキスト104-121頁
		課題⑪、テキスト122-143頁
		課題⑫、テキスト156-167頁
		課題⑬、テキスト168-180頁
		課題⑭、これまでの復習
		課題⑮、試験準備

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テキスト：加藤崇英・臼井智美編著（2020）『教育の制度と学校のマネジメント』時事通信社。 ○参考文献：『解説教育六法』など教育に関する法規を確認できる書籍（出版社は問わない）、窪田真二・小川友次（2021）『教育法規便覧（令和3年度版）』学陽書房。 ○資料など：各授業回のテーマに関連した文部科学省、沖縄県教育委員会等のウェブページを参照すること。
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○テキストは必ず購入すること。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○各授業において事後課題としてリフレクション課題を、また事前課題としてテキストの該当ページの精読を課す。授業外の学習時間をしっかりと確保し、授業に臨むこと。 ○授業時にはスライドを写すのではなく、「聴く・考える・議論する」に注力すること。
--------	---

評価	<p>到達目標に即して、講義で取り扱ったテーマに関する知識・理解度と思考力・表現力・判断力を確かめるために、定期試験（筆記）65%と授業内課題（リフレクション課題や授業内ディスカッションなど）35%で評価を行う。なお、出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験を認めない。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目は、学校教育の骨格について学ぶ入門的科目である。ここでの学びを支えにしながら、教師としての資質・能力を高めるべく、教科教育法をはじめとした各種の実践に即した教職課程科目の学びを深めてもらいたい。また履修後も、常に教育をめぐる制度や政策のニュースにアンテナを高くし、関心と自分なりの意見を持つように心がけることを期待している。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

教免法が定める「教育の基礎的理解に関する科目」のうち、「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関する科目

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 教育制度論	期別 前期	曜日・時限 火5	単位 2
	担当者 照屋 翔大	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい 日本の学校教育の基盤となる諸制度について、それらの制度を成り立たせている法規と法規を基に展開される教育行政、さらに制度の下で展開される学校現場の取組に目を向けながら、その特徴と現代的課題について考える。	メッセージ 教育の制度のあり様は、教育を受ける権利や学びの保障という点で重要であるだけでなく、教師にとっては自らの仕事の在り方を決定つけます。教育、特に学校教育の現状に対して「そもそも」を問いながら、学校教育をよりよくしていくための方策について一緒に考えてみましょう。
	到達目標 ①教育を受ける権利を保障する公教育制度の原理と法規について理解している。 ②教育制度の下で展開される教育行政および学校経営の特徴と現代的課題について理解している。 ③国内外の改革動向を踏まえながら、望ましい教育制度の在り方に関する自分の考えを表現できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション
	2	教育法規の体系
	3	公教育の概念と原理
	4	義務教育制度の特徴と課題
	5	教育における国の役割
	6	教育における地方公共団体の役割
	7	教育費をめぐる日本人的特徴と課題
	8	社会の変化と学校教育の理念
	9	教育課程の制度とマネジメント
	10	学校経営と校長の役割
	11	学校経営改革の進展と特徴
	12	学校・教員の日本人的特徴と現代的課題に対応する改革の進展
	13	地域ともにある学校づくり
	14	子どもの安全・安心を守る学校づくり
	15	まとめ・振り返り
16	定期試験	
		時間外学習の内容
		課題①、テキスト28-39頁
		課題②、テキスト10-21頁
		課題③、テキスト22-27頁
		課題④、テキスト40-50頁
		課題⑤、テキスト51-64頁
		課題⑥、テキスト65-77頁
		課題⑦、テキスト78-93頁
		課題⑧、テキスト94-103頁
		課題⑨、テキスト104-121頁
		課題⑩、テキスト104-121頁
		課題⑪、テキスト122-143頁
		課題⑫、テキスト156-167頁
		課題⑬、テキスト168-180頁
		課題⑭、これまでの復習
		課題⑮、試験準備

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テキスト：加藤崇英・臼井智美編著（2020）『教育の制度と学校のマネジメント』時事通信社。 ○参考文献：『解説教育六法』など教育に関する法規を確認できる書籍（出版社は問わない）、窪田眞二・小川友次（2021）『教育法規便覧（令和3年度版）』学陽書房。 ○資料など：各授業回のテーマに関連した文部科学省、沖縄県教育委員会等のウェブページを参照すること。
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○テキストは必ず購入すること。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○各授業において事後課題としてリフレクション課題を、また事前課題としてテキストの該当ページの精読を課す。授業外の学習時間をしっかりと確保し、授業に臨むこと。 ○授業時にはスライドを写すのではなく、「聴く・考える・議論する」に注力すること。
--------	---

評価	<p>到達目標に即して、講義で取り扱ったテーマに関する知識・理解度と思考力・表現力・判断力を確かめるために、定期試験（筆記）65%と授業内課題（リフレクション課題や授業内ディスカッションなど）35%で評価を行う。なお、出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験を認めない。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目は、学校教育の骨格について学ぶ入門的科目である。ここでの学びを支えにしながら、教師としての資質・能力を高めるべく、教科教育法をはじめとした各種の実践に即した教職課程科目の学びを深めてもらいたい。また履修後も、常に教育をめぐる制度や政策のニュースにアンテナを高くし、関心と自分なりの意見を持つように心がけることを期待している。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

教員法が定める「教育の基礎的理解に関する科目」のうち、「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関する科目

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 教育制度論	期別 前期	曜日・時限 火3	単位 2
	担当者 照屋 翔大	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい 日本の学校教育の基盤となる諸制度について、それらの制度を成り立たせている法規と法規を基に展開される教育行政、さらに制度の下で展開される学校現場の取組に目を向けながら、その特徴と現代的課題について考える。	メッセージ 教育の制度のあり様は、教育を受ける権利や学びの保障という点で重要であるだけでなく、教師にとっては自らの仕事の在り方を決定つけます。教育、特に学校教育の現状に対して「そもそも」を問いながら、学校教育をよりよくしていくための方策について一緒に考えてみましょう。
	到達目標 ①教育を受ける権利を保障する公教育制度の原理と法規について理解している。 ②教育制度の下で展開される教育行政および学校経営の特徴と現代的課題について理解している。 ③国内外の改革動向を踏まえながら、望ましい教育制度の在り方に関する自分の考えを表現できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション	課題①、テキスト28-39頁
	2	教育法規の体系	課題②、テキスト10-21頁
	3	公教育の概念と原理	課題③、テキスト22-27頁
	4	義務教育制度の特徴と課題	課題④、テキスト40-50頁
	5	教育における国の役割	課題⑤、テキスト51-64頁
	6	教育における地方公共団体の役割	課題⑥、テキスト65-77頁
	7	教育費をめぐる日本人的特徴と課題	課題⑦、テキスト78-93頁
	8	社会の変化と学校教育の理念	課題⑧、テキスト94-103頁
	9	教育課程の制度とマネジメント	課題⑨、テキスト104-121頁
	10	学校経営と校長の役割	課題⑩、テキスト104-121頁
	11	学校経営改革の進展と特徴	課題⑪、テキスト122-143頁
	12	学校・教員の日本人的特徴と現代的課題に対応する改革の進展	課題⑫、テキスト156-167頁
	13	地域ともにある学校づくり	課題⑬、テキスト168-180頁
	14	子どもの安全・安心を守る学校づくり	課題⑭、これまでの復習
	15	まとめ・振り返り	課題⑮、試験準備
16	定期試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テキスト：加藤崇英・臼井智美編著（2020）『教育の制度と学校のマネジメント』時事通信社。 ○参考文献：『解説教育六法』など教育に関する法規を確認できる書籍（出版社は問わない）、窪田真二・小川友次（2021）『教育法規便覧（令和3年度版）』学陽書房。 ○資料など：各授業回のテーマに関連した文部科学省、沖縄県教育委員会等のウェブページを参照すること。
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○テキストは必ず購入すること。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○各授業において事後課題としてリフレクション課題を、また事前課題としてテキストの該当ページの精読を課す。授業外の学習時間をしっかりと確保し、授業に臨むこと。 ○授業時にはスライドを写すのではなく、「聴く・考える・議論する」に注力すること。
--------	---

評価	<p>到達目標に即して、講義で取り扱ったテーマに関する知識・理解度と思考力・表現力・判断力を確かめるために、定期試験（筆記）65%と授業内課題（リフレクション課題や授業内ディスカッションなど）35%で評価を行う。なお、出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験を認めない。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目は、学校教育の骨格について学ぶ入門的科目である。ここでの学びを支えにしながら、教師としての資質・能力を高めるべく、教科教育法をはじめとした各種の実践に即した教職課程科目の学びを深めてもらいたい。また履修後も、常に教育をめぐる制度や政策のニュースにアンテナを高くし、関心と自分なりの意見を持つように心がけることを期待している。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

教員法が定める「教育の基礎的理解に関する科目」のうち、「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関する科目

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 教育制度論	期別 後期	曜日・時限 火3	単位 2
	担当者 照屋 翔大	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい 日本の学校教育の基盤となる諸制度について、それらの制度を成り立たせている法規と法規を基に展開される教育行政、さらに制度の下で展開される学校現場の取組に目を向けながら、その特徴と現代的課題について考える。	メッセージ 教育の制度のあり様は、教育を受ける権利や学びの保障という点で重要であるだけでなく、教師にとっては自らの仕事の在り方を決定つけます。教育、特に学校教育の現状に対して「そもそも」を問いながら、学校教育をよりよくしていくための方策について一緒に考えてみましょう。
	到達目標 ①教育を受ける権利を保障する公教育制度の原理と法規について理解している。 ②教育制度の下で展開される教育行政および学校経営の特徴と現代的課題について理解している。 ③国内外の改革動向を踏まえながら、望ましい教育制度の在り方に関する自分の考えを表現できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション
	2	教育法規の体系
	3	公教育の概念と原理
	4	義務教育制度の特徴と課題
	5	教育における国の役割
	6	教育における地方公共団体の役割
	7	教育費をめぐる日本人的特徴と課題
	8	社会の変化と学校教育の理念
	9	教育課程の制度とマネジメント
	10	学校経営と校長の役割
	11	学校経営改革の進展と特徴
	12	学校・教員の日本人的特徴と現代的課題に対応する改革の進展
	13	地域ともにある学校づくり
	14	子どもの安全・安心を守る学校づくり
	15	まとめ・振り返り
16	定期試験	
		時間外学習の内容
		課題①、テキスト28-39頁
		課題②、テキスト10-21頁
		課題③、テキスト22-27頁
		課題④、テキスト40-50頁
		課題⑤、テキスト51-64頁
		課題⑥、テキスト65-77頁
		課題⑦、テキスト78-93頁
		課題⑧、テキスト94-103頁
		課題⑨、テキスト104-121頁
		課題⑩、テキスト104-121頁
		課題⑪、テキスト122-143頁
		課題⑫、テキスト156-167頁
		課題⑬、テキスト168-180頁
		課題⑭、これまでの復習
		課題⑮、試験準備

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テキスト：加藤崇英・臼井智美編著（2020）『教育の制度と学校のマネジメント』時事通信社。 ○参考文献：『解説教育六法』など教育に関する法規を確認できる書籍（出版社は問わない）、窪田真二・小川友次（2021）『教育法規便覧（令和3年度版）』学陽書房。 ○資料など：各授業回のテーマに関連した文部科学省、沖縄県教育委員会等のウェブページを参照すること。
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○テキストは必ず購入すること。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○各授業において事後課題としてリフレクション課題を、また事前課題としてテキストの該当ページの精読を課す。授業外の学習時間をしっかりと確保し、授業に臨むこと。 ○授業時にはスライドを写すのではなく、「聴く・考える・議論する」に注力すること。
--------	---

評価	<p>到達目標に即して、講義で取り扱ったテーマに関する知識・理解度と思考力・表現力・判断力を確かめるために、定期試験（筆記）65%と授業内課題（リフレクション課題や授業内ディスカッションなど）35%で評価を行う。なお、出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験を認めない。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目は、学校教育の骨格について学ぶ入門的科目である。ここでの学びを支えにしながら、教師としての資質・能力を高めるべく、教科教育法をはじめとした各種の実践に即した教職課程科目の学びを深めてもらいたい。また履修後も、常に教育をめぐる制度や政策のニュースにアンテナを高くし、関心と自分なりの意見を持つように心がけることを期待している。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 カウンセリングの諸理論と技法を用いた本学の養成する教員像に求められる指導のありかたを実践的に学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育相談の基礎と方法	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-助川 菜生	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本科目では、「教育心理学」の基礎、「進路指導・生活指導」のより実践的な知識を踏まえ、発達心理学、臨床心理学の基礎知識を確認しながら進めます。同時に、グループワークやロールプレイ等の体験を交え、学校教育におけるカウンセリングの技法と実際について実践的に学びます。	メッセージ 皆さんが学校現場に入るとき教育相談が対象とする問題にどう向かうか、実践に役立つように体験的に理解、獲得できる授業を目指します。なお、本講義は、スクールカウンセラー等、臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
	到達目標 教育相談、学校カウンセリングの基礎的な知識を身につけ、自分の言葉で説明できる。 自己理解、他者理解の方法を身につけ、対人関係に応用できる。 文部科学省、教育委員会の資料や教育に関する時事問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。 「教育心理学」「進路指導・生活指導」で学んだ理論と合わせて、学校現場で役立つ姿勢や対応を体験的に身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション・登録調整	
	2	幼児期・児童期から青年期にかけての発達の理解	
		時間外学習の内容	
	3	児童期の悩みの理解	シラバスを読んでくる
	4	青年期の葛藤と理解	講義中に指示する課題
	5	教育相談に関する基礎的知識（心理療法）	講義中に指示する課題
	6	学校教育におけるカウンセリングの技法と実際	講義中に指示する課題
	7	子どもを支える各専門職の役割	講義中に指示する課題
	8	個別対応	講義中に指示する課題
	9	校内連携	講義中に指示する課題
	10	専門職連携	講義中に指示する課題
	11	不登校・非行・家庭環境	講義中に指示する課題
	12	いじめ問題対応	講義中に指示する課題
	13	発達障害傾向のある子どもとその保護者に対する理解と関わり	講義中に指示する課題
	14	専門職連携（事例検討）	講義中に指示する課題
	15	教師自身のメンタルヘルスケア、まとめと振り返り	講義中に指示する課題
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など		
	適宜資料を配布します。 文部科学省「生徒指導提要」「いじめ防止対策推進法」「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」 「学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き」令和2年6月改定版 他 角南なおみ編著『やさしく学ぶ教職課程 教育相談』学文社 森俊夫『“問題行動の意味”にこだわるより“解決志向”で行こう』ほんの森出版 石隈利紀『学校心理学 教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス』誠信書房 他		
	学びの手立て		
	①課題レポート、グループワーク等に自ら課題を見出し、取り組む姿勢を求めます。 グループワークへの不参加は認めません。 ②配布資料・課題レポートは次回必ず持参してください。 ③欠席は「履修規定」通り厳密に扱います。出欠状況は、自ら管理・記録してください。		
	評価		
	①受講態度（15%）講義毎の課題レポート（15%） ②期末試験（70%） 出席と課題レポートを提出したという事実だけでは、評価対象になりません。 あくまで、教職につくために必要な能力という観点から、「到達目標」がどの程度できているかを評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目の単位を取得する際には教職課程履修が中盤にさしかかっています。「介護等の体験」や「特別活動演習」、「教育実習」、総まとめの「教職実践演習」を通じ、最終的には教師として採用された現場で本講義の学びがいかせるよう、模擬授業等にこの科目で得た知見や態度、スキルを反映させていくことが求められます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育相談の基礎と方法	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	3年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目では、教育心理学の基礎、進路指導・生活指導のより実践的な知識を踏まえ、臨床心理学の基礎知識を確認しながら、カウンセリングの理論と技法に基づいてグループワーク、ロールプレイ等を交え学校現場でのカウンセリング的アプローチについて実践的に学んでいきます。</p>	<p>「カウンセラーになるわけでもないのにこんな科目不要では」と思っていますか?しかしカウンセリングの理論や技法を用いると通常の指導とは違う対応のヒントが見えるかも知れません。カウンセリングの発想を活用して実際の場面での対応の幅を広げて講義室のドアを出ませんか?なお本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>

到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④「教育心理学」「進路指導・生活指導」で学んだ理論が定着していることが確認できる。 ⑤④を踏まえて、カウンセリングの理論や技法に基づいて学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション・登録調整 (グループワークを含む)	シラバスを読んでくる
	2	(特) 学校カウンセリングとは (グループワークを含む)	講義中に指示の課題①
	3	(特) 異性の理解とライフサイクル理論にもとづいてキャリア・子育て・生徒指導を考察する (〃)	講義中に指示の課題②
	4	(特) 臨床心理学の基礎知識① 無意識についての理論～フロイトとユング (〃)	講義中に指示の課題③
	5	(特) 発達理論～フロイトを中心に (〃)	講義中に指示の課題④
	6	(特) カウンセリングの実際① (〃)	講義中に指示の課題⑤
	7	(特) 学校におけるカウンセリングの注意点と教師の役割 ～ロジャーズの理論 (〃)	講義中に指示の課題⑥
	8	(特) 心理テストの注意点 (〃)	講義中に指示の課題⑦
	9	(特) 問題行動の理解① 不登校への対応 (思春期のカウンセリングと心理療法の各種技法) (〃)	講義中に指示の課題⑧
	10	(特) 問題行動の理解② 非行への対応 (過ちを犯した生地に反省を促し行動の改善を図る) (〃)	講義中に指示の課題⑨
	11	(特) 学校現場での緊急事態への対応の実際 (ワークショップ)	講義中に指示の課題⑩
	12	(特) こころの病の理解と自殺予防 (〃)	講義中に指示の課題⑪
	13	(特) 教師のメンタルヘルス (〃)	講義中に指示の課題⑫
	14	(特) 保護者・地域・他の専門機関との連携～クレームへの対応をめぐる～ (〃)	講義中に指示の課題⑬
15	(特) まとめ・振り返り (〃)	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。適宜資料を配付する。 文部科学省「生徒指導提要」菅佐和子他「臨床心理学の世界」有斐閣 桑原知子「教室で生かすカウンセリングマインド」日本評論社 氏原寛「実践から知る学校カウンセリングー教師カウンセラーのためにー」培風館 高橋祥友「自殺予防」岩波新書 藤掛明「非行カウンセリング入門」金剛出版 岩宮恵子「フツの子の思春期」岩波書店 他</p>
----	--

学びの手立て	<p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み取り組んだ課題をもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。</p>
--------	--

評価	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …20% ②期末試験 …80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得する際には教職課程履修が中盤にさしかかっています。「介護等の体験」や「特別活動演習」、「教育実習」、総まとめの「教職実践演習」を通じ、最終的には教師として採用された現場で本講義の学びがいかせるよう、模擬授業等にこの科目で得た知見やスキルを反映させていくことが求められます。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

教職法が定める「教職に関する科目」（旧課程）または新課程の「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する科目

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	前期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	照屋 翔大	1年	研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい 教育学の入門的科目として、教育という営みの本質、その歴史と思想、制度と経営、教育の目的・内容・方法等に関する基礎的な概念と現代的動向について学ぶことを目的とする。	メッセージ 子ども、教師、学校そして教育。これらはいずれも私たちが経験を通じてよく知っている「用語」です。しかし、その捉え方は人によってさまざまであり、そのすり合わせが価値や思想が多様化した現代社会において重要な課題になります。各授業回のテーマに向き合う中で、自分の中にある様々な「観」を問い直し、教育や教職に対する理解と覚悟を深めてほしいと思います。
	到達目標 ①教育学の諸概念について理解している。 ②近代学校教育制度の誕生と発展の歴史と思想について理解し、その代表例について説明することができる。 ③教育をめぐる現代的動向の特徴を俯瞰的に理解し、自分なりの考えを表現することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション	リフレクション課題①
	2	様々な教育観	リフレクション課題②
	3	「遊び」と「学び」	リフレクション課題③
	4	人間の成長・発達と教育	リフレクション課題④
	5	「子ども」という存在、子どもの権利をめぐる思想	リフレクション課題⑤
	6	近代社会の起こりと学校の誕生	リフレクション課題⑥
	7	西洋における近代教育思想	リフレクション課題⑦
	8	西洋における学校制度の成立	リフレクション課題⑧
	9	日本における近代学校の誕生	リフレクション課題⑨
	10	日本における学校制度の展開	リフレクション課題⑩
	11	戦後日本における教育改革の展開と特徴	リフレクション課題⑪
	12	現代的教育課題の検討（1）—教育と国家の関係	リフレクション課題⑫
	13	現代的教育課題の検討（2）—特別なニーズを抱える子どもへの対応	リフレクション課題⑬
	14	現代的教育課題の検討（3）—子どもの貧困と教育	リフレクション課題⑭
	15	まとめ—改めて自身の教育観を確かめる	リフレクション課題⑮、試験準備
	16	定期試験	
	テキスト・参考文献・資料など		
	○テキスト：特に使用しない。オンライン（Teams）にて講義資料を配付する。 ○参考文献：佐藤博志編著（2013）『教育学の探究—教師の専門的思索のために』川島書店、小島弘道編著（2015）『全訂版 学校教育の基礎知識』協同出版。その他、各授業回においてテーマに関連する図書や資料を適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○事後課題であるリフレクション課題をはじめ、配付資料や紹介された文献を精読するなど、授業外の学習時間をしっかりと確保し、授業に臨むこと。 ○授業時にはスライドを写すのではなく、「聴く・考える・議論する」に注力すること。		
	評価		
	到達目標に即して、講義で取り扱ったテーマに対する知識・理解度と思考力・表現力・判断力を確かめるために、期末の定期試験（筆記）70%と授業内課題（リフレクション課題や授業内ディスカッションなど）30%で評価を行う。なお、出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験を認めない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目は、教職課程を続けていく自分自身の適性を見極める科目である。今後も教職課程科目の履修を強く希望する者を念頭に授業を進めるため、積極的・意欲的に講義や時間外学習に取り組むことを要件としていることを肝に銘じてほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

教免法で定める「教科及び教職に関する科目」のうち「教育の基礎的理解に関する科目」に該当する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>おもに歴史的な観点から、近代公教育理念・原則の意義とその実現をめぐる問題について取り扱う。近代において生み出された公教育の理念・原則が、資本主義の展開のもとでいかなる運命を辿っていったのかを歴史的に整理することを通じ、教職を志す者が今後考えていくべき課題を模索する。</p>	<p>テストではおもに授業の理解度をはかるので、毎回、集中して受講すること。 毎回、高校までに学んだ現代史の内容を復習したうえで授業に臨むこと。 また随時、授業中に発言を求める。</p>
到達目標	授業の内容を理解し、それを自分の言葉で語り直せるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業内容の復習
	2	近代以前の教育思想（1）—諸外国	授業内容の復習
	3	近代以前の教育思想（2）—日本	授業内容の復習
	4	近代教育の成り立ちと変遷（1）—市民社会の理念と公教育	授業内容の復習
	5	近代教育の成り立ちと変遷（2）—市民社会の現実と公教育	授業内容の復習
	6	近代教育の成り立ちと変遷（3）—市民社会の構造転換と公教育	授業内容の復習
	7	近代教育の成り立ちと変遷（4）—帝国主義下における公教育	授業内容の復習
	8	近代教育の成り立ちと変遷（5）—戦前日本の公教育	授業内容の復習
	9	近代教育の成り立ちと変遷（6）—戦中日本の公教育	授業内容の復習
	10	戦後日本の教育（1）—戦後改革	授業内容の復習
	11	戦後日本の教育（2）—冷戦構造の確立	授業内容の復習
	12	戦後日本の教育（3）—経済成長	授業内容の復習
	13	戦後日本の教育（4）—教育問題の噴出	授業内容の復習
14	今日における教育の課題（1）—新自由主義	授業内容の復習	
15	今日における教育の課題（2）—新保守主義	授業内容の復習	
16	期末試験	試験の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。		
学びの手立て	<p>適宜、Microsoft Teamsを活用する（使用法に習熟しておくこと）。 無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。 授業内容の復習は必ずおこなうこと。 毎回、リアクション・ペーパーを課す。数名分を次の授業時に紹介する。 五回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。</p>		
評価	期末試験の結果によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	履修階梯上、本科目を単位取得しなければ、教科教育法等の科目を履修できない。

※ポリシーとの関連性

教職法が定める「教職に関する科目」（旧課程）または新課程の「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する科目

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	照屋 翔大	1年	研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい 教育学の入門的科目として、教育という営みの本質、その歴史と思想、制度と経営、教育の目的・内容・方法等に関する基礎的な概念と現代的動向について学ぶことを目的とする。	メッセージ 子ども、教師、学校そして教育。これらはいずれも私たちが経験を通じてよく知っている「用語」です。しかし、その捉え方は人によってさまざまであり、そのすり合わせが価値や思想が多様化した現代社会において重要な課題になります。各授業回のテーマに向き合う中で、自分の中にある様々な「観」を問い直し、教育や教職に対する理解と覚悟を深めてほしいと思います。
	到達目標 ①教育学の諸概念について理解している。 ②近代学校教育制度の誕生と発展の歴史と思想について理解し、その代表例について説明することができる。 ③教育をめぐる現代的動向の特徴を俯瞰的に理解し、自分なりの考えを表現することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション	リフレクション課題①
	2	様々な教育観	リフレクション課題②
	3	「遊び」と「学び」	リフレクション課題③
	4	人間の成長・発達と教育	リフレクション課題④
	5	「子ども」という存在、子どもの権利をめぐる思想	リフレクション課題⑤
	6	近代社会の起こりと学校の誕生	リフレクション課題⑥
	7	西洋における近代教育思想	リフレクション課題⑦
	8	西洋における学校制度の成立	リフレクション課題⑧
	9	日本における近代学校の誕生	リフレクション課題⑨
	10	日本における学校制度の展開	リフレクション課題⑩
	11	戦後日本における教育改革の展開と特徴	リフレクション課題⑪
	12	現代的教育課題の検討（1）—教育と国家の関係	リフレクション課題⑫
	13	現代的教育課題の検討（2）—特別なニーズを抱える子どもへの対応	リフレクション課題⑬
	14	現代的教育課題の検討（3）—子どもの貧困と教育	リフレクション課題⑭
	15	まとめ—改めて自身の教育観を確かめる	リフレクション課題⑮、試験準備
	16	定期試験	
	テキスト・参考文献・資料など		
	○テキスト：特に使用しない。オンライン（Teams）にて講義資料を配付する。 ○参考文献：佐藤博志編著（2013）『教育学の探究—教師の専門的思索のために』川島書店、小島弘道編著（2015）『全訂版 学校教育の基礎知識』協同出版。その他、各授業回においてテーマに関連する図書や資料を適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○事後課題であるリフレクション課題をはじめ、配付資料や紹介された文献を精読するなど、授業外の学習時間をしっかりと確保し、授業に臨むこと。 ○授業時にはスライドを写すのではなく、「聴く・考える・議論する」に注力すること。		
	評価		
	到達目標に即して、講義で取り扱ったテーマに対する知識・理解度と思考力・表現力・判断力を確かめるために、期末の定期試験（筆記）70%と授業内課題（リフレクション課題や授業内ディスカッションなど）30%で評価を行う。なお、出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験を認めない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目は、教職課程を続けていく自分自身の適性を見極める科目である。今後も教職課程科目の履修を強く希望する者を念頭に授業を進めるため、積極的・意欲的に講義や時間外学習に取り組むことを要件としていることを肝に銘じてほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

教員法が定める「教職に関する科目」（旧課程）または新課程の「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する科目

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	照屋 翔大	1年	研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい 教育学の入門的科目として、教育という営みの本質、その歴史と思想、制度と経営、教育の目的・内容・方法等に関する基礎的な概念と現代的動向について学ぶことを目的とする。	メッセージ 子ども、教師、学校そして教育。これらはいずれも私たちが経験を通じてよく知っている「用語」です。しかし、その捉え方は人によってさまざまであり、そのすり合わせが価値や思想が多様化した現代社会において重要な課題になります。各授業回のテーマに向き合う中で、自分の中にある様々な「観」を問い直し、教育や教職に対する理解と覚悟を深めてほしいと思います。
	到達目標 ①教育学の諸概念について理解している。 ②近代学校教育制度の誕生と発展の歴史と思想について理解し、その代表例について説明することができる。 ③教育をめぐる現代的動向の特徴を俯瞰的に理解し、自分なりの考えを表現することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション	リフレクション課題①
	2	様々な教育観	リフレクション課題②
	3	「遊び」と「学び」	リフレクション課題③
	4	人間の成長・発達と教育	リフレクション課題④
	5	「子ども」という存在、子どもの権利をめぐる思想	リフレクション課題⑤
	6	近代社会の起こりと学校の誕生	リフレクション課題⑥
	7	西洋における近代教育思想	リフレクション課題⑦
	8	西洋における学校制度の成立	リフレクション課題⑧
	9	日本における近代学校の誕生	リフレクション課題⑨
	10	日本における学校制度の展開	リフレクション課題⑩
	11	戦後日本における教育改革の展開と特徴	リフレクション課題⑪
	12	現代的教育課題の検討（1）—教育と国家の関係	リフレクション課題⑫
	13	現代的教育課題の検討（2）—特別なニーズを抱える子どもへの対応	リフレクション課題⑬
	14	現代的教育課題の検討（3）—子どもの貧困と教育	リフレクション課題⑭
	15	まとめ—改めて自身の教育観を確かめる	リフレクション課題⑮、試験準備
	16	定期試験	
	テキスト・参考文献・資料など		
	○テキスト：特に使用しない。オンライン（Teams）にて講義資料を配付する。 ○参考文献：佐藤博志編著（2013）『教育学の探究—教師の専門的思索のために』川島書店、小島弘道編著（2015）『全訂版 学校教育の基礎知識』協同出版。その他、各授業回においてテーマに関連する図書や資料を適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○事後課題であるリフレクション課題をはじめ、配付資料や紹介された文献を精読するなど、授業外の学習時間をしっかりと確保し、授業に臨むこと。 ○授業時にはスライドを写すのではなく、「聴く・考える・議論する」に注力すること。		
	評価		
	到達目標に即して、講義で取り扱ったテーマに対する知識・理解度と思考力・表現力・判断力を確かめるために、期末の定期試験（筆記）70%と授業内課題（リフレクション課題や授業内ディスカッションなど）30%で評価を行う。なお、出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験を認めない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目は、教職課程を続けていく自分自身の適性を見極める科目である。今後も教職課程科目の履修を強く希望する者を念頭に授業を進めるため、積極的・意欲的に講義や時間外学習に取り組むことを要件としていることを肝に銘じてほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

教職法が定める「教職に関する科目」（旧課程）または新課程の「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する科目

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	照屋 翔大	1年	研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい 教育学の入門的科目として、教育という営みの本質、その歴史と思想、制度と経営、教育の目的・内容・方法等に関する基礎的な概念と現代的動向について学ぶことを目的とする。	メッセージ 子ども、教師、学校そして教育。これらはいずれも私たちが経験を通じてよく知っている「用語」です。しかし、その捉え方は人によってさまざまであり、そのすり合わせが価値や思想が多様化した現代社会において重要な課題になります。各授業回のテーマに向き合う中で、自分の中にある様々な「観」を問い直し、教育や教職に対する理解と覚悟を深めてほしいと思います。
	到達目標 ①教育学の諸概念について理解している。 ②近代学校教育制度の誕生と発展の歴史と思想について理解し、その代表例について説明することができる。 ③教育をめぐる現代的動向の特徴を俯瞰的に理解し、自分なりの考えを表現することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション	リフレクション課題①
	2	様々な教育観	リフレクション課題②
	3	「遊び」と「学び」	リフレクション課題③
	4	人間の成長・発達と教育	リフレクション課題④
	5	「子ども」という存在、子どもの権利をめぐる思想	リフレクション課題⑤
	6	近代社会の起こりと学校の誕生	リフレクション課題⑥
	7	西洋における近代教育思想	リフレクション課題⑦
	8	西洋における学校制度の成立	リフレクション課題⑧
	9	日本における近代学校の誕生	リフレクション課題⑨
	10	日本における学校制度の展開	リフレクション課題⑩
	11	戦後日本における教育改革の展開と特徴	リフレクション課題⑪
	12	現代的教育課題の検討（1）—教育と国家の関係	リフレクション課題⑫
	13	現代的教育課題の検討（2）—特別なニーズを抱える子どもへの対応	リフレクション課題⑬
	14	現代的教育課題の検討（3）—子どもの貧困と教育	リフレクション課題⑭
	15	まとめ—改めて自身の教育観を確かめる	リフレクション課題⑮、試験準備
	16	定期試験	
	テキスト・参考文献・資料など		
	○テキスト：特に使用しない。オンライン（Teams）にて講義資料を配付する。 ○参考文献：佐藤博志編著（2013）『教育学の探究—教師の専門的思索のために』川島書店、小島弘道編著（2015）『全訂版 学校教育の基礎知識』協同出版。その他、各授業回においてテーマに関連する図書や資料を適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○事後課題であるリフレクション課題をはじめ、配付資料や紹介された文献を精読するなど、授業外の学習時間をしっかりと確保し、授業に臨むこと。 ○授業時にはスライドを写すのではなく、「聴く・考える・議論する」に注力すること。		
	評価		
	到達目標に即して、講義で取り扱ったテーマに対する知識・理解度と思考力・表現力・判断力を確かめるために、期末の定期試験（筆記）70%と授業内課題（リフレクション課題や授業内ディスカッションなど）30%で評価を行う。なお、出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験を認めない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目は、教職課程を続けていく自分自身の適性を見極める科目である。今後も教職課程科目の履修を強く希望する者を念頭に授業を進めるため、積極的・意欲的に講義や時間外学習に取り組むことを要件としていることを肝に銘じてほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の制度	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	照屋 翔大	1年	研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本の学校教育の基盤となる諸制度について、それらの制度を成り立たせている法規と法規を基に展開される教育行政、さらに制度の下で展開される学校現場の取組に目を向けながら、その特徴と現代的課題について考える。	教育の制度のあり様は、教育を受ける権利や学びの保障という点で重要であるだけでなく、教師にとっては自らの仕事の在り方を決定つけます。教育、特に学校教育の現状に対して「そもそも」を問いながら、学校教育をよりよくしていくための方策について一緒に考えてみましょう。
到達目標	①教育を受ける権利を保障する公教育制度の原理と法規について理解している。 ②教育制度の下で展開される教育行政および学校経営の特徴と現代的課題について理解している。 ③国内外の改革動向を踏まえながら、望ましい教育制度の在り方に関する自分の考えを表現できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション	課題①、テキスト28-39頁
	2	教育法規の体系	課題②、テキスト10-21頁
	3	公教育の概念と原理	課題③、テキスト22-27頁
	4	義務教育制度の特徴と課題	課題④、テキスト40-50頁
	5	教育における国の役割	課題⑤、テキスト51-64頁
	6	教育における地方公共団体の役割	課題⑥、テキスト65-77頁
	7	教育費をめぐる日本の特徴と課題	課題⑦、テキスト78-93頁
	8	社会の変化と学校教育の理念	課題⑧、テキスト94-103頁
	9	教育課程の制度とマネジメント	課題⑨、テキスト104-121頁
	10	学校経営と校長の役割	課題⑩、テキスト104-121頁
	11	学校経営改革の進展と特徴	課題⑪、テキスト122-143頁
	12	学校・教員の日本の特徴と現代的課題に対応する改革の進展	課題⑫、テキスト156-167頁
	13	地域ともにある学校づくり	課題⑬、テキスト168-180頁
	14	子どもの安全・安心を守る学校づくり	課題⑭、これまでの復習
15	まとめ・振り返り	課題⑮、試験準備	
16	定期試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ○テキスト：加藤崇英・臼井智美編著（2020）『教育の制度と学校のマネジメント』時事通信社。 ○参考文献：『解説教育六法』など教育に関する法規を確認できる書籍（出版社は問わない）、窪田眞二・小川友次（2021）『教育法規便覧（令和3年度版）』学陽書房。 ○資料など：各授業回のテーマに関連した文部科学省、沖縄県教育委員会等のウェブページを参照すること。
-------	--

学びの実践	学びの手立て ○テキストは必ず購入すること。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○各授業において事後課題としてリフレクション課題を、また事前課題としてテキストの該当ページの精読を課す。授業外の学習時間をしっかりと確保し、授業に臨むこと。 ○授業時にはスライドを写すのではなく、「聴く・考える・議論する」に注力すること。
-------	---

学びの実践	評価 到達目標に即して、講義で取り扱ったテーマに関する知識・理解度と思考力・表現力・判断力を確かめるために、定期試験（筆記）65%と授業内課題（リフレクション課題や授業内ディスカッションなど）35%で評価を行う。なお、出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験を認めない。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目は、学校教育の骨格について学ぶ入門的科目である。ここでの学びを支えにしながら、教師としての資質・能力を高めるべく、教科教育法をはじめとした各種の実践に即した教職課程科目の学びを深めてもらいたい。また履修後も、常に教育をめぐる制度や政策のニュースにアンテナを高くし、関心と自分なりの意見を持つように心がけることを期待している。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の制度	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	照屋 翔大	1年	研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本の学校教育の基盤となる諸制度について、それらの制度を成り立たせている法規と法規を基に展開される教育行政、さらに制度の下で展開される学校現場の取組に目を向けながら、その特徴と現代的課題について考える。	教育の制度のあり様は、教育を受ける権利や学びの保障という点で重要であるだけでなく、教師にとっては自らの仕事の在り方を決定つけます。教育、特に学校教育の現状に対して「そもそも」を問いながら、学校教育をよりよくしていくための方策について一緒に考えてみましょう。
到達目標	①教育を受ける権利を保障する公教育制度の原理と法規について理解している。 ②教育制度の下で展開される教育行政および学校経営の特徴と現代的課題について理解している。 ③国内外の改革動向を踏まえながら、望ましい教育制度の在り方に関する自分の考えを表現できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション	課題①、テキスト28-39頁
2	教育法規の体系	課題②、テキスト10-21頁	
3	公教育の概念と原理	課題③、テキスト22-27頁	
4	義務教育制度の特徴と課題	課題④、テキスト40-50頁	
5	教育における国の役割	課題⑤、テキスト51-64頁	
6	教育における地方公共団体の役割	課題⑥、テキスト65-77頁	
7	教育費をめぐる日本の特徴と課題	課題⑦、テキスト78-93頁	
8	社会の変化と学校教育の理念	課題⑧、テキスト94-103頁	
9	教育課程の制度とマネジメント	課題⑨、テキスト104-121頁	
10	学校経営と校長の役割	課題⑩、テキスト104-121頁	
11	学校経営改革の進展と特徴	課題⑪、テキスト122-143頁	
12	学校・教員の日本の特徴と現代的課題に対応する改革の進展	課題⑫、テキスト156-167頁	
13	地域ともにある学校づくり	課題⑬、テキスト168-180頁	
14	子どもの安全・安心を守る学校づくり	課題⑭、これまでの復習	
15	まとめ・振り返り	課題⑮、試験準備	
16	定期試験		
テキスト・参考文献・資料など	○テキスト：加藤崇英・臼井智美編著（2020）『教育の制度と学校のマネジメント』時事通信社。 ○参考文献：『解説教育六法』など教育に関する法規を確認できる書籍（出版社は問わない）、窪田眞二・小川友次（2021）『教育法規便覧（令和3年度版）』学陽書房。 ○資料など：各授業回のテーマに関連した文部科学省、沖縄県教育委員会等のウェブページを参照すること。		
学びの手立て	○テキストは必ず購入すること。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○各授業において事後課題としてリフレクション課題を、また事前課題としてテキストの該当ページの精読を課す。授業外の学習時間をしっかりと確保し、授業に臨むこと。 ○授業時にはスライドを写すのではなく、「聴く・考える・議論する」に注力すること。		
評価	到達目標に即して、講義で取り扱ったテーマに関する知識・理解度と思考力・表現力・判断力を確かめるために、定期試験（筆記）65%と授業内課題（リフレクション課題や授業内ディスカッションなど）35%で評価を行う。なお、出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験を認めない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目は、学校教育の骨格について学ぶ入門的科目である。ここでの学びを支えにしながら、教師としての資質・能力を高めるべく、教科教育法をはじめとした各種の実践に即した教職課程科目の学びを深めてもらいたい。また履修後も、常に教育をめぐる制度や政策のニュースにアンテナを高くし、関心と自分なりの意見を持つように心がけることを期待している。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の制度	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	照屋 翔大	1年	研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本の学校教育の基盤となる諸制度について、それらの制度を成り立たせている法規と法規を基に展開される教育行政、さらに制度の下で展開される学校現場の取組に目を向けながら、その特徴と現代的課題について考える。	教育の制度のあり様は、教育を受ける権利や学びの保障という点で重要であるだけでなく、教師にとっては自らの仕事の在り方を決定づけます。教育、特に学校教育の現状に対して「そもそも」を問いながら、学校教育をよりよくしていくための方策について一緒に考えてみましょう。
到達目標	①教育を受ける権利を保障する公教育制度の原理と法規について理解している。 ②教育制度の下で展開される教育行政および学校経営の特徴と現代的課題について理解している。 ③国内外の改革動向を踏まえながら、望ましい教育制度の在り方に関する自分の考えを表現できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション	課題①、テキスト28-39頁
	2	教育法規の体系	課題②、テキスト10-21頁
	3	公教育の概念と原理	課題③、テキスト22-27頁
	4	義務教育制度の特徴と課題	課題④、テキスト40-50頁
	5	教育における国の役割	課題⑤、テキスト51-64頁
	6	教育における地方公共団体の役割	課題⑥、テキスト65-77頁
	7	教育費をめぐる日本の特徴と課題	課題⑦、テキスト78-93頁
	8	社会の変化と学校教育の理念	課題⑧、テキスト94-103頁
	9	教育課程の制度とマネジメント	課題⑨、テキスト104-121頁
	10	学校経営と校長の役割	課題⑩、テキスト104-121頁
	11	学校経営改革の進展と特徴	課題⑪、テキスト122-143頁
	12	学校・教員の日本の特徴と現代的課題に対応する改革の進展	課題⑫、テキスト156-167頁
	13	地域ともにある学校づくり	課題⑬、テキスト168-180頁
	14	子どもの安全・安心を守る学校づくり	課題⑭、これまでの復習
15	まとめ・振り返り	課題⑮、試験準備	
16	定期試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ○テキスト：加藤崇英・臼井智美編著（2020）『教育の制度と学校のマネジメント』時事通信社。 ○参考文献：『解説教育六法』など教育に関する法規を確認できる書籍（出版社は問わない）、窪田眞二・小川友次（2021）『教育法規便覧（令和3年度版）』学陽書房。 ○資料など：各授業回のテーマに関連した文部科学省、沖縄県教育委員会等のウェブページを参照すること。
-------	--

学びの実践	学びの手立て ○テキストは必ず購入すること。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○各授業において事後課題としてリフレクション課題を、また事前課題としてテキストの該当ページの精読を課す。授業外の学習時間をしっかりと確保し、授業に臨むこと。 ○授業時にはスライドを写すのではなく、「聴く・考える・議論する」に注力すること。
-------	---

学びの実践	評価 到達目標に即して、講義で取り扱ったテーマに関する知識・理解度と思考力・表現力・判断力を確かめるために、定期試験（筆記）65%と授業内課題（リフレクション課題や授業内ディスカッションなど）35%で評価を行う。なお、出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験を認めない。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目は、学校教育の骨格について学ぶ入門的科目である。ここでの学びを支えにしながら、教師としての資質・能力を高めるべく、教科教育法をはじめとした各種の実践に即した教職課程科目の学びを深めてもらいたい。また履修後も、常に教育をめぐる制度や政策のニュースにアンテナを高くし、関心と自分なりの意見を持つように心がけることを期待している。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の制度	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	照屋 翔大	1年	研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本の学校教育の基盤となる諸制度について、それらの制度を成り立たせている法規と法規を基に展開される教育行政、さらに制度の下で展開される学校現場の取組に目を向けながら、その特徴と現代的課題について考える。</p>	<p>教育の制度のあり様は、教育を受ける権利や学びの保障という点で重要であるだけでなく、教師にとっては自らの仕事の在り方を決定つけます。教育、特に学校教育の現状に対して「そもそも」を問いながら、学校教育をよりよくしていくための方策について一緒に考えてみましょう。</p>
到達目標	<p>①教育を受ける権利を保障する公教育制度の原理と法規について理解している。 ②教育制度の下で展開される教育行政および学校経営の特徴と現代的課題について理解している。 ③国内外の改革動向を踏まえながら、望ましい教育制度の在り方に関する自分の考えを表現できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション	課題①、テキスト28-39頁
	2	教育法規の体系	課題②、テキスト10-21頁
	3	公教育の概念と原理	課題③、テキスト22-27頁
	4	義務教育制度の特徴と課題	課題④、テキスト40-50頁
	5	教育における国の役割	課題⑤、テキスト51-64頁
	6	教育における地方公共団体の役割	課題⑥、テキスト65-77頁
	7	教育費をめぐる日本の特徴と課題	課題⑦、テキスト78-93頁
	8	社会の変化と学校教育の理念	課題⑧、テキスト94-103頁
	9	教育課程の制度とマネジメント	課題⑨、テキスト104-121頁
	10	学校経営と校長の役割	課題⑩、テキスト104-121頁
	11	学校経営改革の進展と特徴	課題⑪、テキスト122-143頁
	12	学校・教員の日本の特徴と現代的課題に対応する改革の進展	課題⑫、テキスト156-167頁
	13	地域ともにある学校づくり	課題⑬、テキスト168-180頁
	14	子どもの安全・安心を守る学校づくり	課題⑭、これまでの復習
15	まとめ・振り返り	課題⑮、試験準備	
16	定期試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テキスト：加藤崇英・臼井智美編著（2020）『教育の制度と学校のマネジメント』時事通信社。 ○参考文献：『解説教育六法』など教育に関する法規を確認できる書籍（出版社は問わない）、窪田眞二・小川友次（2021）『教育法規便覧（令和3年度版）』学陽書房。 ○資料など：各授業回のテーマに関連した文部科学省、沖縄県教育委員会等のウェブページを参照すること。
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テキストは必ず購入すること。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○各授業において事後課題としてリフレクション課題を、また事前課題としてテキストの該当ページの精読を課す。授業外の学習時間をしっかりと確保し、授業に臨むこと。 ○授業時にはスライドを写すのではなく、「聴く・考える・議論する」に注力すること。
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>到達目標に即して、講義で取り扱ったテーマに関する知識・理解度と思考力・表現力・判断力を確かめるために、定期試験（筆記）65%と授業内課題（リフレクション課題や授業内ディスカッションなど）35%で評価を行う。なお、出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験を認めない。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目は、学校教育の骨格について学ぶ入門的科目である。ここでの学びを支えにしながら、教師としての資質・能力を高めるべく、教科教育法をはじめとした各種の実践に即した教職課程科目の学びを深めてもらいたい。また履修後も、常に教育をめぐる制度や政策のニュースにアンテナを高くし、関心と自分なりの意見を持つように心がけることを期待している。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究 I	前期	金 5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	照屋 翔大	1年	研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	教職の特性について、歴史的・制度的・実践的な観点から迫り、教職の意義や教員の役割・職務内容についての理解を深め、自身の教職に対する適性の省察を促すことを目的とする。	「教師になりたい」そのような夢を抱いて、本科目を履修することだと思います。しかし、私たちはまだ、教師という仕事について深く理解しているわけではありません。この授業を通して、教師という仕事を広い視野で捉え理解し、「教師になりたい」を夢ではなく、明確な目標にしていきたいと思います。
到達目標	①沖縄国際大学における教職課程の構造と履修の道筋を理解している。 ②教員の職務内容（服務含む）とその社会的役割や意義、また現代の変容について説明することができる。 ③教員の養成—採用—研修という一連の力量形成プロセスの内容について説明することができる。 ④自身の教職に対する適性を省察し、免許取得に向けた見通しを持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション（教師を目指すということ）	リフレクション課題①
	2	教職という仕事の特徴	リフレクション課題②
	3	教員に求められる資質・能力	リフレクション課題③
	4	教員養成の仕組み	リフレクション課題④
	5	教員の採用と服務	リフレクション課題⑤
	6	教員の研修制度	リフレクション課題⑥
	7	まとめ：よい教師の条件	リフレクション課題⑦
	8	定期試験	
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ○テキスト：特に使用しない。オンライン（Teams）にて講義資料を配付する。 ○参考文献：小島弘道他著『教師の条件—改訂新版：授業と学校をつくる力』学文社、2020年。その他、講義内で適宜紹介する。 ○資料など：本学作成の『履修ガイド』、文部科学省や県教育委員会のホームページ、授業内で紹介した書籍や答申など。
-------	---

学びの手立て	○受講人数によって、2グループに分けて授業を実施する。授業日程を初回授業時までにポータルにて告知するので、確認を忘れないこと。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能であれば、アプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。 ○授業外学習（予習・復習）の時間を必ず確保し、内容理解に努めること。
--------	---

評価	到達目標に即して、講義で取り扱ったテーマに関する知識・理解度と思考力・表現力・判断力を確かめるために、第8回目に実施する定期試験（筆記）65%と授業内課題（リフレクション課題や授業内ディスカッションなど）35%で評価を行う。なお、①公欠に該当しない欠席が3回以上あるいは②リフレクション課題未提出が3回以上のいずれかに該当した場合は、定期試験の受験を認めず、不可とする。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目は、沖縄国際大学で教員免許を取得するために設けられた「履修階梯」の最初の科目です。この科目の単位修得があって、次の段階の科目である「教育の思想と原則」「進路指導・生徒指導」の履修に進むことができます。また本科目は、3年次科目「教職論Ⅱ」（または「教職研究Ⅱ」）につながっています。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義は、本学の養成する教員像を理解し求められる資質能力を身につけるための具体的な行動が起こせるようになる科目です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究 I	前期	火 5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、教職課程履修階梯の入り口に当たり、他の受講生とのグループワークや先輩との関わりを通じて、教職課程履修について具体的に学び、学問的立場から教師の仕事および教職につくということの理解を深めるための科目です。講義を通じて青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察することももくろんでいます。</p>	<p>教職課程履修への不安や疑問は誰にでもあります。1人で悩んで「正解」を出す必要も失敗を恐れる必要もありません。他の受講生や教職の先輩とディスカッションを通じてたくさんの考えを共有しながら教職課程を始めましょう。なお、本講義はスクールカウンセラーを始めとする諸領域での担当教員の臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①4年間の教職課程履修の道筋を理解し、大まかな計画が立てられる。 ②教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を起こす。 ③大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を起こす。 ④大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができるようになる。 ⑤青年期の発達と進路選択の観点から教職について考察することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 教師を目指すために必要なもの（グループワークを含む）	シラバスを読み内容を理解する
	2	教員に求められる資質能力①教員に求められる資質能力をふまえた大学教職課程の成り立ち（〃）	講義内指示の課題①
	3	教員に求められる資質能力② 教員養成の歴史と諸外国の教員養成（〃）	講義内指示の課題②
	4	学教員に求められる資質能力③ 青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察する（〃）	講義内指示の課題③
	5	教員に求められる資質能力④ 学問の基礎（〃）	講義内指示の課題④
	6	教師になるということ～映画に見る教師像（〃）	講義内指示の課題⑤
	7	教師に求められる倫理（〃）	講義内指示の課題⑥
	8	まとめ・振り返り（〃）	講義内指示の課題⑦
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。講義の中で適宜配付する資料や、各自が文科省や県教育委員会HP等からダウンロードした資料を活用する。参考書等は講義内で指示する。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①予習・復習は必須です。 ②グループディスカッションが苦手でも、社交的でなくとも結構です。講義のために工夫された方法を用いて実践するうちにやり方が身に着きます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記①～④は成績評価に反映します。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 20% ②最終レポート … 80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」①～⑤がどの程度できているかを評価します。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得すると、本学の履修階梯に沿って、「進路指導・生活指導」「教育の思想と原則」などに進むことができます。履修階梯上、この科目は全ての基礎となるスタート科目であり、単位取得が遅れると半期、1年単位で教育実習や免許取得が遅れていきますので注意して下さい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義は、本学の養成する教員像を理解し求められる資質能力を身につけるための具体的な行動が起こせるようになる科目です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究 I	前期	水 5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、教職課程履修階梯の入り口に当たり、他の受講生とのグループワークや先輩との関わりを通じて、教職課程履修について具体的に学び、学問的立場から教師の仕事および教職につくというここの理解を深めるための科目です。講義を通じて青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察することももくろんでいます。</p>	<p>教職課程履修への不安や疑問は誰にでもあります。1人で悩んで正解を出す必要も、失敗を恐れる必要もありません。他の受講生や教職の先輩とディスカッションし、たくさんの考えを出し合いながら教職課程履修を始めましょう。なお、本講義はスクールカウンセラーを始めとする諸領域での担当教員の臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①4年間の教職課程履修の道筋を理解し、大まかな計画が立てられる。 ②教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を起こす。 ③大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を起こす。 ④大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができるようになる。 ⑤青年期の発達と進路選択の観点から教職について考察することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 教師を目指すために必要なもの（グループワークを含む）	シラバスを読んでくる
	2	教員に求められる資質能力①教員に求められる資質能力をふまえた大学教職課程の成り立ち（〃）	講義中に指示の課題①
	3	教員に求められる資質能力② 教員養成の歴史と諸外国の教員養成（〃）	講義中に指示の課題②
	4	教員に求められる資質能力③ 青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察する（〃）	講義中に指示の課題③
	5	教員に求められる資質能力④ 学問の基礎（〃）	講義中に指示の課題④
	6	教師として生きる～映画に見る教師像（〃）	講義中に指示の課題⑤
	7	教師に求められる倫理（〃）	講義中に指示の課題⑥
	8	まとめ・振り返り（〃）	講義中に指示の課題⑦
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。講義の中で適宜配布する資料や、各自が文科省や県教育委員会HP等からダウンロードした資料を活用する。 参考書等は講義中に指示する。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①予習・復習は必須です。 ②グループディスカッションが苦手でも、社交的でなくとも結構です。講義のために工夫された方法を用いて実践を重ねるうちに少しずつできるようになっていきます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記①～④は成績評価に反映します。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 20% ②最終レポート … 80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」①～⑤がどの程度できているかを評価します。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得すると、本学の履修階梯に沿って、「進路指導・生徒指導」「教育の思想と原則」などに進むことができます。履修階梯上、この科目は全ての基礎となるスタート科目であり、単位取得が遅れると半期、1年単位で教育実習や免許取得が遅れていきますので注意して下さい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の「教職の意義等に関する科目」（2単位）の内の初年次用を内容とする科目。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究 I	後期	月 5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	三村 和則	1年	5号館5階 5505室 mimura*okiu. ac. jp(*は半角@に変換します)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	教育職員免許法では「教職の意義等に関する科目」(2単位)の内容を①教職の意義及び教員の役割②進路選択に資する各種の機会の提供③教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)と定めている。この科目は教職課程初年時用に1単位として編成しており、①と②を主な内容としている。なお残りの1単位分は、3年次用に「教職研究Ⅱ」として開設している。	ようこそ、沖縄国際大学教職課程へ。 教員免許状取得希望者は必ずこの科目から受講してください。
到達目標	沖繩国際大学の教職課程の履修方法、教職課程カリキュラムの仕組みとその意義、現代社会で求められる教員の資質と能力ならびにわが国の教員養成の歴史と諸外国の教員養成制度についての知識・理解が身につく。現在の職業興味と教師を目指すために必要な課題についての自己認識が深まる。よい教師とは何かについての思考力・判断力が身につく。これらを通して教職課程を受講することへの関心・意欲・態度が形成される。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/先発・後発クラス分け/課題レポート提示(なぜ、教師をめざすのか)	「なぜ、教師をめざすのか」書く☆
	2	教職課程の履修方法について(『履修ガイド』の解説)1 教職に関する科目、他	『履修ガイド』教職課程の章精読
	3	教職課程の履修方法について(『履修ガイド』の解説)2 教科に関する科目、その他の指定科目、他	同上、履修計画作成☆
	4	教員養成カリキュラム改編の背景と今日の教師に求められる資質と能力	資料2015年答申とpp. 6-9精読
	5	教職実践演習とその到達目標について/教職適性検査(V P I 職業興味検査と自己判定)	資料2006年答申とpp. 10-11精読
	6	教員養成の歴史(戦前の閉鎖制養成と戦後の開放制養成)、世界の教員養成	ライフプラン作成☆、pp. 12-15精読
	7	履修カルテについて/よい教師への道1 履修計画、ライフプラン、なぜ教師をめざすのか	祖父母又は曾祖父母の学校調べ
	8	よい教師への道2 公務員と教員、自主研修/課題レポート提示(再び、なぜ教師をめざすのか)	資料合格体験記とpp. 25-34精読
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト：①『履修ガイド』。②配付する資料集。</p> <p>主要参考文献：①上地・西本編『沖縄で教師をめざす人のために』協同出版、2015年。②赤星晋作他編著『学校教師の探求』学文社、2001年。③教養審第1次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」1997年。④中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」2006年。⑤中教審答申「これからの学教教育を担う教員の資質能力の向上について」2015年。</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>①履修の心構え：抽選の場合でも他のクラスで必ず受講できるようにするので、必ず相談に来ること。1単位科目なので8週で終了する。そのため受講者数の関係で、前期は先発クラスと後発クラスに分ける。先発クラスは4～6月、後発クラスは6～7月が受講期間の目安である。後期は先発クラスだけの開講となり、12月初旬に終了予定である。</p> <p>教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。</p> <p>②学びを深めるために：毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習を行うとよい。</p>

学びの実践	評価
	<p>提出物100%。5件提出物がある。最後の提出物（「再び、なぜ教師をめざすのか」）は必ず提出すること。まず、この提出物で仮の評定を決める。決め方は、8回の講義内容の要点となる用語の出現が6回分以上は優、4回分と5回分は良、3回分は可、2回分以下は不可とする。その後、この評定を他の4件の提出物の件数とクロスさせ最終の評定とする。4件の場合1ランク上、3件の場合そのまま、2件の場合1ランク下の評定とする。但し、1件以下の場合不可の評定とする。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示)。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>本学教職課程の「教職に関する科目」には「履修階梯」があり、その最初の科目がこの科目である。この科目を履修することで次の段階の科目である「教育の思想と原則」と「進路指導・生活指導」(2017年度以前の入学生は「教育心理学」)を受講することができる。「教職の意義等に関する科目」(2単位)の内、残りの1単位分については、3年次用科目として『教職研究Ⅱ』を開設している。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究Ⅱ	後期	月5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	照屋 翔大	3年	研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「教職論Ⅰ」（または「教職研究Ⅰ」）での学修の発展として、教師が学校現場で直面する具体的な課題についての検討を通して、教師の職務イメージを確立させ、教育実習への準備を整える。</p>	<p>学校における教育活動は、子どもたちの安全・安心がきちんと確保されていることで初めて成立します。彼らの安全・安心を脅かす具体的な事例についてのグループワークやディスカッションを通じて、改めて「教師とは」という問いに対する答えを探究し、組織的に対処する教師のあり方について考えてみましょう。</p>
到達目標	<p>①現在の学校において教師が備えるべき専門性について理解している。 ②信頼される教師・学校であるために必要な法制度と法令遵守（スクール・コンプライアンス）について理解している。 ③子どもの安全・安心を脅かす危機を理解し、それらに対する組織的対応のあり方について考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション	リフレクション課題①
	2	教職の専門性	リフレクション課題②
	3	学校組織の一員としての教師	リフレクション課題③
	4	安全・安心な学校づくりの課題（1）危機管理マニュアル、不審者対策	リフレクション課題④
	5	安全・安心な学校づくりの課題（2）いじめ、不登校、児童虐待	リフレクション課題⑤
	6	安全・安心な学校づくりの課題（3）感染症、食物アレルギー	リフレクション課題⑥
	7	安全・安心な学校づくりの課題（4）体罰・部活動の課題	リフレクション課題⑦
	8	まとめ・振り返り	最終レポートの作成
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>○テキスト：テキストは使用しない。講義に必要な資料等については、各授業回において配付あるいは入手の指示をする。 ○参考文献：小島弘道他（2020）『教師の条件（改訂新版）—授業と学校をつくる力』学文社、加藤崇英・臼井智美編著（2018）『教育の制度と学校のマネジメント』時事通信社、大阪教育大学附属池田小学校（2017）『学校における安全教育・危機管理ガイド—あらゆる危険から子供たちを守るために』東洋館出版社。その他、各授業回においてテーマに関連する図書や資料を紹介する。</p>
----	--

学びの手立て	<p>○受講人数によって、2グループに分けて授業を実施する。授業日程を初回授業時までにポータルにて告知するので、確認を忘れないこと。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。グループでの活動が主となるので、無断欠席はもちろん他のメンバーに迷惑をかけることがないよう、良識をもって授業に臨むこと。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○教育実習前の科目になるので、「実習校では」ということを考えながら課題に取り組むこと。</p>
--------	--

評価	<p>授業内課題（リフレクション課題やグループワークへの取り組みなど）60%と最終レポート40%で評価を行う。なお、①公欠に該当しない欠席が3回以上あるいは②リフレクション課題未提出が3回以上のいずれかに該当した場合は、成績評価を「不可」とする。また、課題への取り組みが到達目標に照らして十分でない判断される場合や、無断欠席および遅刻については厳重に対処する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この講義を踏まえて、教育実習に臨むことになる。学校教育には常に潜在的なリスクが存在するが、その解決に向けた考え方は多様であり、他の教職員あるいは保護者、地域住民等と合意形成そして役割分担を図る必要がある。本講義で扱った各テーマはもとより、グループワークを通じて得た経験を教育実習さらには教職キャリアのなかで活かしてほしい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究Ⅱ	前期	月6	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	照屋 翔大	3年	研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「教職論Ⅰ」（または「教職研究Ⅰ」）での学修の発展として、教師が学校現場で直面する具体的な課題についての検討を通して、教師の職務イメージを確立させ、教育実習への準備を整える。</p>	<p>学校における教育活動は、子どもたちの安全・安心がきちんと確保されていることで初めて成立します。彼らの安全・安心を脅かす具体的な事例についてのグループワークやディスカッションを通じて、改めて「教師とは」という問いに対する答えを探究し、組織的に対処する教師のあり方について考えてみましょう。</p>
到達目標	<p>①現在の学校において教師が備えるべき専門性について理解している。 ②信頼される教師・学校であるために必要な法制度と法令遵守（スクール・コンプライアンス）について理解している。 ③子どもの安全・安心を脅かす危機を理解し、それらに対する組織的対応のあり方について考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション	リフレクション課題①
	2	教職の専門性	リフレクション課題②
	3	学校組織の一員としての教師	リフレクション課題③
	4	安全・安心な学校づくりの課題（1）危機管理マニュアル、不審者対策	リフレクション課題④
	5	安全・安心な学校づくりの課題（2）いじめ、不登校、児童虐待	リフレクション課題⑤
	6	安全・安心な学校づくりの課題（3）感染症、食物アレルギー	リフレクション課題⑥
	7	安全・安心な学校づくりの課題（4）体罰・部活動の課題	リフレクション課題⑦
	8	まとめ・振り返り	最終レポートの作成
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>○テキスト：テキストは使用しない。講義に必要な資料等については、各授業回において配付あるいは入手の指示をする。 ○参考文献：小島弘道他（2020）『教師の条件（改訂新版）—授業と学校をつくる力』学文社、加藤崇英・臼井智美編著（2018）『教育の制度と学校のマネジメント』時事通信社、大阪教育大学附属池田小学校（2017）『学校における安全教育・危機管理ガイド—あらゆる危険から子供たちを守るために』東洋館出版社。その他、各授業回においてテーマに関連する図書や資料を紹介する。</p>
----	--

学びの手立て	<p>○受講人数によって、2グループに分けて授業を実施する。授業日程を初回授業時までにポータルにて告知するので、確認を忘れないこと。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。グループでの活動が主となるので、無断欠席はもちろん他のメンバーに迷惑をかけることがないよう、良識をもって授業に臨むこと。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○教育実習前の科目になるので、「実習校では」ということを考えながら課題に取り組むこと。</p>
--------	--

評価	<p>授業内課題（リフレクション課題やグループワークへの取り組みなど）60%と最終レポート40%で評価を行う。なお、①公欠に該当しない欠席が3回以上あるいは②リフレクション課題未提出が3回以上のいずれかに該当した場合は、成績評価を「不可」とする。また、課題への取り組みが到達目標に照らして十分でない判断される場合や、無断欠席および遅刻については厳重に対処する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この講義を踏まえて、教育実習に臨むことになる。学校教育には常に潜在的なリスクが存在するが、その解決に向けた考え方は多様であり、他の教職員あるいは保護者、地域住民等と合意形成そして役割分担を図る必要がある。本講義で扱った各テーマはもとより、グループワークを通じて得た経験を教育実習さらには教職キャリアのなかで活かしてほしい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職実践演習（中・高）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収、他	4年	科目全体に関しては教職課程主任か学務課、個別の内容は担当者に直接問合わせること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	教職課程における四年間の学びを発展的に振り返ることで、これまで培ってきた数々の学習知・実践知の統合をはかる。また、授業全体を通じ、受講者相互の協力・協働を前提とした課題設定を行うことで、社会性や対人関係能力をはかる。	本学では15回の講義を、「教科外活動研究」「授業実践研究」「教育科学研究」の3つの領域に分けて、それぞれ別の担当者が5回分ずつの授業を担当する。クラス編成や講義の詳細については、5月に実施される「第2回教育実習オリエンテーション」の際に説明する。
到達目標	(1) 「特別活動演習」や教育実習での経験をふまえて、生徒理解や学級経営能力の錬成を図ることができる。 (2) 教育実習において析出された課題の克服をふまえて、授業の再実践ができる。 (3) 教育現場の現在および将来について、科学的に考察し、討議することができる。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1～5回 教科外活動研究 学級経営を中心とした教科外活動実践（学級通信作成、模擬学級行事の実践など）をおこなう。時間外学習として、当該パートで学んだことの復習、関連文献の講読、次のパートの予習をおこなう。基本的には、10月に集中講義の形式で開講する。 第6～10回 授業実践研究 問題点の改善をふまえた教育実習の研究授業の再実践をおこなう。時間外学習として、当該パートで学んだことの復習、関連文献の講読、次のパートの予習をおこなう。原則として、11月から12月にかけて、通常講義の形式で開講するが、担当教員や教室の関係で、集中講義形式となる場合がある。 第11～15回 教育科学研究 教育実習をふまえて、教育現場の現在および将来に関する問題（いじめ、不登校、教育政策、学力問題など）について、科学的に考察し、討議する。時間外学習として、当該パートで学んだことの復習、関連文献の講読、各パートのまとめをおこなう。原則として12月から2月にかけて、通常講義また集中講義の形式で開講する。
	テキスト・参考文献・資料など テキストや参考文献については、クラス担当教員が授業中に指示、紹介する。
	学びの手立て ① 本講義は必修科目であるので、教育実習を終えても、本講義の単位が修得できなければ、教員免許は取得できない。 ② 教職課程の「集大成」としての位置づけがなされる授業であるので、教育実習を含め、これまでの学びの成果を総動員することが不可欠である。 ③ 日常的に教育や子どもを取り巻く社会状況について、強く関心を持つことが重要である。
評価	クラス担当教員三者がそれぞれ100点で評価したものを、合算し、100点に換算した結果に基づき、総合的に評価する。なお、それぞれの領域ごとの評価基準、評価方法については、担当者より説明がある。

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目は、教職課程の最終段階に位置づけられる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職論 I	前期	金 5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	照屋 翔大	1年	研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>教職の特性について、歴史的・制度的・実践的な観点から迫り、教職の意義や教員の役割・職務内容についての理解を深め、自身の教職に対する適性の省察を促すことを目的とする。</p>	<p>「教師になりたい」そのような夢を抱いて、本科目を履修することだと思います。しかし、私たちはまだ、教師という仕事について深く理解しているわけではありません。この授業を通して、教師という仕事を広い視野で捉え理解し、「教師になりたい」を夢ではなく、明確な目標にしていきたいと思います。</p>
	到達目標	
	<p>①沖縄国際大学における教職課程の構造と履修の道筋を理解している。 ②教員の職務内容（服務含む）とその社会的役割や意義、また現代の変容について説明することができる。 ③教員の養成—採用—研修という一連の力量形成プロセスの内容について説明することができる。 ④自身の教職に対する適性を省察し、免許取得に向けた見通しを持つことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション（教師を目指すということ）	リフレクション課題①
	2	教職という仕事の特徴	リフレクション課題②
	3	教員に求められる資質・能力	リフレクション課題③
	4	教員養成の仕組み	リフレクション課題④
	5	教員の採用と服務	リフレクション課題⑤
	6	教員の研修制度	リフレクション課題⑥
	7	まとめ：よい教師の条件	リフレクション課題⑦
	8	定期試験	
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テキスト：特に使用しない。オンライン（Teams）にて講義資料を配付する。 ○参考文献：小島弘道他著『教師の条件—改訂新版：授業と学校をつくる力』学文社、2020年。その他、講義内で適宜紹介する。 ○資料など：本学作成の『履修ガイド』、文部科学省や県教育委員会のホームページ、授業内で紹介した書籍や答申など。
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○受講人数によって、2グループに分けて授業を実施する。授業日程を初回授業時までにポータルにて告知するので、確認を忘れないこと。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能であれば、アプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。 ○授業外学習（予習・復習）の時間を必ず確保し、内容理解に努めること。
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>到達目標に即して、講義で取り扱ったテーマに関する知識・理解度と思考力・表現力・判断力を確かめるために、第8回目に実施する定期試験（筆記）65%と授業内課題（リフレクション課題や授業内ディスカッションなど）35%で評価を行う。なお、①公欠に該当しない欠席が3回以上あるいは②リフレクション課題未提出が3回以上のいずれかに該当した場合は、定期試験の受験を認めず、不可とする。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目は、沖縄国際大学で教員免許を取得するために設けられた「履修階梯」の最初の科目です。この科目の単位修得があって、次の段階の科目である「教育の思想と原則」「進路指導・生徒指導」の履修に進むことができます。また本科目は、3年次科目「教職論Ⅱ」（または「教職研究Ⅱ」）につながっています。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職論Ⅰ	後期	月5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	三村 和則	1年	5号館5階 5505室 mimura*okiu. ac. jp(*は半角@に変換します)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、①教職の意義、②教員の役割・資質能力、③職務内容、④チーム学校への対応等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解する。この科目は教職課程初年次用科目として①と②を主な内容としている。なお③と④は、3年次用の「教職論Ⅱ」で履修する。	ようこそ、沖縄国際大学教職課程へ。 教員免許状取得希望者は必ずこの科目から受講してください。
到達目標	沖繩国際大学の教職課程の履修方法、教職課程カリキュラムの仕組みとその意義、現代社会で求められる教員の資質と能力ならびにわが国の教員養成の歴史と諸外国の教員養成制度についての知識・理解が身につく。現在の職業興味と教師を目指すために必要な課題についての自己認識が深まる。よい教師とは何かについての思考力・判断力が身につく。これらを通して教職課程を受講することへの関心・意欲・態度が形成される。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/先発・後発クラス分け/課題レポート提示(「なぜ、教師をめざすのか」)	「なぜ、教師をめざすのか」書く☆
	2	教職課程の履修方法について(『履修ガイド』の解説) 1 教育の基礎的理解に関する科目等、他	『履修ガイド』教職課程の章精読
	3	同上2 教科及び教科の指導法に関する科目、その他の指定科目、他	同上、履修計画作成☆
	4	教員養成カリキュラム改編の背景と今日の教師に求められる資質と能力	資料2015年答申とpp. 6-9精読
	5	教職実践演習とその到達目標について/教職適性検査(V P I 職業興味検査と自己判定)	資料2006年答申とpp. 10-11精読
	6	教員養成の歴史(戦前の閉鎖制養成と戦後の開放制養成)、世界の教員養成	ライフプラン作成☆、pp. 12-15精読
	7	履修カルテについて/よい教師への道 1 履修計画、ライフプラン、なぜ、教師をめざすのか	祖父母又は曾祖父母の学校調べ
	8	同上2 公務員と教員、自主研修/課題レポート提示(「再び、なぜ教師をめざすのか」)	資料合格体験記とpp. 25-34精読
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など
①履修の心構え：抽選の場合でも他のクラスで必ず受講できるようにするので、必ず相談に来ること。1単位科目なので8週で終了する。そのため受講者数の関係で、前期は先発クラスと後発クラスに分ける。先発クラスは4～6月、後発クラスは6～7月が受講期間の目安である。後期は先発クラスだけの開講となり、12月初旬に終了予定である。 教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②学びを深めるために：毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習を行うとよい。	テキスト：①『履修ガイド』。②配付する資料集。 主要参考文献：①上地・西本編『沖縄で教師をめざす人のために』協同出版、2015年。②赤星晋作他編著『学校教師の探求』学文社、2001年。③教養審第1次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」1997年。④中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」2006年。⑤中教審答申「これからの学教教育を担う教員の資質能力の向上について」2015年。

評価	提出物100%。5件提出物がある。最後の提出物(「再び、なぜ教師をめざすのか」)は必ず提出すること。まず、この提出物で仮の評定を決める。決め方は、8回の講義内容の要点となる用語の出現が6回分以上は優、4回分と5回分は良、3回分は可、2回分以下は不可とする。その後、この評定を他の4件の提出物の件数とクロスさせ最終の評価とする。4件の場合1ランク上、3件の場合そのまま、2件の場合1ランク下の評定とする。但し、1件以下の場合不可の評定とする。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示)。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本学教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」には「履修階梯」があり、その最初の科目がこの科目である。この科目を履修して次の段階の科目である「教育の思想と原則」と「進路指導・生徒指導」を受講することができる。教職の意義及び教員の役割・職務内容に係る科目(2単位)の内、残りの1単位分については、3年次用科目として「教職論Ⅱ」を開講している。

※ポリシーとの関連性

本講義は、本学の養成する教員像を理解し求められる資質能力を身につけるための具体的な行動が起こせるようになる科目です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職論 I	前期	火 5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、教職課程履修階梯の入り口に当たり、他の受講生とのグループワークや先輩との関わりを通じて、教職課程履修について具体的に学び、学問的立場から教師の仕事および教職につくということの理解を深めるための科目です。講義を通じて青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察することももくろんでいます。</p>	<p>教職課程履修への不安や疑問は誰にでもあります。1人で悩んで「正解」を出す必要も失敗を恐れる必要もありません。他の受講生や教職の先輩とディスカッションを通じてたくさんの考えを共有しながら教職課程を始めましょう。なお、本講義はスクールカウンセラーを始めとする諸領域での担当教員の臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①4年間の教職課程履修の道筋を理解し、大まかな計画が立てられる。 ②教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を起こす。 ③大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を起こす。 ④大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができるようになる。 ⑤青年期の発達と進路選択の観点から教職について考察することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 教師を目指すために必要なもの（グループワークを含む）	シラバスを読み内容を理解する
	2	教員に求められる資質能力①教員に求められる資質能力をふまえた大学教職課程の成り立ち（〃）	講義内指示の課題①
	3	教員に求められる資質能力② 教員養成の歴史と諸外国の教員養成（〃）	講義内指示の課題②
	4	学教員に求められる資質能力③ 青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察する（〃）	講義内指示の課題③
	5	教員に求められる資質能力④ 学問の基礎（〃）	講義内指示の課題④
	6	教師になるということ～映画に見る教師像（〃）	講義内指示の課題⑤
	7	教師に求められる倫理（〃）	講義内指示の課題⑥
	8	まとめ・振り返り（〃）	講義内指示の課題⑦
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。講義の中で適宜配付する資料や、各自が文科省や県教育委員会HP等からダウンロードした資料を活用する。参考書等は講義内で指示する。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①予習・復習は必須です。 ②グループディスカッションが苦手でも、社交的でなくとも結構です。講義のために工夫された方法を用いて実践するうちにやり方が身に着きます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記①～④は成績評価に反映します。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 20% ②最終レポート … 80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」①～⑤がどの程度できているかを評価します。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得すると、本学の履修階梯に沿って、「進路指導・生活指導」「教育の思想と原則」などに進むことができます。履修階梯上、この科目は全ての基礎となるスタート科目であり、単位取得が遅れると半期、1年単位で教育実習や免許取得が遅れていきますので注意して下さい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義は、本学の養成する教員像を理解し求められる資質能力を身につけるための具体的な行動が起こせるようになる科目です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職論 I	前期	水 5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、教職課程履修階梯の入り口に当たり、他の受講生とのグループワークや先輩との関わりを通じて、教職課程履修について具体的に学び、学問的立場から教師の仕事および教職につくというこゝの理解を深めるための科目です。講義を通じて青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察することもくろんでいます。</p>	<p>教職課程履修への不安や疑問は誰にでもあります。1人で悩んで正解を出す必要も、失敗を恐れる必要もありません。他の受講生や教職の先輩とディスカッションし、たくさんの考えを出し合いながら教職課程履修を始めましょう。なお、本講義はスクールカウンセラーを始めとする諸領域での担当教員の臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①4年間の教職課程履修の道筋を理解し、大まかな計画が立てられる。 ②教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を起こす。 ③大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を起こす。 ④大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができるようになる。 ⑤青年期の発達と進路選択の観点から教職について考察することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 教師を目指すために必要なもの（グループワークを含む）	シラバスを読んでくる
	2	教員に求められる資質能力①教員に求められる資質能力をふまえた大学教職課程の成り立ち（〃）	講義中に指示の課題①
	3	教員に求められる資質能力② 教員養成の歴史と諸外国の教員養成（ 〃 ）	講義中に指示の課題②
	4	教員に求められる資質能力③ 青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察する（ 〃 ）	講義中に指示の課題③
	5	教員に求められる資質能力④ 学問の基礎（ 〃 ）	講義中に指示の課題④
	6	教師として生きる～映画に見る教師像（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑤
	7	教師に求められる倫理（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑥
	8	まとめ・振り返り（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑦
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。講義の中で適宜配布する資料や、各自が文科省や県教育委員会HP等からダウンロードした資料を活用する。 参考書等は講義中に指示する。</p>
----	--

学びの手立て	<p>①予習・復習は必須です。 ②グループディスカッションが苦手でも、社交的でなくとも結構です。講義のために工夫された方法を用いて実践を重ねるうちに少しずつできるようになっていきます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記①～④は成績評価に反映します。</p>
--------	--

評価	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 20% ②最終レポート … 80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」①～⑤がどの程度できているかを評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得すると、本学の履修階梯に沿って、「進路指導・生徒指導」「教育の思想と原則」などに進むことができます。履修階梯上、この科目は全ての基礎となるスタート科目であり、単位取得が遅れると半期、1年単位で教育実習や免許取得が遅れていきますので注意して下さい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職論Ⅱ	後期	月5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	照屋 翔大	3年	研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「教職論Ⅰ」（または「教職研究Ⅰ」）での学修の発展として、教師が学校現場で直面する具体的な課題についての検討を通して、教師の職務イメージを確立させ、教育実習への準備を整える。	学校における教育活動は、子どもたちの安全・安心がきちんと確保されていることで初めて成立します。彼らの安全・安心を脅かす具体的な事例についてのグループワークやディスカッションを通じて、改めて「教師とは」という問いに対する答えを探究し、組織的に対処する教師のあり方について考えてみましょう。
到達目標	①現在の学校において教師が備えるべき専門性について理解している。 ②信頼される教師・学校であるために必要な法制度と法令遵守（スクール・コンプライアンス）について理解している。 ③子どもの安全・安心を脅かす危機を理解し、それらに対する組織的対応のあり方について考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション	リフレクション課題①
	2	教職の専門性	リフレクション課題②
	3	学校組織の一員としての教師	リフレクション課題③
	4	安全・安心な学校づくりの課題（1）危機管理マニュアル、不審者対策	リフレクション課題④
	5	安全・安心な学校づくりの課題（2）いじめ、不登校、児童虐待	リフレクション課題⑤
	6	安全・安心な学校づくりの課題（3）感染症、食物アレルギー	リフレクション課題⑥
	7	安全・安心な学校づくりの課題（4）体罰・部活動の課題	リフレクション課題⑦
	8	まとめ・振り返り	最終レポートの作成
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など ○テキスト：テキストは使用しない。講義に必要な資料等については、各授業回において配付あるいは入手の指示をする。 ○参考文献：小島弘道他（2020）『教師の条件（改訂新版）—授業と学校をつくる力』学文社、加藤崇英・臼井智美編著（2018）『教育の制度と学校のマネジメント』時事通信社、大阪教育大学附属池田小学校（2017）『学校における安全教育・危機管理ガイド—あらゆる危険から子供たちを守るために』東洋館出版社。その他、各授業回においてテーマに関連する図書や資料を紹介する。
----	--

学びの手立て	○受講人数によって、2グループに分けて授業を実施する。授業日程を初回授業時までにポータルにて告知するので、確認を忘れないこと。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。グループでの活動が主となるので、無断欠席はもちろん他のメンバーに迷惑をかけることがないよう、良識をもって授業に臨むこと。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○教育実習前の科目になるので、「実習校では」ということを考えながら課題に取り組むこと。
--------	--

評価	授業内課題（リフレクション課題やグループワークへの取り組みなど）60%と最終レポート40%で評価を行う。なお、①公欠に該当しない欠席が3回以上あるいは②リフレクション課題未提出が3回以上のいずれかに該当した場合は、成績評価を「不可」とする。また、課題への取り組みが到達目標に照らして十分でない判断される場合や、無断欠席および遅刻については厳重に対処する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を踏まえて、教育実習に臨むことになる。学校教育には常に潜在的なリスクが存在するが、その解決に向けた考え方は多様であり、他の教職員あるいは保護者、地域住民等と合意形成そして役割分担を図る必要がある。本講義で扱った各テーマはもとより、グループワークを通じて得た経験を教育実習さらには教職キャリアのなかで活かしてほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職論Ⅱ	前期	月6	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	照屋 翔大	3年	研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「教職論Ⅰ」（または「教職研究Ⅰ」）での学修の発展として、教師が学校現場で直面する具体的な課題についての検討を通して、教師の職務イメージを確立させ、教育実習への準備を整える。	学校における教育活動は、子どもたちの安全・安心がきちんと確保されていることで初めて成立します。彼らの安全・安心を脅かす具体的な事例についてのグループワークやディスカッションを通じて、改めて「教師とは」という問いに対する答えを探究し、組織的に対処する教師のあり方について考えてみましょう。
到達目標	①現在の学校において教師が備えるべき専門性について理解している。 ②信頼される教師・学校であるために必要な法制度と法令遵守（スクール・コンプライアンス）について理解している。 ③子どもの安全・安心を脅かす危機を理解し、それらに対する組織的対応のあり方について考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション	リフレクション課題①
	2	教職の専門性	リフレクション課題②
	3	学校組織の一員としての教師	リフレクション課題③
	4	安全・安心な学校づくりの課題（1）危機管理マニュアル、不審者対策	リフレクション課題④
	5	安全・安心な学校づくりの課題（2）いじめ、不登校、児童虐待	リフレクション課題⑤
	6	安全・安心な学校づくりの課題（3）感染症、食物アレルギー	リフレクション課題⑥
	7	安全・安心な学校づくりの課題（4）体罰・部活動の課題	リフレクション課題⑦
	8	まとめ・振り返り	最終レポートの作成
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など ○テキスト：テキストは使用しない。講義に必要な資料等については、各授業回において配付あるいは入手の指示をする。 ○参考文献：小島弘道他（2020）『教師の条件（改訂新版）—授業と学校をつくる力』学文社、加藤崇英・臼井智美編著（2018）『教育の制度と学校のマネジメント』時事通信社、大阪教育大学附属池田小学校（2017）『学校における安全教育・危機管理ガイド—あらゆる危険から子供たちを守るために』東洋館出版社。その他、各授業回においてテーマに関連する図書や資料を紹介する。
----	--

学びの手立て	○受講人数によって、2グループに分けて授業を実施する。授業日程を初回授業時までにポータルにて告知するので、確認を忘れないこと。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。グループでの活動が主となるので、無断欠席はもちろん他のメンバーに迷惑をかけることがないよう、良識をもって授業に臨むこと。 ○本授業は対面で実施するが、講義資料の配付やリフレクション課題の提出はオンライン（Teams）で行う。初回授業時に設定等を確認するので、使用予定の情報端末（スマホ、タブレット、PC等）を持参すること。また可能な限り、事前にアプリケーションの設定等を済ませておくこと。 ○教育実習前の科目になるので、「実習校では」ということを考えながら課題に取り組むこと。
--------	--

評価	授業内課題（リフレクション課題やグループワークへの取り組みなど）60%と最終レポート40%で評価を行う。なお、①公欠に該当しない欠席が3回以上あるいは②リフレクション課題未提出が3回以上のいずれかに該当した場合は、成績評価を「不可」とする。また、課題への取り組みが到達目標に照らして十分でない判断される場合や、無断欠席および遅刻については厳重に対処する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を踏まえて、教育実習に臨むことになる。学校教育には常に潜在的なリスクが存在するが、その解決に向けた考え方は多様であり、他の教職員あるいは保護者、地域住民等と合意形成そして役割分担を図る必要がある。本講義で扱った各テーマはもとより、グループワークを通じて得た経験を教育実習さらには教職キャリアのなかで活かしてほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	憲法 I	通年	火 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-儀部 和歌子	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 教職を目指しているみなさんには、憲法の細かい知識よりも、「そもそも憲法とは何か」「なぜ教職を目指す人にとって憲法が必須科目なのか」「主権者であるということは具体的にどういうことなのか」「少数者の人権を保障するということは具体的にどういうことなのか」ということを実感していただくことが大切だと考えています。このような実感を目指した講義を行いたいと思います。	メッセージ 主権者として、また主権者を育てる教職に就く者として、将来、憲法に関わる問題を目の当たりにしたとき、みなさんがご自分の心と頭で判断できる手助けをしたいという気持ちがあります。そのため、できるだけ多くの情報を提供したいと考えています。また、多くの事例を考えることを通していわゆる「人権感覚」を掴んで頂けるようにしたいとも考えています。
	到達目標 「憲法とは何か」を正確に理解するとともに、社会に想起する様々な問題を憲法の視点から考えられるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	授業内容の復習
	2	日本国内や世界で起きている人権問題	同上(以下同じ)
	3	法とは何か	
	4	人権宣言の歴史	
	5	基本的人権の尊重（日本国憲法の基本原理①）	
	6	平和主義（日本国憲法基本原理②）	
	7	国民主権（日本国憲法基本原理③）	
	8	憲法とは何か	
	9	明治憲法と日本国憲法とコスタリカ憲法	
	10	憲法改正への動きについて	
	11	人権はだれに対して保障されているのか	
	12	人権を制約することは許されるか	
	13	新しい人権	
	14	不合理な差別とは①	
	15	不合理な差別とは②	
	16	前期復習テスト	
	17	思想良心の自由	
	18	信教の自由と政教分離原則	
	19	学問の自由	
	20	表現の自由①	
	21	表現の自由②	
	22	表現の自由③	
	23	職業選択の自由	
	24	生存権	
	25	教育を受ける権利～教育権の所在	
	26	働く人の権利	
	27	公権力のイメージ（映画視聴①）	
	28	公権力のイメージ（映画視聴②）	
	29	人身の自由と適正手続き	
30	シナリオによる刑事模擬裁判（@模擬法廷教室）		
31	試験		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しません。ただし、六法等、日本国憲法の条文が掲載されているものを必ず持参すること（講義中に指名して、条文を読んでいただくこともあります）。また、夏休み中のレポートに必要な書籍については、講義時に指示します。</p> <p>講義の理解を補うための参考文献は以下のとおり。（１）井端正幸・渡名喜庸安・中山忠克編『憲法と沖縄を問う』法律文化社 （２）伊藤真『高校生からわかる日本国憲法の論点』株式会社トランスビュー</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」</p> <p>受講時に指示がある際は、その都度、必ず憲法の該当条文を参照すること（そのために憲法の条文が掲載されているもの必ず持参してください）。後期に予定しているグループ討論では積極的に討論に参加すること。</p>
	<p>評価</p> <p>夏休み明けの前期復習試験（穴埋め筆記問題） 35%、夏休み中のレポート 20%、後期末試験（穴埋め筆記問題＋論述問題） 35%、講義態度（六法持参状況＋講義への参加態度） 10%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教育制度論</p>

※ポリシーとの関連性

本学の教員養成の目標1・2（採用当初から、教科等の専門的知識・技能を有し、実践的指導力のある教員）の養成。に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法演習Ⅰ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	メールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「国語科教育法Ⅰ」「国語科教育法Ⅱ」で学んだ、国語科学習指導の理念や教材研究の方法についての理解を深化させ、実際の授業ができるようになることを目標とする。また、授業実践者として常に学ぶ姿勢をもち、自らを省みる客観的な視点を持つことができることも目標とする。</p>	<p>中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育の基礎理論や学習者の実態を、指導案作成に反映できるよう解説する。教育実習における研究授業を想定した模擬授業を行う。教材を読み込み、実践論文などの文献に当たり、指導案を作成すること。</p>
到達目標	<p>①授業実践に応じた教材分析を十分にを行い、学習のねらいを明確にした指導案を作成することができる。 ②「学習目標達成」のための「言語活動」を取り入れた授業を構想し実践することができる。 ③情報機器の操作等に習熟し、授業実践に活用することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス（教材選択）	指導案作成	
	2	授業構築の実際について（講義①：教材分析方法）	指導案作成	
	3	授業構築の実際について（講義②：発問作成・学習者分析方法）	指導案作成・配布・リフレクション	
	4	模擬授業と研究討議について【読むこと・文学的文章教材（小説）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション	
	5	模擬授業と研究討議について【読むこと・文学的文章教材（随筆・韻文）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション	
	6	模擬授業と研究討議について【読むこと・説明的文章教材（説明文）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション	
	7	模擬授業と研究討議【読むこと・説明的文章教材（説論文・評論）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション	
	8	模擬授業と研究討議について【話すこと】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション	
	9	模擬授業と研究討議について【聞くこと】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション	
	10	模擬授業と研究討議について【書くこと（文学的文章）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション	
	11	模擬授業と研究討議について【書くこと（論理的文章・再現的文章）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション	
	12	模擬授業と研究討議について【我が国の言語文化に関する事項（古文）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション	
	13	模擬授業と研究討議について【我が国の言語文化に関する事項（漢文）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション	
	14	模擬授業と研究討議について【言葉の特徴や使い方に関する事項（文法・漢字）】情報機器活用	指導案作成・配布・リフレクション	
15	模擬授業と研究討議について【言葉の特徴や使い方に関する事項（言葉の特徴）】情報機器活用	リフレクション		
16	総括	リフレクション・最終提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 中学校・高等学校の国語教科書 『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 2017 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 2018 【参考文献】 授業中に適宜資料を配付する。</p>			
学びの手立て	<p>①「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得していること。 ②無断欠席・遅刻・途中退出は一切認めない。 ③2週間前には事前指導を受け、1週間前には指導案等を全員に配布すること。 ④模擬授業は、指導案の一部分を限定して授業すること。 特例授業を行う際は、Teamsにて実施します。</p>			
評価	<p>指導案の内容、取り組み状況（事前指導含む）、討論への参加状況（80%）、模擬授業の発表内容（20%）</p> <p>取り組み状況には、下記〆切り期日を含む。 発表2週間前・・・事前指導（1回） 発表1週間前・・・完成版配布</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目【上位科目】国語科教育法演習Ⅱ（4年次・前期） (2) 次のステージ 国語科教育法演習Ⅱでは、個人で学習指導案作成を行う。 教材の価値・学習者にとっての意味という視点に立った、実際の授業を想定した指導案作成の力が求められる。 【教員養成の目標との関連】1・2</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法演習Ⅰ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	3年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>教育実習における研究授業を想定した模擬授業をおこないます。前期の国語科教育法等でおこなった教材研究を応用しつつ、各自が担当する教材をもとに模擬授業をおこないます。教材研究を行うために必要な知見を深め、さらに基本的な授業実践力を身に付けることがねらいです。</p>	<p>・模擬授業担当者は、事前に教員の指導を受け、担当する回の1週間前に、教材研究資料、学習指導案（教材観・指導目標・指導計画・授業細案・発問計画・教材の分析等を含む）を配布したうえで模擬授業に臨んでください。・教職課程に関わる事務的な手続きをしっかりと行いましょう。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、授業実践に関する視点を意識した指導を行います。</p>
到達目標	<p>1 教材研究、学習指導案を踏まえた基本的な授業実践力を身に付ける。 2 模擬授業を振り返り、省察を繰り返すことで、指導技術の向上に資する授業実践の視点を身に付ける。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス	次時の資料の検討	
	2	国語科授業づくりの視点と工夫	次時の資料の検討	
	3	言語活動、アクティブラーニングと国語の学び、ICTの活用	次時の資料の検討	
	4	模擬授業と研究討議1（中学校 文学的文章教材「故郷」）読むこと	次時の資料の検討	
	5	模擬授業と研究討議2（中学校 説明的文章教材「モアイは語る」）読むこと	次時の資料の検討	
	6	模擬授業と研究討議3（中学校 音声言語表現教材「スピーチ」）話すこと聞くこと	次時の資料の検討	
	7	模擬授業と研究討議4（中学校 文章表現教材「鑑賞文を書く」）書くこと	次時の資料の検討	
	8	模擬授業と研究討議5（高等学校 文学的文章教材「とんかつ」）読むこと	次時の資料の検討	
	9	模擬授業と研究討議6（高等学校 説明的文章教材「水の東西」）読むこと	次時の資料の検討	
	10	模擬授業と研究討議7（高等学校 音声言語表現教材「意見を述べる」）話すこと聞くこと	次時の資料の検討	
	11	模擬授業と研究討議8（高等学校 文章表現教材「手紙を書く」）書くこと	次時の資料の検討	
	12	模擬授業と研究討議9（中学校 言語文化教材「竹取物語」）古文	次時の資料の検討	
	13	模擬授業と研究討議10（高等学校 言語文化教材「白水素女」）漢文	次時の資料の検討	
	14	模擬授業と研究討議11（中・高校共通 文学的文章教材「I was born」）韻文	次時の資料の検討	
15	模擬授業と研究討議12（中・高校共通 郷土教材「執心鐘入」）戯曲	次時の資料の検討		
16	総括	授業の振り返り		
実践	テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布します（熟読すること）。		
学びの手立て	<p>・模擬授業では授業記録をつけ、具体的な応答、指示、発問に対する反応、教師の動きなどをまとめておきましょう。 ・模擬授業者は、担当した授業後、リフレクションシートを作成し、次回提出してください。</p>			
評価	教材研究資料、学習指導案（40%）、模擬授業（40%）、授業態度、授業参加状況（20%）			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	国語科教育法演習Ⅱ、教育実習指導、教育実習A、教育実習B、教職実践演習

※ポリシーとの関連性

本学の教員養成の目標1・2（採用当初から、教科等の専門的知識・技能を有し、実践的指導力のある教員）の養成。に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法演習Ⅱ	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	4年	メールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国語科教育法等で行った教材研究を応用しつつ、各自が担当する教材をもとに指導案（教材観・指導目標・指導計画・授業細案・発問計画・教材の分析等を含む）を作成する。教育実習における研究授業を想定して模擬授業を行い、教材の価値・学習者にとっての意味という視点に立って質疑応答を行い、授業改善の方法を検討する。</p>	<p>中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育の基礎理論や学習者の実態を反映した学習デザインを解説する。履修前に実施するテストの合格者のみ、履修が認められる。教育実習における研究授業を想定した模擬授業を行う。発問の工夫・応答予想も具体的に考えること。</p>
到達目標	<p>指導目標を明確にした、学習指導案を作成することができる。 学習者の思考を促す発問と、予想される応答を考えることができる。 板書、ワークシートを工夫することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	指導案作成
	2	国語科授業の改善と工夫について（教科書分析）（講義）	指導案作成
	3	模擬授業と研究討議について【読むこと・文学的文章教材（小説）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	4	模擬授業と研究討議について【読むこと・文学的文章教材（随筆）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	5	模擬授業と研究討議について【読むこと・文学的文章教材（韻文）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	6	模擬授業と研究討議について【読むこと・説明的文章教材（説明文）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	7	模擬授業と研究討議について【読むこと・説明的文章教材（論説文）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	8	模擬授業と研究討議について【読むこと・説明的文章教材（評論）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	9	模擬授業と研究討議について【話すこと】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	10	模擬授業と研究討議について【聞くこと】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	11	模擬授業と研究討議について【書くこと（文学的文章）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	12	模擬授業と研究討議について【書くこと（論理的文章・再現的文章）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
	13	模擬授業と研究討議について【我が国の言語文化に関する事項（古文）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション
14	模擬授業と研究討議について【我が国の言語文化に関する事項（漢文）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション	
15	模擬授業と研究討議について【言葉の特徴や使い方に関する事項（文法・漢字）】情報機器の活用	指導案作成・配布・リフレクション	
16	模擬授業と研究討議について【言葉の特徴や使い方に関する事項（言葉の特徴）】情報機器の活用	リフレクション・最終提出	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 中学校・高等学校の国語教科書 『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 2017 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 2018 【参考文献】 授業中に適宜資料を配付する。</p>		
学びの手立て	<p>①「国語科教育法演習Ⅰ」の単位を修得していること。 ②無断欠席・遅刻・途中退出は一切認めない。 ③授業担当者は、指導案等について事前指導を受けること。 ④授業終了後、翌週までにリフレクションシートを作成し、Teams課題に提出すること。</p>		
評価	<p>指導案の内容、取り組み状況（事前指導含む）、討論への参加状況（80%）、模擬授業の発表内容（20%） 取り組み状況には、下記の期日厳守を含む。 2週間前・・・事前指導（1回のみ） 1週間前・・・完成版配布</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目【上位科目】教育実習A・B（4年次・前期）教育実践演習（4年次・後期） (2) 次のステージ 教育実習では、専門的な教材分析の力、学習者の実態に応じた指導案作成が求められる。 【教員養成の目標との関連】1・2・3</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法演習Ⅱ	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>・教育実習における研究授業を想定した模擬授業をおこないます。国語科教育法ⅠⅡ、国語科教育法演習Ⅰでおこなった教材研究を応用しつつ、各自が担当する教材をもとに模擬授業をおこないます。</p> <p>到達目標</p> <p>1 教材研究、学習指導案を踏まえた基本的な授業実践力を身に付ける。 2 模擬授業を振り返り、省察を深めることで、指導技術の向上に資する授業実践の視点を身に付ける。</p>	<p>模擬授業担当者は、教員の指導を受け、担当する回の1週間前までに、教材研究資料、学習指導案（教材観・指導目標・指導計画・授業細案・発問計画・教材の分析等）を作成し、受講者配布したうえで模擬授業に臨んでください。・教職課程に関わる事務的な手続きをしっかりと行いましょう。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、授業実践に関する視点を意識した指導を行います。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	次時の資料の検討
	2	国語科授業づくりの視点と工夫	次時の資料の検討
	3	言語活動、アクティブラーニングと国語の学び、ICTの活用	次時の資料の検討
	4	模擬授業と研究討議1（中学校 文学的文章教材「形」）読むこと	次時の資料の検討
	5	模擬授業と研究討議2（中学校 説明的文章教材「恥ずかしい話」）読むこと	次時の資料の検討
	6	模擬授業と研究討議3（中学校 音声言語表現教材「パネルディスカッション」）話すこと聞くこと	次時の資料の検討
	7	模擬授業と研究討議4（中学校 文章表現教材「反対を想定して書く一意文」）書くこと	次時の資料の検討
	8	模擬授業と研究討議5（高等学校 文学的文章教材「血であがなったもの」）読むこと	次時の資料の検討
	9	模擬授業と研究討議6（高等学校 説明的文章教材「手の変幻」）読むこと	次時の資料の検討
	10	模擬授業と研究討議7（高等学校 音声言語表現教材「ディベート」）話すこと聞くこと	次時の資料の検討
	11	模擬授業と研究討議8（高等学校 文章表現教材「説明文を書く」）書くこと	次時の資料の検討
	12	模擬授業と研究討議9（中学校 言語文化教材「おくの細道」）古文	次時の資料の検討
	13	模擬授業と研究討議10（高等学校 言語文化教材「桃花源記」）漢文	次時の資料の検討
14	模擬授業と研究討議11（中・高校共通 文学的文章教材「六月」）韻文	次時の資料の検討	
15	模擬授業と研究討議12（中・高校共通 郷土教材「琉歌」）	次時の資料の検討	
16	総括	授業の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など		
	必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業では授業記録をつけ、具体的な応答、指示、発問に対する反応、教師の動きなどをまとめておきましょう。 ・模擬授業者は、担当した授業後、リフレクションシートを作成し、次回提出してください。 		
	評価		
	教材研究資料、学習指導案（40%）、模擬授業（40%）、授業態度、授業参加状況（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	教育実習指導、教育実習A、教育実習B、教職実践演習

※ポリシーとの関連性

本学の教員養成の目標1・2（採用当初から、教科等の専門的知識・技能を有し、実践的指導力のある教員）の養成。に関連する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法 I	後期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	2年	メールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>中学校及び高等学校国語科教師を目指す学生のための、入門的な科目である。国語科教育学の諸領域に関する歴史と理論の概要を理解するとともに、実践事例を検討して優れた点に学び、自らの教材研究・授業構想に生かすための基礎を身につけることを目標とする。</p> <p>到達目標 学習指導要領に関する基礎的知識と、国語科教育学の基礎を身に付け、実践論文をもとに学習の実体を分析、検討することができる。新たな学習デザインや、学習方法の改善策を考えることができる。</p>	<p>中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育の基礎理論を授業実践例を紹介しながら解説する。履修前に実施するテストの合格者（今年度は課題提出者：一定のレベルに到達したもの）のみ、履修が認められる。国語科の基礎的能力を身に付け、学習指導力をつけておくこと。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・国語科教育法を学ぶに当たって	「国語科教育の意義・目標」を読む
	2	国語科教育の意義・目標（講義）	「戦後国語科教育の構造」を読む
	3	戦後国語科教育の構造・情報機器の活用（電子黒板等の情報機器を活用した実践）について（講義）	発表資料作成
	4	表現（「書くこと」）教育について（1班・発表：要約・考察）	発表資料作成
	5	表現（「書くこと」）実践研究（1班・要約・考察発表・討議）	発表資料作成
	6	文学教育について（2班・発表：要約・考察）	発表資料作成
	7	文学教育実践研究（2班・要約・考察発表・討議）	発表資料作成
8	説明的文章教育について（3班・発表：要約・考察）	発表資料作成	
9	説明的文章教育実践研究（3班・要約・考察発表・討議）	発表資料作成	
10	読書教育について（4班・発表：要約・考察）	発表資料作成	
11	読書教育実践研究（4班・要約・考察発表・討議）	発表資料作成	
12	音声言語教育について（5班・発表：要約・考察）	発表資料作成	
13	音声言語教育実践研究（5班・要約・考察発表・討議）	発表資料作成	
14	〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導について（6班・発表：要約・考察）	発表資料作成	
15	〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の実践研究（6班・要約・考察発表・討議）	リアクションペーパー作成	
16	総括・期末試験	リアクションペーパー作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	森田信義・山元隆春・山元悦子・千々岩弘一『新訂国語科教育学の基礎』溪水社 2010 『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 2017 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 2018 【参考文献】 全国大学国語教育学会編『新たな時代の学びを創る 中学校・高等学校国語科教育研究』東洋館出版社 2019		
	学びの手立て		
	①中学校及び高等学校国語科の教員免許を取得するための必修科目である。 ②無断欠席・遅刻・途中退出は一切認めない。 ③授業外の課題が要求される。		
	評価		
	課題レポートの内容、取り組み状況、討論参加状況等（60%）、期末試験等（40%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】国語科教育法Ⅱ（3年次・前期）国語科教育法演習Ⅰ（3年次・後期）国語科教育法演習Ⅱ（4年次・前期）(2) 次のステージ 国語科教育法Ⅱでは、グループでの教材研究・学習指導案作成を行う。国語科教育学の基礎を学び、それを実践に活かす事が求められる。【教員養成の目標との関連】1・2
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法Ⅱ	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 朝男	3年	uezuasao@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講は国語科の授業における教材について、素材としての分析のみならず、教材としての価値、学習者にとっての意味という視点をもって研究を深め、実際の授業を想定した学習指導案・教材研究資料の作成ができるようになることをねらいとします。</p>	<p>発表担当者(班)は、教員の指導を受け、担当する回の1週間前までに、教材研究資料、学習指導案を作成し、受講者に配布したうえで発表に臨んでください。・教職課程に関わる事務的な手続きをしっかりと行いましょう。【実務経験】中学校教諭、管理職だった現場経験や市、県教育委員会での教育行政職で培った経験を生かして、授業実践に関する視点を意識した指導を行います。</p>
到達目標	<p>1 教材研究の方法を学び、教材研究資料を作成できるようになる。 2 学習指導案の作成方法を学び、授業実践を想定した指導案が作成できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス	次時の資料の検討	
	2	国語科の授業づくりと視点	次時の資料の検討	
	3	言語活動、国語科における主体的・対話的で深い学び、ICTの活用	次時の資料の検討	
	4	模擬授業と研究協議1(中学校 文学的文章教材「走れメロス」)読むこと	次時の資料の検討	
	5	模擬授業と研究協議2(中学校 説明的文章教材「オオカミを見る目」)読むこと	次時の資料の検討	
	6	模擬授業と研究協議3(中学校 音声言語表現教材「場面に応じて話そう」)話すこと・聞くこと	次時の資料の検討	
	7	模擬授業と研究協議4(中学校 文章表現教材「生き生きと描き出そう」)書くこと	次時の資料の検討	
	8	模擬授業と研究協議5(高等学校 文学的文章教材「血であながったもの」)読むこと	次時の資料の検討	
	9	模擬授業と研究協議6(高等学校 説明的文章教材「手の変幻」)読むこと	次時の資料の検討	
	10	模擬授業と研究協議7(高等学校 音声言語表現教材「ディベート」)話すこと・聞くこと	次時の資料の検討	
	11	模擬授業と研究協議8(高等学校 文章表現教材「説明文を書くこと」)書くこと	次時の資料の検討	
	12	模擬授業と研究協議9(中学校 言語文化教材「奥の細道」)古文	次時の資料の検討	
	13	模擬授業と研究協議10(高等学校 言語文化教材「桃花源記」)漢文	次時の資料の検討	
	14	模擬授業と研究協議11(中・高共通 文学的文章教材「月夜の浜辺」)韻文	次時の資料の検討	
15	模擬授業と研究協議12(中・高共通 郷土教材「琉歌」)韻文	次時の資料の検討		
16	総括	授業の振り返り		
実践	テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する(熟読すること)。		
学びの手立て	<p>①履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師を目指すものとして、共に受講する仲間も自分自身も成長できるように、時間や期限を守り、真剣に教材研究や指導案作成に取り組むこと。講義においても互いの指導技術が高まるように積極的に参加すること。 ・学習指導要領や「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」等をしっかりと読み込んでおくこと <p>②学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では授業記録をつけ、討論の論点や課題をまとめておくこと。 ・授業後、リフレクションシートを作成し、次回提出すること。 			
評価	教材研究資料、学習指導案(40%)、模擬授業(40%)、授業態度、授業参加状況(20%)			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	国語科教育法演習Ⅰ、国語科教育法演習Ⅱ、教育実習指導、教育実習A、教育実習B、教職実践演習

※ポリシーとの関連性 本学の教員養成の目標1・2（採用当初から、教科等の専門的知識・技能を有し、実践的指導力のある教員）の養成。に関連する。 [/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法Ⅱ	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	国語科の授業における諸教材について、素材としての分析のみならず、教材としての価値、学習者にとっての意味という視点をもって研究を深め、実際の授業を想定した学習指導案の作成ができるようになることを目標とする。	中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育の基礎理論を指導案作成に反映できるよう解説する。 国語科教育法Ⅰで学んだ、国語科教育学の基礎的知識・技能をもとに、学習指導案を作成します。教材文の読解力をつけておくこと。

到達目標
①学習指導案の書き方の基本的な構成・項目等を知り、実際に学習指導案の細案を作成することができる。 ②教材研究に必要な基本的な文献の検索方法及び先行実践研究等をもとにした、学習素材分析・教材分析を行うことができる。 ③情報機器の操作等に習熟し、授業実践に活用することができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	教科書目次の確認
	2	授業と学習指導案について（講義）	教材研究（教材を読み込む）
	3	教材化の視点について、情報機器の活用と授業実践（講義）	復習（用語の確認）指導案作成
	4	学習指導案の研究について【読むこと・文学的文章教材（小説）】	指導案作成
	5	学習指導案の研究について【読むこと・文学的文章教材（随筆・韻文）】	指導案作成
	6	学習指導案の研究について【読むこと・説明的文章教材（説明文）】	指導案作成
	7	学習指導案の研究について【読むこと・説明的文章教材（論説文・評論）】	指導案作成
	8	学習指導案の研究について【話すこと】	指導案作成
	9	学習指導案の研究について【聞くこと】	指導案作成
	10	学習指導案の研究について【書くこと（文学的文章）】	指導案作成
	11	学習指導案の研究について【書くこと（論理的文章・再現的文章）】	指導案作成
	12	学習指導案の研究について【我が国の言語文化に関する事項（古文）】	指導案作成
	13	学習指導案の研究について【我が国の言語文化に関する事項（漢文）】	指導案作成
	14	学習指導案の研究について【言葉の特徴や使い方に関する事項（文法・漢字）】	指導案作成
15	学習指導案の研究について【言葉の特徴や使い方に関する事項（言葉の特徴）】	リフレクション	
16	総括	リフレクション作成・提出	

テキスト・参考文献・資料など
【テキスト】 中学校・高等学校の国語科教科書 『中学校学習指導要領解説 国語編』2017 『高等学校学習指導要領解説 国語編』2018 【参考文献】 田近洵一他編『小学校 国語科授業研究』2018, 教育出版 藤井知弘他編『シリーズ国語授業づくり 板書—子どもの思考を形成するツール—』2015, 東洋館出版社 松本修編『教科力シリーズ 小学校国語』2015, 玉川大学出版部

学びの手立て
①「国語科教育法Ⅰ」の単位を修得していること。 ②無断欠席・遅刻・途中退出は一切認めない。 ③授業外の課題参加が要求される。

評価
指導案の内容、取り組み状況、討論への参加状況（80%）、模擬授業の発表内容（20%）
取り組み状況にはべ切り期日も含む。 発表2週間前・・・事前指導を受ける（1回のみ） 発表1週間前・・・完成版を印刷配布

学びの継続
次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】国語科教育法演習Ⅰ（3年次・後期）国語科教育法演習Ⅱ（4年次・前期） (2) 次のステージ 国語科教育法演習Ⅰでは、個人で教材研究・学習指導案作成を行う。ワークシートや板書の工夫も求められ、より実践的な力が必要とされる。【教員養成の目標との関連】1・2

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	システム設計実習	前期	月3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	核となるセンサネットワークを中心に、IoTを構成する各要素技術を、小型コンピュータ「Raspberry Pi (ラズベリーパイ)」を用いて実践していくことで、IoTシステム構築に必要なハードウェア・ソフトウェア双方の知識を修得することを目指す。	省電力小型パソコンとしての利用、無線LAN設定、サーバー(Web, ファイルサーバー)構築、プログラミングの基本、電子工作、I2Cデバイスの制御、インターネットサービスを利用した応用まで行います。
到達目標	Raspberry Piと電子工作を通してシステム開発の知識、IoTプログラミングの技術を修得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	教科書・参考書の内容確認
	2	Raspberry Piの特徴とIoTシステム開発	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	Raspberry Piの操作と設定(1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	Raspberry Piの操作と設定(2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	5	I2C (アイ・スクエアド・シー)	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	SPI (シリアル・ペリフェラル・インタフェース)	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	アナログ・デジタル変換 (AD変換)	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	パルス幅変調 (PWM)	当該演習の復習/次回演習の予習
	9	無線マイコンモジュール (TWELITE)	当該演習の復習/次回演習の予習
	10	環境データ監視システム (データ収集・保存)	当該演習の復習/次回演習の予習
	11	環境データ監視システム (データ表示)	当該演習の復習/次回演習の予習
	12	グループ製作によるシステムの企画・開発(1)	課題作成
	13	グループ製作によるシステムの企画・開発(2)	課題作成
14	グループ製作によるシステムの企画・開発(3)	課題作成・発表準備	
15	グループ製作によるシステムの企画・開発(4)	課題作成・発表準備	
16	発表会	課題作成・発表準備	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト：永田武「Raspberry PiによるIoTシステム開発実習」森北出版株式会社(2020) 参考書：福田和宏「これ1冊でできる!ラズベリー・パイ 超入門 改訂第6版」ソーテック社(2020)		
学びの手立て	「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
評価	グループ制作によるシステムの完成度(40%)、個人制作によるシステムの完成度(40%)、ならびに、演習への参加度(20%)などを勘案して総合的に行う。 総合評価の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報通信ネットワーク論、情報通信ネットワーク実習
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	自然地理学概論	前期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前門 晃	1年	am2597@me.au-hikari.ne.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	私達が生活する地球の表面では、さまざまな自然現象がみられ、私たちの生活は自然現象から大きな影響を受けている。その自然現象も地球の歴史を通して変化している。地球の表面にみられる気候、土、地形、水について、私たちの住んでいる沖縄からみることによって、自然の認識の仕方について考える。	教科書には、自然環境の話がでできます。皆さんが教壇に立ったとき、自然環境について楽しく教えられるように、生徒の100歩先を行く知識を身につけられるようにします。
到達目標	私達が暮らす沖縄・琉球列島には、他府県には見られない特徴的な自然環境があります。特徴的な自然環境の実態、その仕組みを理解することによって、地域の自然環境に自信と誇りを持てるようになり、自然環境とどのように向き合っているのかの知恵が得られます。自然環境の仕組みについての知識を習得し、沖縄・琉球列島の地域特性を理解する能力を養い、沖縄・琉球列島の自然環境が抱える課題を解決する能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス	シラバスをよく読むこと
	2	サンゴ礁を育む島々の気候	参考文献①④
	3	島をとりまくサンゴ礁とその成り立ち (1)	参考文献①②
	4	島をとりまくサンゴ礁とその成り立ち (2)	参考文献①②
	5	島をとりまくサンゴ礁とその成り立ち (3)	参考文献①②
	6	海面と地殻の変動を記録する石灰岩段丘 (1)	参考文献①②③
	7	海面と地殻の変動を記録する石灰岩段丘 (2)	参考文献①②③
	8	溶けゆく島々 (石灰岩の溶食) (1)	配布する資料の参考文献
	9	溶けゆく島々 (石灰岩の溶食) (2)	配布する資料の参考文献
	10	地下ダム	配布する資料の参考文献
	11	溶かされたサンゴ礁—熱帯カルスト (1)	参考文献①
	12	溶かされたサンゴ礁—熱帯カルスト (2)	参考文献①
	13	隆起サンゴ礁の赤い土—島尻マージ (1)	配布する資料の参考文献
14	隆起サンゴ礁の赤い土—島尻マージ (2)	配布する資料の参考文献	
15	石灰岩と沖縄社会	配布する資料の参考文献	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト：使用しません。資料を配布します。配布する資料に参考文献が記載されています。 参考文献：①河名俊男(1988)：『琉球列島の地形』新星図書出版 ②町田 洋ほか(2001)：『日本の地形7 九州・南西諸島』東京大学出版会 ③氏家 宏編(1990)：『沖縄の自然：地形と地質』ひるぎ社 ④中村和夫・氏家 宏・池原貞夫・田川日出夫・堀 信行(1996)：『日本の自然 地域編8 南の島々』岩波書店		
学びの手立て	高等学校教諭一種免許状「地理歴史」、中学校教諭一種免許状「社会」に必要な科目です。授業のまとめを書かせます。		
評価	期末試験：70点 上記の到達目標を評価する 平常点：30点 授業時間中の提出物を評価する		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地球表面の姿がどのようにして形作られてきたのかを理解できるようになる。 関連科目：「自然地理学特講」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	自然地理学特講	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前門 晃	1年	am2597@me.au-hikari.ne.jp	

学びの準備	ねらい 私達が生活する地球の表面はさまざまな姿をしており、その姿は地球の歴史を通して変貌してきた。現在私達が目の前にする地球表面の姿がどのようにして形作られてきたのか、地面の姿のできかたを考える。	メッセージ 教科書には、自然環境の話がでできます。皆さんが教壇に立ったとき、自然環境について楽しく教えられるように、生徒の100歩先を行く知識を身につけられるようにします。
	到達目標 地球表面に見られる自然環境は、どこでも同じような仕組みで成り立っています。私達が暮らす沖縄・琉球列島には、他府県には見られない特徴的な自然環境がありますが、その仕組みも同様です。自然環境の仕組みについての知識を習得し、沖縄・琉球列島の地域特性を理解する能力を養い、沖縄・琉球列島の自然環境が抱える課題を解決する能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	
	2	河川の作用 (1)	
		時間外学習の内容	
	3	河川の作用 (2)	シラバスをよく読むこと
	4	河川の作用 (3)	参考文献①②, 資料中の参考文献
	5	土壌侵食：赤土流出 (1)	参考文献①②, 資料中の参考文献
	6	土壌侵食：赤土流出 (2)	参考文献①②, 資料中の参考文献
	7	土壌侵食：赤土流出 (3)	参考文献①②③④, 資料中の参考文献
	8	土壌侵食：赤土流出 (4)	参考文献①②③④, 資料中の参考文献
	9	河谷地形 (1)	参考文献①②, 資料中の参考文献
	10	河谷地形 (2)	参考文献①②, 資料中の参考文献
	11	河谷地形 (3)	参考文献①②, 資料中の参考文献
	12	海岸地形 (1)	参考文献①②, 資料中の参考文献
	13	海岸地形 (2)	参考文献①②, 資料中の参考文献
	14	海岸地形 (3)	参考文献①②, 資料中の参考文献
	15	海岸地形 (4)	参考文献①②, 資料中の参考文献
	16	期末試験	参考文献①②, 資料中の参考文献
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト：使用しません。資料を配布します。配布する資料に参考文献が記載されています。		
	参考文献：①町田 貞 (1984)：『地形学』大明堂		
	②佐藤 久・町田 洋 (1990)：『地形学』朝倉書店		
	③氏家 宏編 (1990)：『沖縄の自然：地形と地質』ひるぎ社		
	④中村和夫・氏家 宏・池原貞夫・田川日出夫・堀 信行 (1996)：『日本の自然 地域編8 南の島々』岩波書店		
	学びの手立て		
	高等学校教諭一種免許状「地理歴史」に必要な科目です。授業のまとめを書かせます。		
	評価		
	期末試験：70点 上記の到達目標を評価する		
	平常点：30点 授業時間中の提出物を評価する		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地球表面の姿（地形）がどのようにして形作られてきたのかの理解から、沖縄の島々の地形のでき方を考えることができる。 関連科目：自然地理学概論
-------	---

科目基本情報	科目名 社会科・公民科教育法	期別 後期	曜日・時限 金 5	単位 2
	担当者 照屋 翔大	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室 (5-504) または steruya*okiu.ac.jp (*を@に置き換えて下さい)	

学びの準備	ねらい 中学校社会科の学習指導要領の内容、教材研究や学習指導のあり方(特に公民分野)について理解を深めるとともに、学習指導案の作成とグループでのミニ模擬授業の実践を通して、社会科の授業実践にかかわる基礎的な資質・能力の獲得を目指す。	メッセージ 本授業は、中学校社会科の教員免許取得を目指す学生(Aコース)を対象にした授業です。次年度前期に開講される「社会科・公民科教育法演習」の受講につながる基本的な知識や技術等を獲得を目指しています。授業時間外も活用しながら、自身の力量向上に励んでください。
	到達目標 ①社会科・公民科の学習内容に関する十分かつ正確な知識を獲得している。 ②社会科・公民科の歴史と学習指導要領に示された目標や内容について理解している。 ③教材研究や学習指導の方法の基本的な事項について理解し、それを指導案やミニ模擬授業において表現することができる。	

学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ
学びの実践	1	シラバスを用いたガイダンスとイントロダクション
	2	中学校社会科の誕生、意義・目的
	3	新学習指導要領を目指す中学校社会科の特徴
	4	中学校社会科の授業づくりの準備(1)―授業観察と授業記録
	5	中学校社会科の授業づくりの準備(2)―授業記録の振り返り、教科書の分析
	6	学習指導案の構造と役割
	7	学習指導案の作成と教材研究(1)―導入(単元目標の設定など)
	8	学習指導案の作成と教材研究(2)―展開①(発問、学習課題の作成など)
	9	学習指導案の作成と教材研究(3)―展開②(ICT機器の活用など)
	10	学習指導案の作成と教材研究(4)―まとめ(学習評価の観点の設定など)
	11	グループでのミニ模擬授業の準備(1)―指導案、板書案の検討など
	12	グループでのミニ模擬授業の準備(2)―模擬授業の予行演習など
	13	グループでのミニ模擬授業の実践(1)
	14	グループでのミニ模擬授業の実践(2)
	15	ミニ模擬授業の振り返り、基礎確認のまとめ
	16	
		時間外学習の内容 基礎確認①、基礎学力テストの復習 基礎確認②、学習指導要領の精読 基礎確認③、学習指導要領の精読 基礎確認④、教科書の精読 基礎確認⑤、教科書の精読 基礎確認⑥、学習指導案づくり 基礎確認⑦、学習指導案づくり 基礎確認⑧、ワークシートの作成 基礎確認⑨、実物教材の作成 基礎確認⑩、板書案の作成 基礎確認⑪、模擬授業の準備 基礎確認⑫、模擬授業の準備 模擬授業の振り返り、指導案の修正 模擬授業の振り返り、指導案の修正 最終レポートの作成
	テキスト・参考文献・資料など ○テキスト：『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』(購入あるは文部科学省ホームページを通じてダウンロードすること)。また、自身が実習を希望する地区で使用されている中学校社会科の教科書を入手しておくことが望ましい。 ○参考文献：中学校社会科または高等学校公民科の用語集や資料集。社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版社、2020年。 ○資料等：社会科の授業づくりに関して市販されている図書類には広く目を通しておくとよい。	
	学びの手立て ○授業時間を延長することがある。6限目についても本授業の予定を最優先すること。 ○授業開始30分以降の遅刻は、欠席として扱う。また、遅刻や無断欠席については厳重に対処する。 ○授業時間外での準備や作業が必須となる。個人作業はもとより、グループ活動に支障をきたすことがないように、計画的かつ協同的な学習に努めること。 ○授業開始以前に、中学校社会科の教員採用試験問題や高校・大学入試における社会科の問題にあたり、自身の基礎学力について把握しておくこと。社会科の授業を行うための基礎的な知識が十分でないと判断される場合は、成績評価が厳しくなるので注意すること。	
	評価 学習指導案(30%)、基礎確認のまとめ(40%)、最終レポート(30%)で評価する。なお、公欠に該当しない欠席が3回以上ある場合、また課題への取り組みや基礎確認の点数が到達目標に照らして十分でないと判断した場合は、「不可」とする。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 次年度には、模擬授業を中心とした教育法演習の授業が設定されている。ここでの基礎的な理解と経験を発展させるつもりで、教育法に関する理解と技術のブラッシュアップを継続的に図ってほしい。学内だけでなく、学外の機会も積極的に開拓し活用するとよい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の「教育課程及び指導法に関する科目」の内、高校公民科の指導法に係る科目。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	芝田 秀幹	3年	hidekis*okiu.ac.jp(*は半角@に変換)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	わが国の中等社会科教育、特に公民科教育の歴史、目的及び内容の批判的検討ならびに教材研究と授業方法を学ぶことで、中等社会科教育、特に公民科教育の理論の修得をめざす。	後期の「社会科・公民科教育法演習」も同一教員(芝田)・同一クラスで受講するので通年のゼミという理解で受講して下さい。内容も演習形式で行い、課題が毎回のようにあります。本来は公民科が好きで得意という学生が受講する科目です。しかしこの点が不十分な者がいますので、前期最後の時間に公民科学力試験を実施します。合格するよう、平素から準備をして臨んでください。
到達目標	公民科3科目(現代社会、倫理、政治・経済)のカリキュラム構造、公民科をはじめとするわが国の中等社会科教育の歴史についての知識・理解、ならびに公民科の教材研究の方法及び学習指導案作成の方法についての知識・理解及び技能を身につける。日常的に学科の専門教育科目から教材研究のヒントを見つけようとする関心・意欲・態度を身につける。今日の公民科授業はどうあるべきかを批判的かつ創造的に思考・判断できるようになる。これらを通して後期の模擬授業に向けての知識・理解、技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲・態度を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/班分け	社会科公民科教育法について理解
	2	「公民」とは何か1	プリント指定箇所の予習復習
	3	「公民」とは何か2	プリント指定箇所の予習復習
	4	「公民」とは何か3	プリント指定箇所の予習復習
	5	「公民」とは何か4	課題レポートへの取り組み
	6	公民科の歴史1	プリント指定箇所の予習復習
	7	公民科の歴史2	課題レポートへの取り組み
8	高等学校学習指導要領・公民編を読む1	プリント指定箇所の予習復習	
9	高等学校学習指導要領・公民編を読む2	プリント指定箇所の予習復習	
10	高等学校学習指導要領・公民編を読む3	プリント指定箇所の予習復習	
11	高等学校学習指導要領・公民編を読む4	課題レポートへの取り組み	
12	公民科教師として1	プリント指定箇所の予習復習	
13	公民科教師として2	プリント指定箇所の予習復習	
14	公民科教師として3	課題レポートへの取り組み	
15	指導案作成の準備・夏休みの課題について	試験準備	
16	公民科学力試験	試験後チェック	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは使用せず、随時プリントを配布する。なお、副読本として河合栄治郎『学生に与う』を使用したい。また、「現代社会」、「倫理」、「政治経済」の教科書を一括して注文・購入する。		
学びの手立て	5校時の授業だが、延長となることがあるので6校時は空けておくことが望ましい。また、教育実習事前指導科目として位置づけるので、遅刻や無断欠席をしてはならない。なお、教科に関する科目や自学科の専門教育科目は公民科の親学問を構成し、教科内容の供給源となっているので、それらの科目に教材研究のヒントが多く隠されている。そのことを意識してそれらの科目を受講してほしい。		
評価	以下、合格の条件。 ①割り当てられた課題をすべて提出すること。②原則として遅刻と無断欠席が一度もないこと。③前期末の公民科学力試験で6割以上を得点すること(大学入試共通テストレベル)。 すべての条件を満たせば「秀」の評価となり、それ以外は「不可」となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期の「社会科・公民科教育法演習」と同一教員(芝田)・同一クラスで受講し、4年次6月の教育実習の教壇実習に備える。
-------	--

※ポリシーとの関連性 教免法で定める「教職に関する科目」のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法演習	前期	金 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	3年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「社会科・公民科教育法」における学習内容をふまえ、教育実習にむかって、学生各人が教材研究および指導案の作成を行い、それをもとに模擬授業およびその分析と評価を行う。本演習の眼目は、授業技術、情報機器の活用法はもちろんのこと、参加者全員の相互協力、相互批評による総合的教職実践力の練成にある。	社会科を教育学的に追究したい学生の受講を歓迎する。

到達目標	今日における社会・公教育の課題をふまえた社会科の授業を構想し、実践することができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（本講義の概要）	授業内容の復習
	2	社会科教育の目的と課題	授業内容の復習
	3	公民科教育の理論	授業内容の復習
	4	公民科教育の実際	授業内容の復習
	5	学習指導要領の検討	授業内容の復習
	6	指導案の作成方法・情報機器及び教材の活用法	授業内容の復習・指導案の作成
	7	模擬授業・分析と評価（1）—現代社会と文化の特色	指導案の作成・授業練習
	8	模擬授業・分析と評価（2）—現代社会をとらえる仕組み	指導案の作成・授業練習
	9	模擬授業・分析と評価（3）—市場の働きと経済	指導案の作成・授業練習
	10	模擬授業・分析と評価（4）—国民の生活と政府の役割	指導案の作成・授業練習
	11	模擬授業・分析と評価（5）—人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	指導案の作成・授業練習
	12	模擬授業・分析と評価（6）—民主政治と政治参加	指導案の作成・授業練習
	13	模擬授業・分析と評価（7）—世界平和と人類の福祉	指導案の作成・授業練習
	14	模擬授業・分析と評価（8）—より良い社会を目指して	指導案の作成・授業練習
15	まとめ	模擬授業の振り返り	
16	定期試験は行わない。		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 中学校社会科公民分野の教科書、学習指導要領など。授業中に適宜紹介する。
-------	---

学びの手立て	無断欠席、遅刻は認めない。 他の受講生との共同学習が必須である。 学習指導案の作成は成績評価の前提条件である。
--------	---

評価	学習指導案（50%）、模擬授業（50%）。
----	-----------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会科・地理歴史科教育法
-------	-----------------------------

※ポリシーとの関連性

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の「教育課程及び指導法に関する科目」の内、高校公民科の指導法に係る科目。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法演習	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	芝田 秀幹	3年	hidekis*okiu.ac.jp(*は半角@に変換します)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>前期の「社会科・公民科教育法」の履修成果を踏まえ、学習指導案を作成し、各自1時間（標準50分）の模擬授業を行い、授業実践の力量を身につける。生徒役として模擬授業を受ける際は授業の分析と批評を行い、授業実践の力量形成の一助とする。課外活動としてクラス行事を自主的に企画・実施し、学級経営の指導力量も形成したい。以上を通して、教育実習のための資質・能力を準備する。</p>	<p>前期の「社会科・公民科教育法」を合格した者が同一教員(芝田)・同一クラスで受講します。通年のゼミという理解で受講して下さい。このクラスで4年生の教育実習の教壇実習に備えます。</p>
到達目標	<p>教育実習校で「そのまま残ってほしい」と言われるくらいの実習生になる： ○公民科を高校生に教えることができる初歩的な授業づくりの力量を身につける： 学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）を身につける／教材研究を行い、それを活かした学習指導案を作成できるようになる／板書、話し方、表情など、授業を行う上での基本的な表現力を身につける／子どもの反応や学習の定着状況に応じ、授業計画や学習形態等を工夫できるようにする。 ○教師として社会人に相応しい服装・身だしなみや言葉遣いができるようになる／他人のために一肌、脱げる人間になる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・学習指導案の素案と教材研究レポートの講評	模擬授業の実践についての理解
	2	公民科模擬授業のビデオ視聴	課題レポートへの取り組み
	3	模擬授業の模範：ゼミOB/OGによる模擬授業	指導案づくり・支援、授業評価記入
	4	模擬授業の実践	同上
	5	模擬授業の実践	同上
	6	模擬授業の実践	同上
	7	模擬授業の実践	同上
	8	模擬授業の実践、中間総括（成果と課題）	同上
	9	模擬授業の実践	同上
	10	模擬授業の実践	同上
	11	模擬授業の実践	同上
	12	模擬授業の実践	同上
	13	模擬授業の実践	同上
	14	模擬授業の実践	同上
15	模擬授業の実践・総括	同上	
16	予備		

テキスト・参考文献・資料など
 テキスト：使用しない。参考文献として以下を参照。藤井剛『詳説 政治・経済研究』山川出版社、2008年。

学びの手立て
 ①履修の心構え：前期の「社会科・公民科教育法」芝田クラスと連続して受講しなければならない。以前の年度に単位修得済みの者でも前期に聴講していなければ受講できない。また、時間延長となる場合があるので6校時は空けておくことが望ましい。なお、夏休みの課題（模擬授業の学習指導案の素案と教材研究レポート）の提出がない者は受講できない。模擬授業の学習指導案作成と事前練習に相当の時間と労力を要することを念頭におき、受講すること。教育実習に直結する科目なので、遅刻や無断欠席をしてはならない。②学びを深めるために：自分の模擬授業だけ熱心に取り組むようではダメ。生徒役としても学び、また指定された時間外学習にあるように、級友の模擬授業準備支援と授業評価にも熱心に取り組まなければならない。

評価
 ①模擬授業の成立に100%配分する。模擬授業を成立させることができれば「秀」。それ以外は「不可」とする。
 ②原則として遅刻と無断欠席が1度もないことと、提出物（模擬授業の振り返り、模擬授業批評）の提出が、合格の条件。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 教科教育法科目は本学教職課程の主軸科目であり、「教育実習」の広義の事前指導科目であるため、前期の「社会科・公民科教育法」と同一教員・同一クラスで受講し、教育実習に備えることになる。そのため「特別活動演習」、「教育実習指導」及び「教職実践演習（中・高）」でも学修を共にする。この結果、級友は、卒業後も教師や社会人として自立・成長するため、ともに助けあい、励ましあうことができる存在となるだろう。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法演習	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、公民的分野の模擬授業を実践することで授業実践能力を修得することを目的とします。そのため、教材研究の実施、学習指導案の作成、自らの模擬授業実践の省察とともに、他者の模擬授業の批判的分析、評価表の作成をおこないます。なお、模擬授業の準備段階では、他者の模擬授業作成に協力することにより、他者の経験を自らの経験値に転換するように努めてください。</p>	<p>教員として社会科を指導するのに必要な技能の基礎を修得するだけでなく、教員になるための大変さを経験し、他者との協力と自らの責任において、その大変さを克服することをめざします。また、4年次の取り組みを模範として、取り組むことを求めます。</p>
到達目標	<p>(1) 自らの担当する単元について、適切かつ多面的に教材研究をおこなうことができる。 (2) 基本的な形式に従い、論理的な構成に基づく指導案を作成することができる。 (3) 情報機器の活用等、適切かつ効果的な教材の活用や指導方法を用いて、模擬授業実践をおこなうことができる。 (4) 他者が実践した模擬授業について、建設的に批評することができる。 (5) 自らの省察と他者からの批評に基づき、模擬授業実践の改善点を把握することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	04/13 ガイダンス：班分けと担当単元の決定	シラバス内容の理解
	2	04/20 教材研究①：社会科と公民的分野の目的	配布資料の精読
	3	04/27 教材研究②：指導案の機能と内容	配布資料の精読
	4	05/11 模擬授業の批判的検討①	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	5	05/18 模擬授業の批判的検討②	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	6	05/25 模擬授業の批判的検討③	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	7	06/01 模擬授業の批判的検討④	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	8	06/08 模擬授業の批判的検討⑤	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	9	06/15 模擬授業の批判的検討⑥	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	10	06/22 模擬授業の批判的検討⑦	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	11	06/29 模擬授業の実践①	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	12	07/06 模擬授業の実践②	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	13	07/13 模擬授業の実践③	模擬授業の準備・協力/評価表作成
14	07/20 模擬授業の実践④	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
15	07/27 模擬授業の実践⑤	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
16	08/03 模擬授業の実践⑥、まとめ	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
テキスト・参考文献・資料など	<p>中学校社会科公民的分野の教科書、中学校学習指導要領および『教育実習実践録』。 参考資料については、適宜紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>① 照屋先生担当の「社会科・公民科教育法演習」の単位を修得済みであること。 ② 教職科目であるので無断欠席、遅刻は厳禁です。 ③ ゼミ生との協調に基づく学びに積極的に取り組み姿勢を求めます。 ④ 受講生数によっては、休日や6校時に補講を実施することがあります。</p>		
評価	<p>指導案作成時における教材研究の内容（指導案の提出） 40% 模擬授業実践における授業内容（模擬授業実践、指導案の内容） 40% 自らの模擬授業実践に対する省察（リフレクションペーパーの提出） 10% 他者の模擬授業実践に対する批判的分析（評価票の提出、コメントの記載） 10%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目が未修得だと、後期開講の社会科・地理歴史科教育法は履修できません。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

教免法で定める「教職に関する科目」のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法	後期	金 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	3年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会科教育は、子どもたちの社会観を決定付けるという意味で、極めて責任の重い仕事である。そうである以上、社会科教員を志す者には、社会と教育に対する深い考察能力が求められることになる。ゆえに本講義では、種々の資料・論考の検討を通じて社会科学的・教育学的認識能力の錬成をはかりつつ、情報機器の活用法の検討も含め、あるべき社会科授業実践のあり方を模索していく。</p>	<p>社会科を教育学的に追究したい学生の受講を歓迎する。</p>
到達目標	今日における社会・公教育の課題をふまえた社会科の授業を構想し、実践することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（本講義の概要）	授業内容の復習
	2	社会科教育の目的と課題	授業内容の復習
	3	学習指導要領の検討・情報機器及び教材の活用法	授業内容の復習
	4	社会科学的・教育学的認識の錬成（1）—教育法学の観点から	授業内容の復習・発表資料作り
	5	社会科学的・教育学的認識の錬成（2）—教育社会学の観点から	授業内容の復習・発表資料作り
	6	社会科学的・教育学的認識の錬成（3）—教育史の観点から	授業内容の復習・発表資料作り
	7	社会科学的・教育学的認識の錬成（4）—教育哲学の観点から	授業内容の復習・発表資料作り
	8	社会科学的・教育学的認識の錬成（5）—教育心理学の観点から	授業内容の復習・発表資料作り
	9	社会科学的・教育学的認識の錬成（6）—教育方法学の観点から	授業内容の復習・発表資料作り
	10	模擬授業・分析と評価（1）—世界と日本の地域構成	指導案の作成・授業練習
	11	模擬授業・分析と評価（2）—世界地理①（アジア、ヨーロッパ、アフリカ）	指導案の作成・授業練習
	12	模擬授業・分析と評価（3）—世界地理②（北アメリカ、南アメリカ、オセアニア）	指導案の作成・授業練習
	13	模擬授業・分析と評価（4）—日本地理①（地域調査）	指導案の作成・授業練習
14	模擬授業・分析と評価（5）—日本地理②（日本の地域的特色と区分）	指導案の作成・授業練習	
15	模擬授業・分析と評価（6）—日本地理③（日本の諸地域）	指導案の作成・授業練習	
16	定期試験は行わない。		
テキスト・参考文献・資料など	中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書、学習指導要領など。授業中に適宜紹介する。		
学びの手立て	無断欠席、遅刻は認めない。 他の受講生との共同学習が必須である。 模擬授業の実施は成績評価の前提条件である。		
評価	模擬授業（50%）、学習指導案（50%）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会科・地理歴史科教育法演習
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434) 、またはfujinami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は質の高い地理教育、歴史教育の方法論を修得させるため、学生による学習指導要領の精読とその発表、卒業生教員による授業実践に関する講話、地理及び歴史教育についての実践論文のグループ形式による検討と分析、教材研究の実際と授業方法に関する理論に関する講義、情報機器を用いた教材作成の演習等をおこないます。	メッセージ 発表や討議など主体的な学び、他者との協調に基づく学びの姿勢が強く求められます。
	到達目標 (1) 学習指導要領における社会科および地理的分野・歴史的分野の目的と内容を理解できる。 (2) 授業実践をするにあたって必要となる教材研究の方法を修得できる。 (3) 効果的な授業実践に不可欠な情報機器の活用について習熟できる。 (4) 授業実践の実際について触れることを通じて、学習評価や発展的な学習への誘導の仕方等について理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	09/21 ガイダンス：「教科教育法」とは	シラバス内容の理解
	2	10/05 中学校学習指導要領の理解①：学習指導要領改訂のねらい	指導要領の精読／報告の準備
	3	10/12 中学校学習指導要領の理解②：社会科地理的分野のねらいと内容	指導要領の精読／報告の準備
	4	10/19 中学校学習指導要領の理解③：社会科歴史的分野のねらいと内容	指導要領の精読／報告の準備
	5	10/26 高等学校学習指導要領の理解①：歴史総合のねらいと内容	指導要領の精読／報告の準備
	6	11/02 高等学校学習指導要領の理解②：世界史探究のねらいと内容	指導要領の精読／報告の準備
	7	11/09 高等学校学習指導要領の理解③：日本史探究のねらいと内容	指導要領の精読／報告の準備
	8	11/16 歴史教育の実際と評価（卒業生講話）	班レポートの作成
	9	11/23 地理教育の実際と評価（卒業生講話）	班レポートの作成
	10	11/30 歴史教育の工夫：実践論文の批判的検討	班レポートの作成
	11	12/07 地理教育の工夫：実践論文の批判的検討	班レポートの作成
	12	12/14 地理・歴史教育の授業法	配布資料の精読
	13	12/21 地理・歴史教育と情報機器①：情報機器の利点・欠点	配布資料の精読
	14	01/11 地理・歴史教育と情報機器②：情報機器の活用	配布資料の精読
15	01/18 地理・歴史教育の教材研究	指導案の作成	
16	01/25 まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト (1) 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（2）配布するレジュメ（3）『教育実習実践録』 参考文献 (1) 『社会科教育』『地理歴史教育』等の教育雑誌（2）野崎雅秀『これからの「歴史教育法』』山川出版社、2017年（3）永松靖典編『歴史的思考力を育てる』山川出版社、2017年（4）小林浩二編『実践 地理教育の課題』ナカニシヤ出版、2007年、等		
	学びの手立て ① 藤波担当の「社会科・公民科教育法演習」の単位を修得済みであること。 ② 教職科目であるので無断欠席、遅刻は厳禁です。 ③ ゼミ生との協調に基づく学びに積極的に取り組む姿勢が求められます。		
	評価 学習指導要領の内容理解（発表の内容） 40% 授業の実際と評価、情報機器活用の理解（班レポート） 20% 教材研究と教材開発（指導案の作成） 40% による総合評価とします。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目が未修得だと、社会科・地理歴史科教育法演習は履修できません。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法	前期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	3年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、高等学校における地理・歴史教育の理論の修得を基本に、授業研究・教材研究の方法の体得を目指します。とくに授業実践論文の分析を通して、現場の状況に対応した学習指導案の作成を習得します。また本講義では、学校現場の課題について幅広く議論しながら、実践的なトレーニングの場となることを目標とします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校教諭としての現場経験を活かして、社会科・地理歴史科の教授法を解説します。 学校現場の情報を盛り込みながら、講義を進めていきます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導案を作成する。 世界史、地理、日本史など各科目の特性を理解する。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読む
	2	社会科・地理歴史科と学習指導要領	配布資料の精読
	3	高等学校社会科の変遷	配布資料の精読
	4	高等学校社会科教育（地理・歴史）の目標と課題	配布資料の精読
	5	高等学校社会科（地理・歴史）における教材研究の方法	配布資料の精読
	6	教材研究と授業方法論①-教材分析の視点-	配布資料の精読
	7	教材研究と授業方法論②-史資料の活用方法	配布資料の精読
8	教材研究と授業方法論③-板書の方法-	配布資料の精読	
9	教材研究と授業方法論④-発問の方法-	配布資料の精読	
10	教材研究と授業方法論⑤-説明の方法-	配布資料の精読	
11	学習指導案の作成方法	世界史・教科書の精読	
12	学習指導案作成の手順	世界史・教科書の精読	
13	学習指導案の発表①-世界史・前近代史-	世界史・教科書の精読	
14	学習指導案の発表②-世界史・近代史-	世界史・教科書の精読	
15	学習指導案の検討	世界史・教科書の精読	
16	期末課題	講義全体の復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>高等学校用教科書：東京書籍『世界史B』、東京書籍『新選日本史B』、東京書籍『地理B』・帝国書院『新詳高等地図』などを使用する。学習指導要領解説編（高校地歴科編）などは、講義のなかで適宜紹介します。</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず欠席・遅刻する場合は、メールなどで事前に連絡すること。 ・履修にあたり、教師を目指すための強い意志を持ち、各課題にチャレンジすること。 		
評価	<p>①授業時における質問・意見・討論・発表などにみられる熱意や態度（30%）。 ②学習指導案などに示された学習・研究活動の成果（40%）。 ③その他、指定した課題レポート（30%）。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>後期の演習科目（社会科・地理歴史科教育法演習）での教壇実践に繋げるように、各自、教材研究を行うこと。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 教免法で定める「教職に関する科目」のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法演習	前期	金 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	3年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「社会科・地理歴史科教育法」における学習内容をふまえ、学生各人が教材研究および指導案の作成を行い、それをもとに模擬授業およびその分析と評価を行う。本演習の眼目は、授業技術、情報機器の活用法のみならず、参加者全員の相互協力、相互批評による総合的教職実践力の練成にある。ゆえに、学生各人のコミュニケーションスキルの深化が強く求められると考えてよい。	社会科を教育学的に追究したい学生の受講を歓迎する。
到達目標	今日における社会・公教育の課題をふまえた社会科の授業を構想し、実践することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（本講義の概要）	授業内容の復習
	2	社会科教育の目的と課題	授業内容の復習
	3	学習指導要領の検討	授業内容の復習
	4	指導案の作成方法・情報機器及び教材の活用法	授業内容の復習
	5	模擬授業・分析と評価（1）－世界の古代	指導案の作成・授業練習
	6	模擬授業・分析と評価（2）－日本の古代	授業内容の復習・指導案の作成
	7	模擬授業・分析と評価（3）－世界の中世	指導案の作成・授業練習
	8	模擬授業・分析と評価（4）－日本の中世	指導案の作成・授業練習
	9	模擬授業・分析と評価（5）－世界の近世	指導案の作成・授業練習
	10	模擬授業・分析と評価（6）－日本の近世	指導案の作成・授業練習
	11	模擬授業・分析と評価（7）－世界の近代	指導案の作成・授業練習
	12	模擬授業・分析と評価（8）－日本の近代	指導案の作成・授業練習
	13	模擬授業・分析と評価（9）－世界の現代	指導案の作成・授業練習
14	模擬授業・分析と評価（10）－日本の現代	指導案の作成・授業練習	
15	まとめ	模擬授業の振り返り	
16	定期試験は行わない。		
テキスト・参考文献・資料など	中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書、学習指導要領など。適宜紹介する。		
学びの手立て	無断欠席、遅刻は認めない。 他の受講生との共同学習が必須である。 模擬授業の実施は成績評価の前提条件である。		
評価	模擬授業（50％）、学習指導案（50％）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法演習	前期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、地理教育、歴史教育の模擬授業実践を通じた授業実践能力の修得を目的とします。そのため、教材研究を実施し、学習指導案を作成して模擬授業を実践した上で、自らの模擬授業実践の省察をおこないます。また、他者の模擬授業への批判的分析をおこない、評価表を作成します。なお、他者の模擬授業に協力することで、他者の経験を自らの経験値に転換するように務めてください。</p>	<p>単に2度目の模擬授業に取り組むだけでなく、教育実習生として学校現場に出ることを強く意識して、ゼミでの学びに取り組んでください。また、3年次の模範となるような取り組みをおこなうとともに、3年次に対して適切な助言をおこなうことを求めます。</p>
到達目標	<p>(1) 自らの担当する単元について、適切かつ多面的に教材研究をおこなうことができる。 (2) 基本的な形式に従い、論理的な構成に基づく指導案を作成することができる。 (3) 情報機器の活用等、適切かつ効果的な教材の活用や指導方法を用いて、模擬授業実践をおこなうことができる。 (4) 他者が実践した模擬授業について、建設的に批評することができる。 (5) 自らの省察と他者からの批評に基づき、模擬授業実践の改善点を把握することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	04/13 ガイダンス：班分けと担当単元の決定	シラバス内容の理解
	2	04/20 教材研究①：社会科の教育目標の再確認	配付資料の精読
	3	04/27 教材研究②：指導案の機能と内容	配付資料の精読
	4	05/11 模擬授業実践①	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	5	05/18 模擬授業実践②	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	6	05/25 模擬授業実践③	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	7	06/01 模擬授業実践④	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	8	06/18 模擬授業実践⑤	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	9	06/15 模擬授業実践⑥	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	10	06/22 模擬授業実践⑦	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	11	06/29 模擬授業の批判的検討①	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	12	07/06 模擬授業の批判的検討②	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	13	07/13 模擬授業の批判的検討③	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	14	07/20 模擬授業の批判的検討④	模擬授業の準備・協力/評価表作成
15	07/27 模擬授業の批判的検討⑤	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
16	08/03 模擬授業の批判的検討⑥、まとめ	模擬授業の準備・協力/評価表作成	

テキスト・参考文献・資料など
 中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書、中学校学習指導要領および『教育実習実践録』。
 参考資料については、適宜紹介します。

学びの手立て

- ① 藤波担当の「社会科・地理歴史科教育法」の単位を修得済みであること。
- ② 教職科目であるので、無断欠席、遅刻は厳禁です。
- ③ ゼミ生との協調に基づく学びに積極的に取り組む姿勢を求めます。
- ④ 受講生数によっては、休日や6校時に補講を実施することがあります。

評価	指導案作成時における教材研究の内容 (指導案の提出)	40%
	模擬授業実践における授業内容 (模擬授業実践、指導案の内容)	40%
	自らの模擬授業実践に対する省察 (リフレクションペーパーの提出)	10%
	他者の模擬授業実践に対する批判的分析 (評価票の提出、コメントの記載)	10%

次のステージ・関連科目
 本科目が未修得だと、教育実習を受講することはできません。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法演習	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	3年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①前期の地理歴史科教育法をふまえて、模擬授業を実施する。</p> <p>②教材研究の方法と学習指導案作成の実際について、総合的な理解を深める。</p> <p>③模擬授業による自己評価と他者批評を行う。</p>	<p>・高等学校教諭としての現場経験を活かして、社会科・地理歴史科における教授法を解説します。</p> <p>・学校現場の情報を盛り込みながら、講義を進めていきます。</p>

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界史・日本史・地理の学習指導案を作成し、授業実践を行う。 ・教育実習に向けての課題を明確にする。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	教科教育法演習の進め方	シラバスの確認
	2	教材研究および学習指導案の作成方法	配布資料の精読
	3	教材研究および学習指導案の作成手順	配布資料の精読
	4	現職教員による模擬授業の実践	配布資料の精読
	5	高校における世界史分野の模擬授業実施と授業検討会ーヨーロッパ文化圏ー	配布資料の精読
	6	高校における世界史分野の模擬授業実施と授業検討会ー中国・イスラム文化圏ー	配布資料の精読
	7	高校における世界史分野の模擬授業実施と授業検討会ー新大陸ー	配布資料の精読
	8	高校における日本史分野の模擬授業実施と授業検討会ー古代史・中世史ー	配布資料の精読
	9	高校における日本史分野の模擬授業実施と授業検討会ー近世史ー	配布資料の精読
	10	高校における日本史分野の模擬授業実施と授業検討会ー近現代史ー	配布資料の精読
	11	高校における地理分野の模擬授業実施と授業検討会ー自然地理（気候）ー	配布資料の精読
	12	高校における地理分野の模擬授業実施と授業検討会ー自然地理（地形）ー	配布資料の精読
	13	高校における地理分野の模擬授業実施と授業検討会ー人文地理・地誌ー	配布資料の精読
14	現職教員を招いての講話とディスカッション	配布資料の精読	
15	教育実習に向けての教材研究・授業実践の検討	配布資料の精読	
16	期末課題	講義全体の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など ・東京書籍『新選世界史B』、東京書籍『新選日本史B』、東京書籍『地理B』、帝国書院『地歴高等地図-現代世界とその歴史的背景-最新版』、学習指導要領解説編（高校地歴科）および副教材。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず欠席・遅刻する場合は、メールなどで事前に連絡すること。 ・履修にあたり、教師を目指す強い意志を持ち、各課題にチャレンジすること。 		
評価	①学習指導案の内容と模擬授業の成果（40%）。 ②模擬授業合評会などでの発言や態度を含む平常点（40%）。 ③各課題のレポート（20%）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習に繋げるように、各自、教材研究・授業研究を行うこと。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業科教育法	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この講義では、まず、商業教育の歴史の変遷を概観し、高等学校における商業教育の意義と役割を学びます。次いで、学習指導要領に基づき、教科「商業」の目標と内容構成、各科目の目標と内容及びその取扱いを理解します。さらに、後期の模擬授業に向けて、学習指導の形態と方法、学習評価の在り方、教材研究の方法、情報機器の活用方法、学習指導案の作成方法を学びます。	メッセージ 教科「商業」に関する専門性を高めるのはもちろんですが、教員採用試験に向けた受験勉強（一般教養・教職教養）にも早めに取り組みましょう。
	到達目標 ① 高等学校における商業教育の意義・役割を理解し、説明できる。 ② 学習指導要領に基づき、教科「商業」の目標と内容構成、各科目の目標と内容及びその取扱いを理解し、説明できる。 ③ 学習指導の意義、その形態と方法、学習評価について理解し、説明できる。 ④ 適切な教材研究の方法及び効果的な授業実践に不可欠な情報機器の活用方法を習得し、学習指導案を作成できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス(履修上の注意点の確認等)	シラバスの理解(以下、前/後)
	2	高等学校における商業教育の意義	配布資料①の精読/講義内容の復習
	3	高等学校における商業教育の歴史(教育課程の変遷)	配布資料②の精読/講義内容の復習
	4	学習指導要領における教科「商業」の目標と内容構成	配布資料③の精読/講義内容の復習
	5	各科目の目標と授業内容①-教科の基礎的科目と総合的科目	配布資料④の精読/講義内容の復習
	6	各科目の目標と授業内容②-マーケティング分野とマネジメント分野の科目	配布資料④の精読/講義内容の復習
	7	各科目の目標と授業内容③-会計分野とビジネス情報分野の科目	配布資料④の精読/講義内容の復習
	8	学習指導①-学習指導の意義と形態	配布資料⑤の精読/講義内容の復習
	9	学習指導②-学習指導の方法	配布資料⑤の精読/講義内容の復習
	10	教育課程と指導計画①-教育課程	配布資料⑥の精読/講義内容の復習
	11	教育課程と指導計画②-指導計画の意義と学習指導案	配布資料⑥の精読/講義内容の復習
	12	学習評価	配布資料⑦の精読/講義内容の復習
	13	学習指導案の作成①-ビジネス基礎	指導案の作成/指導案の改善
	14	学習指導案の作成②-簿記	指導案の作成/指導案の改善
15	高等学校における商業教育の現状と課題	配布資料⑧の精読/講義内容の復習	
16	予備日	予備日	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：文部科学省「高等学校学習指導要領」平成30年告示。 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説商業編』実教出版、2019年。 片岡寛他『ビジネス基礎(新訂版)』実教出版、2017年。 安藤英義他『新簿記(新訂版)』実教出版、2017年。 上記テキストの他に資料を配布し、これに基づき講義を行います。
----	--

学びの手立て	○履修上の注意事項/心構え： ・教員を目指す者が受講する科目なので、遅刻・無断欠席は認めません。 ・教育実習に最低限必要な技能(日商簿記検定2級・販売士検定3級レベル)の習得に努めてください。 ○学びを深めるために： ・商業科の教員には商業に関する幅広い知識(マーケティング分野、マネジメント分野、会計分野、ビジネス情報分野)が必要とされます。各コースの科目をまんべんなく履修してください。
--------	---

評価	・平常点……20点(講義中の取り組みを評価します) ・課題……80点(学習指導案、学習プリント、板書計画など。上記「到達目標」を評価します)
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：商業科教育法演習
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業科教育法演習	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「商業科教育法」の学習内容を踏まえ、来年6月の教育実習に向けて、模擬授業を行います。模擬授業を行うことによって、教材研究の方法、学習指導案の作成方法、効果的な指導方法など、実践的な技能を習得します。また、他者が行った模擬授業を批判的に分析・評価することによって、授業実践力の向上を目指します。</p>	<p>教科「商業」に関する専門性を高めるのはもちろんですが、教員採用試験に向けた受験勉強（一般教養・教職教養）にも早めに取り組みましょう。</p>
到達目標	<p>① 担当する単元について、適当・適切な教材研究を行える。 ② 指導案作成の意義、記載内容と形式を理解し、学習指導案を作成できる。 ③ 情報機器の活用等、効果的な指導方法を用いて、模擬授業を展開できる。 ④ 他者が行った模擬授業に対して、適切にコメントできる。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：模擬授業を行うに当たっての注意点、単元割り振り等	シラバスの理解（以下、前/後）
	2	商業科教育法の復習：学習指導、指導計画、学習評価等	配布資料の精読/講義内容の復習
	3	模擬授業と授業内容の分析・評価①－「簿記」模擬授業：現金・現金出納帳	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	4	模擬授業と授業内容の分析・評価②－「簿記」模擬授業：現金過不足	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	5	模擬授業と授業内容の分析・評価③－「簿記」模擬授業：当座預金	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	6	模擬授業と授業内容の分析・評価④－「簿記」模擬授業：当座借越	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	7	模擬授業と授業内容の分析・評価⑤－「簿記」模擬授業：当座預金出納帳	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	8	模擬授業と授業内容の分析・評価⑥－「簿記」模擬授業：小口現金	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	9	模擬授業と授業内容の分析・評価①－「ビジネス基礎」模擬授業：流通の意味	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	10	模擬授業と授業内容の分析・評価②－「ビジネス基礎」模擬授業：流通の役割	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	11	模擬授業と授業内容の分析・評価③－「ビジネス基礎」模擬授業：流通機構	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	12	模擬授業と授業内容の分析・評価④－「ビジネス基礎」模擬授業：流通をとりまく環境の変化	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	13	模擬授業と授業内容の分析・評価⑤－「ビジネス基礎」模擬授業：ものの生産者の役割・種類	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	14	模擬授業と授業内容の分析・評価⑥－「ビジネス基礎」模擬授業：ものの生産者の動向	模擬授業の準備・協力/評価表作成
15	模擬授業の反省（授業改善に向けての検討等）	模擬授業の振り返り/改善策の検討	
16	予備日	予備日	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：文部科学省「高等学校学習指導要領」平成30年告示。 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説商業編』実教出版、2019年。 片岡寛他『ビジネス基礎（新訂版）』実教出版、2017年。 安藤英義他『新簿記（新訂版）』実教出版、2017年。</p>		
学びの手立て	<p>○履修上の注意事項/心構え： ・教員を目指す者が受講する科目なので、遅刻・無断欠席は認めません。 ・教育実習に最低限必要な技能（日商簿記検定2級・販売士検定3級レベル）の習得に努めてください。 ○学びを深めるために： ・商業科の教員には商業に関する幅広い知識（マーケティング分野、マネジメント分野、会計分野、ビジネス情報分野）が必要とされます。各コースの科目をまんべんなく履修してください。</p>		
評価	<p>・指導案……30点（上記「到達目標①②」を評価します） ・模擬授業への取組み……50点（上記「到達目標①②③」を評価します） ・他者が実施する模擬授業へのコメント……20点（上記「到達目標④」を評価します）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>来年6月の教育実習に向けて、日々の学習に励んでください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生活指導	前期	金5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、心理学(とりわけ青年期の発達に関する諸理論)の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。	「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論に基づいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出ましよう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
到達目標	①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場での諸問題の関係について理解できるようになる。 ⑤④を踏まえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に(グループワークを含む)	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生活指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に(〃)	講義中に指示の課題②
	4	進路指導・生活指導の歴史 ～適材適所主義からキャリア教育・キャリア・カウンセリングへ(〃)	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題をふまえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント(〃)	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題をふまえた進路指導② ～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて(〃)	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導(〃)	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ(〃)	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導(〃)	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み(〃)	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む(〃)	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含めた集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた(〃)	講義中に指示の課題⑬
15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携(〃)	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト 白井利明「生活指導の心理学」勁草書房 文部科学省「生徒指導提要」 参考文献・参考資料等 文部科学省 国立教育政策研究所 生活指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育ミネルヴァ書房 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP

学びの実践	学びの手立て ①予習・復習は必須です。予め講義の範囲の資料を読み取り組んだ課題をもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物についても、講義内で説明した通りに進めます。 上記は成績評価に反映します。
-------	--

学びの実践	評価 ①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点…25% ②期末試験…75%。 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、と言うことはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通じて上記「到達目標」がどの程度達成できているかを評価します。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に添って教科教育法に進めます。これらの科目や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」「学校カウンセリング」があります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生活指導	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、心理学とりわけ青年期の発達に関する諸理論の立場からグループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。全ての事例で基本的な理論を参照しながら考察を深めていくことを徹底します。また、本格的な教職課程履修の準備ができていくを見極める「関門科目」でもあり、教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。</p>	<p>「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論に基づいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「理論はこんな風に使える」「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続できる。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続できる。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場の諸問題との関係について理論に基づいた理解ができるようになる。 ⑤④をふまえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生活指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に（ 〃 ）	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史～適材適所主義からキャリア教育・キャリア・カウンセリングへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題をふまえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント（ 〃 ）	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題をふまえた進路指導② ～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含む集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑬
15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト： 白井利明「生活指導の心理学」勁草書房 文部科学省「生徒指導提要」 参考文献・参考資料等： 文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」ミネルヴァ書房 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP</p>
----------------	---

学びの手立て	<p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲の資料を読み取り組んだ課題をもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。</p>
--------	---

評価	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」お呼び中間テストを含む平常点 …25% ②期末試験 …75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度達成できているかを評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に沿って教科教育法に進めます。これらの科目や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」「学校カウンセリング」があります。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 進路指導・生活指導	期別 後期	曜日・時限 水5	単位 2
	担当者 片本 恵利	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい 本科目は、心理学（とりわけ青年期の発達に関する諸理論）の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。全ての事例で基本的な理論を参照しながら考察を深めていくことを徹底します。また、教職課程を本格的に履修する準備ができていないかを見極める「関門科目」でもあり教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。	メッセージ 「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論に基づいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「理論はこんな風に使える」「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
	到達目標 ①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎と鳴る「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場の諸問題との関係について理論に基づいて理解できるようになる。 ⑤④を踏まえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的で組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論①～エリクソンを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生活指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史～適材適所主義からキャリア教育、キャリア・カウンセリングへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題を踏まえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント（ 〃 ）	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題を踏まえた進路指導②～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含む集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑬
	15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑭
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：白井利明 「生活指導の心理学」 勁草書房 文部科学省「生徒指導提要」 文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」ミネルヴァ書房 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP
-------	---

学びの手立て	①予習・復習は必須です。予め講義の範囲の資料を読み課題を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。
--------	--

評価	①予習復習・課題その他青果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …25% ②期末試験 …75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」郷学、ということはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に添って教科教育法に進めます。これら上位の科目や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて諸問題について考察し指導や授業の計画を立てることが求められます。 また、心理学の関連科目として「教育心理学」「学校カウンセリング」があります。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義は、基礎理論に基づいて本学の養成する教員像に求められる指導の在り方を実践的に学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 進路指導・生活指導	期別 後期	曜日・時限 火5	単位 2
	担当者 片本 恵利	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい 本科目は、心理学とりわけ青年期の発達に関する諸理論の立場からグループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。全ての事例で基本的な理論を参照しながら考察を深めテイクことを徹底します。また、教職課程を本格的に履修する準備ができているかを見極める「関門科目」でもあり教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。	メッセージ 「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論にもとづいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「理論はこんな風に使える」「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
	到達目標 ①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎と鳴る「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場の諸問題との関係について理論に基づいて理解できるようになる。 ⑤④をふまえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生活指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に（ 〃 ）	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史～適材適所主義からキャリア教育、キャリア・カウンセリングへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題をふまえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント（ 〃 ）	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題を踏まえた進路指導②～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含む集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑬
	15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑭
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：白井利明「生活指導の心理学」勁草書房（変更の際は連絡します） 文部科学省「生徒指導提要」 参考文献・参考資料等：文部科学省 教育政策研究所 生活指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」文部科学省HP 沖縄県教育庁HP
-------	--

学びの実践	学びの手立て ①予習・復習は必須です。予め講義の範囲の資料を読み課題を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で指示したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。
-------	--

学びの実践	評価 ①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …25% ②期末試験 …75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通じて上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に沿って教科教育法に進めます。これらの科目や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」「学校カウンセリング」があります。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義では、基礎理論に基づいて本学の養成する教員像に求められる指導のありかたを実践的に学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生活指導	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、心理学(とりわけ青年期の発達に関する諸理論)の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。また本講義は本格的な教職課程履修の準備ができていないかを見極める「関門科目」でもあり、教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。</p>	<p>「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。この科目では基礎理論を用いて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「こんなとき、こうすることもできる」と選択肢を増やして講義室のドアを出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場での諸問題の関係について理解できるようになる。 ⑤④を踏まえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的で組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生徒指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に(グループワークを含む)	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生徒指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に(〃)	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史 ～適材適所主義からキャリア教育・キャリア・カウンセリングへ(〃)	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題を踏まえた進路指導① ～事例にみる進路指導のポイント(〃)	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題を踏まえた進路指導② ～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて(〃)	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導(〃)	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ(〃)	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導(〃)	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応①今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み(〃)	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む(〃)	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ～いじり・インターネットへの対応を含む集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた(〃)	講義中に指示の課題⑬
15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携(〃)	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト： 白井利明「生活指導の心理学」 勁草書房、文部科学省「生徒指導提要」 参考書：文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」 ミネルヴァ書房 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP</p>
-------	---

学びの手立て	<p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み取り組んだ課題をもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。</p>
--------	--

評価	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …25% ②期末試験 …75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義および「教育の思想と原則」の単位を取得すると教科教育法に進めます。これら上位科目や教育実習では本講義で学んだ基礎理論に基づいて諸問題を考察し指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」「学校カウンセリング」があります。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生徒指導	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、心理学とりわけ青年期の発達に関する諸理論の立場からグループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。全ての事例で基本的な理論を参照しながら考察を深めていくことを徹底します。また、本格的な教職課程履修の準備ができていくを見極める「関門科目」でもあり、教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。</p>	<p>「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論に基づいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「理論はこんな風に使える」「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続できる。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続できる。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場の諸問題との関係について理論に基づいた理解ができるようになる。 ⑤④をふまえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生活指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に（ 〃 ）	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史 ～適材適所主義からキャリア教育・キャリア・カウンセリングへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題をふまえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント（ 〃 ）	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題をふまえた進路指導② ～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含む集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑬
15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト： 白井利明「生活指導の心理学」勁草書房（変更の際は連絡します） 文部科学省「生徒指導提要」 参考文献・参考資料等： 文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」ミネルヴァ書房 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>①予習・復習は必須です・予め講義の範囲の資料を読み取り組んだ課題をもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。</p>

学びの実践	評価
	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …25% ②期末試験 …75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度達成できているかを評価します。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に沿って教科教育法に進めます。これらの科目や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」等があります。</p>

科目基本情報	科目名 進路指導・生徒指導	期別 後期	曜日・時限 水5	単位 2
	担当者 片本 恵利	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい 本科目は、心理学（とりわけ青年期の発達に関する諸理論）の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。全ての事例で基本的な理論を参照しながら考察を深めていくことを徹底します。また、教職課程を本格的に履修する準備ができていないかを見極める「関門科目」でもあり教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。	メッセージ 「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論に基づいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「理論はこんな風に使える」「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
	到達目標 ①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎と鳴る「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場の諸問題との関係について理論に基づいて理解できるようになる。 ⑤④を踏まえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的で組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論①～エリクソンを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生活指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史～適材適所主義からキャリア教育、キャリア・カウンセリングへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題を踏まえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント（ 〃 ）	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題を踏まえた進路指導②～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含む集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑬
	15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑭
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：白井利明 「生活指導の心理学」 勁草書房（変更の際は連絡します） 文部科学省「生徒指導提要」 文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」 ミネルヴァ書房 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP
-------	---

学びの手立て	①予習・復習は必須です。予め講義の範囲の資料を読み取り組んだ課題をもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。
--------	--

評価	①予習復習・課題その他青果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …25% ②期末試験 …75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」郷学、ということはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に添って教科教育法に進めます。これら上位の科目や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて諸問題について考察し指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」等があります。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義では、基礎理論に基づいて本学の養成する教員像に求められる指導のありかたを実践的に学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生徒指導	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、心理学(とりわけ青年期の発達に関する諸理論)の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。また本講義は本格的な教職課程履修の準備ができていないかを見極める「関門科目」でもあり、教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。</p>	<p>「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。この科目では基礎理論を用いて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「こんなとき、こうすることもできる」と選択肢を増やして講義室のドアを出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場での諸問題の関係について理解できるようになる。 ⑤④を踏まえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした、計画的で組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	思進路指導・生徒指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に(グループワークを含む)	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生徒指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に(〃)	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史 ～適材適所主義からキャリア教育・キャリア・カウンセリングへ(〃)	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題を踏まえた進路指導① ～事例にみる進路指導のポイント(〃)	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題を踏まえた進路指導② ～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて(〃)	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導(〃)	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ(〃)	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導(〃)	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み(〃)	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む(〃)	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ～いじり・インターネットへの対応を含む集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた(〃)	講義中に指示の課題⑬
15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携(〃)	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト： 白井利明「生活指導の心理学」勁草書房、文部科学省「生徒指導提要」 参考書：文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」ミネルヴァ書房 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み取り組んだ課題をもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。</p>

学びの実践	評価
	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …25% ②期末試験 …75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>本講義および「教育の思想と原則」の単位を取得すると教科教育法に進めます。これら上位科目や教育実習では本講義で学んだ基礎理論に基づいて諸問題を考察し指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」等があります。</p>

※ポリシーとの関連性

本講義では、基礎理論に基づいて本学の養成する教員像に求められる指導のありかたを実践的に学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生徒指導	前期	金5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、心理学(とりわけ青年期の発達に関する諸理論)の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。	「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論に基づいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出ましよう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。
到達目標	①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場での諸問題の関係について理解できるようになる。 ⑤④を踏まえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に(グループワークを含む)	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生徒指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に(〃)	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史～適材適所主義からキャリア教育、キャリア・カウンセリングへ(〃)	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題をふまえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント(〃)	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題を踏まえた進路指導②～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて(〃)	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導(〃)	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ(〃)	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導(〃)	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み(〃)	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む(〃)	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含めた集団指導・個別指導(〃)	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた(〃)	講義中に指示の課題⑬
15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携(〃)	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	教科書： 白井利明「生活指導の心理学」勁草書房 文部科学省「生徒指導提要」 参考文献・参考資料等：文部科学省 教育政策研究所 生活指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」 文部科学省HP 沖縄県教育庁HP

学びの実践	学びの手立て
	①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み取り組んだ課題をもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。

学びの実践	評価
	①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …25% ②期末試験 …75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本講義および「教育の思想と原則」の単位を取得すると各教科教育法に進めます。上位科目では、本講義で学んだ基礎理論に基づいて諸問題を考察し指導や授業の計画を立てることが求められます。心理学の関連科目として、「教育心理学」等があります。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生徒指導	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、心理学とりわけ青年期の発達に関する諸理論の立場からグループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即して実践的に学んでいきます。全ての事例で基本的な理論を参照しながら考察を深めテイクことを徹底します。また、教職課程を本格的に履修する準備ができているかを見極める「関門科目」でもあり教壇に立つことを念頭に厳しい基準で成績評価を行います。</p>	<p>「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行への対応が分からない」と悩んだりすることはありませんか。本講義では基礎理論にもとづいて実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「理論はこんな風に使える」「こんなときこうすることもできる」と選択肢を増やして講義室を出しましょう。本講義はスクールカウンセラー等臨床心理士としての実務経験を生かして進められます。</p>
到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎と鳴る「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場の諸問題との関係について理論に基づいて理解できるようになる。 ⑤④をふまえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 全ての生徒を対象とした計画的組織的な進路指導・生徒指導の取り組み	シラバスを読んでくる
	2	進路指導・生活指導に関わる基礎理論① ～エリクソンを中心に（グループワークを含む）	講義中に指示の課題①
	3	進路指導・生活指導に関わる基礎理論② ～マズローを中心に（ 〃 ）	講義中に指示の課題②
	4	進路指導の歴史～適材適所主義からキャリア教育、キャリア・カウンセリングへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達課題をふまえた進路指導① ～事例に見る進路指導のポイント（ 〃 ）	講義中に指示の課題④
	6	青年期の発達課題を踏まえた進路指導②～“やりたい仕事”の見つけ方～事例を通じて（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の心に添う進路指導とは ～個別指導と集団指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑥
	8	今日の進路指導に求められるもの ～近代的アイデンティティからダイバーシティへ（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒指導の基本方針～教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑧
	10	不登校への対応 青年期の発達課題と虐待・貧困等の理解に基づく集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑨
	11	非行への対応① 今日の非行をめぐる動向に基づく学級集団における非行防止の取り組み（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑩
	12	非行への対応② 青年期の発達課題を踏まえた非行への対応～性教育・法教育を含む（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑪
	13	青年期の発達課題といじめ いじり・インターネットへの対応を含む集団指導・個別指導（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑫
	14	体罰と指導死 ～校則・懲戒・関連する法令の理解に基づいた生徒指導のありかた（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑬
15	進路指導・生活指導における教師集団と保護者・地域・専門機関との連携（ 〃 ）	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト：白井利明「生活指導の心理学」勁草書房（変更の際は連絡します） 文部科学省「生徒指導提要」 参考文献・参考資料等：文部科学省 教育政策研究所 生活指導・進路指導研究センター編「変わる！キャリア教育」文部科学省HP 沖縄県教育庁HP</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲の資料を読み課題を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で指示したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。</p>

学びの実践	評価
	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …25% ②期末試験 …75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職に就くために必要な能力を見るという観点から、①②を通じて上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に沿って教科教育法に進めます。これらの科目や教育実習では、本講義で学んだ理論に基づいて指導や授業の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「教育心理学」等があります。</p>

※ポリシーとの関連性

教職に関する科目であり、本学カリキュラムポリシーにおける「専門職業人として社会貢献できる能力」の習得に関連します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報科教育法	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報科教員には、教員としての基本的な資質に加えて、情報に関する知識と情報技術が求められる。したがって、受講者自身が情報分野において本質を深く理解するとともに、それらを効果的に教える技術も必要とされる。本講義では、教科としての「情報」の設置の経緯を概観し、現代社会における情報技術の必要性和情報技術活用の展望を解説し、情報分野を体系的に学ぶ。	本講義では高等学校で使用されている教科書をベースに学習指導要領で求められることを関連付けながら学びます。情報教員として必要不可欠の知識であることを留意してください。
到達目標	学習指導要領に示された情報教育の目標について理解し、教科の各科目の内容と関連性を具体的に説明できるようにする。また、授業設計の重要性について理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	情報科設立の背景と経緯	テキストpp. 1-17の復習
	2	社会と情報における目標と内容 (1) 情報の活用と表現、コミュニケーションについて	テキストpp. 18-22の復習
	3	社会と情報における目標と内容 (2) 情報社会の課題とモラル、望ましい情報社会について	テキストpp. 22-26の復習
	4	情報の科学における目標と内容 (1) 情報通信ネットワーク、問題解決について	テキストpp. 27-32の復習
	5	情報の科学における目標と内容 (2) 情報管理、情報技術の進展について	テキストpp. 32-37の復習
	6	情報産業と社会	テキストpp. 58-61の復習
	7	情報の表現と管理	テキストpp. 64-66の復習
	8	情報と問題解決	テキストpp. 67-70の復習
	9	情報テクノロジー	テキストpp. 71-74の復習
	10	情報コンテンツの制作・発信分野	テキストpp. 91-102の復習
	11	システムの設計・管理分野	システムの設計・管理分野の復習
	12	課題研究の目標と取り組み事例	テキストpp. 106-115の予習
	13	教育課程の編成と配慮すべき事項	テキストpp. 116-120の予習
14	指導計画の作成 (1) 指導計画作成の配慮事項について	指導計画の作成	
15	指導計画の作成 (2) 科目指導、実習実施の配慮事項について	指導計画の作成	
16	試験・総括		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト： 高等学校学習指導要領 総則編（平成30年告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年告示 文部科学省） 参考文献・資料： 授業時に適宜配付する。		
	学びの手立て		
	「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の書籍やDVDも適宜参考にすること。		
	評価		
	課題レポート（50%）、試験（50%）で判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「情報科教育法演習」がある。
-------	--

※ポリシーとの関連性

教職に関する科目であり、本学カリキュラムポリシーにおける「専門職業人として社会貢献できる能力」の習得に関連します。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報科教育法演習	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「情報科教育法」の履修成果を踏まえ、学習指導案を作成し、各自1コマ(標準50分)の模擬授業を複数回行う。模擬授業を受ける際も授業分析を行わせ、授業実践の力量形成の一助とする。	メッセージ 本講義では学習指導案の作成と模擬授業の実施を中心にすすめていきます。模擬授業は教育実習先での研究授業を想定しているため、毎回の予習課題が非常に多いことに留意してください。
	到達目標 学習指導案に基づいた授業実践能力を身につける。また、授業実施に関連する、教材の作成方法、情報機器・技術の活用法について習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業構築の実践(1)～座学授業の目的～(講義)	担当授業の資料作成
	2	模擬授業と研究討議(1)情報とメディア	当該講義復習/担当授業の資料作成
	3	模擬授業と研究討議(2)情報と通信	当該講義復習/担当授業の資料作成
	4	模擬授業と研究討議(3)情報化社会の課題	当該講義復習/担当授業の資料作成
	5	模擬授業と研究討議(4)コンピュータの仕組み	当該講義復習/担当授業の資料作成
	6	模擬授業と研究討議(5)情報通信ネットワークの仕組み	当該講義復習/担当授業の資料作成
	7	模擬授業と研究討議(6)情報の蓄積とデータベース	当該講義復習/担当授業の資料作成
	8	模擬授業と研究討議(7)情報システムとサービス	当該講義復習/担当授業の資料作成
	9	授業構築の実践(2)～演習授業の目的～(講義)	当該講義復習/担当授業の資料作成
	10	模擬授業と研究討議(8)情報検索とインターネット	当該講義復習/担当授業の資料作成
	11	模擬授業と研究討議(9)文書作成とワープロソフト	当該講義復習/担当授業の資料作成
	12	模擬授業と研究討議(10)統計処理と表計算ソフト	当該講義復習/担当授業の資料作成
	13	模擬授業と研究討議(11)発表資料作成とプレゼンテーションソフト	当該講義復習/担当授業の資料作成
	14	模擬授業と研究討議(12)インタープリタ型言語	当該講義復習/担当授業の資料作成
15	模擬授業と研究討議(13)コンパイラ型言語	当該講義復習	
16	試験・総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト： 高等学校学習指導要領 総則編(平成30年告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 情報編(平成30年告示 文部科学省) 参考文献・資料： 授業時に適宜配付する。		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の書籍やDVDも適宜参考にすること。		
	評価 学習指導案の内容(30%)、模擬授業の内容(30%)、課題レポート(40%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の次のステージは、高等学校での教育実習である。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報通信ネットワーク実習	前期	月4	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 産業社会における情報通信ネットワークの技術基盤を理解し、実習を通してネットワークシステムの構築と運用と保守管理等について理解を深める。また、AWSを用いたクラウドサービスの活用方法を習得することを目指す	メッセージ クラウドの概念、主要なAWSのサービス、セキュリティ、アーキテクチャ、料金、サポートの概要について学びます。 また、AWS RoboMaker、「AWS Robot Delivery Challenge」などの課題にも取り組みます。
	到達目標 ネットワークの階層構造とプロトコルについて説明できる クラウドサービスについて説明できる AWSの基本サービスの設定を行うことができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラウドコンピューティングの概念	当該演習の復習/次回演習の予習
	2	ネットワークアーキテクチャ	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	クラウドのコンセプトの概要	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	クラウドのエコノミクスと請求	当該演習の復習/次回演習の予習
	5	AWSグローバルインフラストラクチャの概要	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	AWSクラウドのセキュリティ	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	ネットワークとコンテンツ配信	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	コンピューティング	当該演習の復習/次回演習の予習
	9	ストレージ	当該演習の復習/次回演習の予習
	10	データベース	当該演習の復習/次回演習の予習
	11	クラウドアーキテクチャ	当該演習の復習/次回演習の予習
	12	Auto Scalingとモニタリング	当該演習の復習/次回演習の予習
	13	AWS Robot Delivery Challenge (1)	課題作成・発表準備
	14	AWS Robot Delivery Challenge (2)	課題作成・発表準備
15	AWS Robot Delivery Challenge (3)	課題作成・発表準備	
16	最終発表会	発表準備	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：AWS Academy e-learning教材 参考書： 小笠原種高「図解即戦力 Amazon Web Servicesのしくみと技術がこれ1冊でしっかりわかる教科書」技術評論社(2019) 山下光洋, 海老原寛之「AWS認定資格試験テキスト AWS認定 クラウドプラクティショナー」SBクリエイティブ(2019)		
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 AWS Academyの理解度確認(50%)、実習課題(30%)、ならびに、演習への参加度(20%)などを勘案して総合的に行う。 総合評価の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報通信ネットワーク論、システム設計実習
-------	--

※ポリシーとの関連性

教職課程の教科に関する科目であり、将来中学社会科、高校地歴科の教員としての基礎的知識・技能を養う授業である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人文地理学概論	前期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮内 久光	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では学習指導要領解説に示されている地理の見方考え方のうち、「地域」の「枠組を基本としながら「位置や分布」「空間的相互依存作用」を中心に学習する。具体的には農業、工業、コールセンター、小売業の立地、南洋移民やという地理的事象を取り上げて検討することで、地理の見方や考え方を養うものである。	将来、中学社会科、高校地歴科で地理分野を指導する際に、「地理の見方や考え方は非常に重要になります。そのためには教師自身が「地理の見方や考え方を身に付けていなければなりません。ただし、「地理の見方や考え方は漠然とした概念なので、この授業で学ぶ立地論や移動論の検討を通して身に付けていってもらえ、と思っています。
到達目標	①チューネンの農業経営様式やウェーバーの工業立地論を通して「立地や分布」に関する概念を理解する。 ②沖縄からの南洋移民に関する移民データベースを分析して「空間的相互依存作用」に関する概念を理解する。 ③コールセンターの立地要因を理解し、働く女性の状況と課題を説明できるようにする。 ④コンビニエンスストアの立地を「立地や分布」「空間的相互依存作用」「地域」の視点から説明できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人文地理学とはどのような学問なのか、「地理の見方・考え方」とは何か。	地理学の概念について調べておく
	2	チューネンの農業立地論の概要を理解する。	チューネン理論について復習する
	3	日本や沖縄の農業の現状を理論的に検討する。	理論と現状について復習する。
	4	シミュレーション教材「カリフォルニア州の農民行動」を行う。	ゲーム教材の有効性と応用を考える
	5	ウェーバーの工業立地論の概要を理解する。	ウェーバー理論について復習する
	6	ウェーバーの工業立地論を輸送費の面から最適立地を検討する。	輸送費算出の計算を復習する
	7	現代日本における各産業の工場立地をウェーバー理論から検討する①	現実を理論で説明できるように復習
8	現代日本における各産業の工場立地をウェーバー理論から検討する②	現実を理論で説明できるように復習	
9	沖縄におけるコールセンターの立地展開について	コールセンターについて調べておく	
10	沖縄におけるコールセンターの立地要因について	CCの立地要因を整理する。	
11	沖縄のコールセンターで働く女性について	CCで働く人に聞き取りする。	
12	沖縄からの南洋移民について空間的相互依存作用から検討する①	移民データベースの作成	
13	沖縄からの南洋移民について空間的相互依存作用から検討する②	移民データベースの作成	
14	流通の側面からみるコンビニエンスストアの展開について検討する。	立地を理論で説明できるように復習	
15	離島におけるコンビニの展開について島嶼性から検討する。	立地を理論で説明できるように復習	
16	期末評価	これまでの学習の見直し	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは使用しません。プリントを配布します。		
	学びの手立て		
	教職の授業ですから、授業を聞きながら、どこが将来社会科系教員になった場合に参考にできるのかを常に意識をしながら聴講してください。		
	評価		
	講義の内容の理解・・・60点 地理的技能と分析・・・20点 レポート化・・・20点 なお、レポートを提出した者に限り、この授業の内容について自分で努力をしたことについては、個別に評価して加点する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	後期に「人文地理学特論」を開講しますので、継続して履修すると、「地理の見方や考え方」がより深まると思っています。

※ポリシーとの関連性

教職課程の教科に関する科目であり、将来中学社会科、高校地歴科の教員としての基礎的知識・技能を養う授業である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人文地理学特講	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮内 久光	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「地理的な見方や考え方」の視点は「位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域」の5つである。このうち、本講義ではこれらの視点を複合的に用いて、都市、農村、離島の人文・自然環境を地形図から読図したり、グローバルなウチナーネットワークの諸相を検討する。	地理教育の中で、地形図の読図は重要な位置を占めています。今講義では教室での読図指導のほか、沖縄県内各地に出かけ、地形図と現地とを照合させる野外巡検を用意しました。また、沖縄は移民県と呼ばれ、現在グローバルなネットワークを構築しています。ウチナーネットワークから沖縄という場所の特性を検討していきます。
到達目標	①地形図で簡単な図上計測ができる。 ②地形図から都市や農村、離島の地域性を読み取ることができる。 ③地形図を現地と対応して地域の特徴を観察することができる。 ④グローバルなウチナーネットワークの諸相について自分で調べてレポート化する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーションおよび地形図の基本	浜比嘉島巡検
	2	地形図を用いた図上計測（距離、面積）を行う①	図上計測の復習
	3	地形図を用いた図上計測（距離、面積）を行う②	図上計測の復習
	4	計画都市・札幌の都市構造と都市形成について地形図から読図する（明治）。	読図の復習
	5	計画都市・札幌の都市構造と都市形成について地形図から読図する（大正・昭和初期）。	読図の復習
	6	城下町・金沢の空間構造について絵地図から読図する	読図の復習
	7	幕末・江戸の空間構造について絵地図から読図する	読図の復習
	8	那覇の都市構造と都市形成について地形図から読図する①	那覇市内巡検
	9	那覇の都市構造と都市形成について地形図から読図する②	読図の復習
	10	沖縄の農業集落の成立と形態的特徴を地形図から読図する。	南部農村巡検
	11	沖縄の離島の特徴について地形図から読図する。	津堅島巡検
	12	沖縄からの移民について	移民データベースを作成
	13	ハワイ、南米におけるウチナーンチュと県人会組織	移民データベースを作成
14	世界のウチナーンチュとは・・・世界のウチナーンチュ大会	ウチナーンチュ大会について調べる	
15	ビジネスネットワーク・・・WUB	WUBについて調べる	
16	期末評価	これまでの学習の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	平岡昭利編『読みたくなる地図 国土編』海青社 2019年、1600円 平岡昭利・須山聡・宮内久光編『図説日本の島 76の魅力ある島々の営み』朝倉書店 2018年、4500円 須山聡・宮内久光・助重雄久編『離島研究VI』海青社 2018年、3700円 町田宗博・金城宏幸・宮内久光編『躍動する沖縄系移民 ブラジル、ハワイを中心に』彩流社 2013年、3000円		
学びの手立て	積極的に巡検に参加してください。		
評価	講義の内容の理解・・・60点 地理的技能と分析・・・20点 レポートの作成・・・20点 なお、レポートを提出したものに限り、この授業の内容について自分で努力をしたことについては、個別に評価して加点する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 前期の「人文地理学概論」が立地論や移動論を通して地理の見方・考え方を学びます。もし、まだ未履修の場合は、こちらも学習すれば、地理教育の基本が一通り学べます。また、地理学関係の専門科目も積極的に受講してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	総合的な学習の時間の指導法	前期	月5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-白尾 裕志	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	他の教科・領域等で形成する見方・考え方や資質・能力を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。	自らの「総合的な学習の時間」の経験を確認して、受講してください。中学校学習指導要領の「総合的な学習の時間」の目標に掲げている「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習」を講義の中で一貫して行います。自由闊達で多様な意見や考え方を交流し合えるように臨んでください。
到達目標	「総合的な学習の時間」の学習指導要領上の位置づけや登場の背景や歴史を理解する。教科や特別活動と関連性や独自性を理解する。「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／「総合的な学習の時間」学習体験の整理と批判的検討	学習経験の振り返り
	2	中学校の「総合的な学習の時間」の現状と課題、教育課程上の役割と資質・能力との関係等	学習指導要領の理解
	3	高等学校の「総合的な探究の時間」の現状と課題、教育課程上の役割と資質・能力との関係等	学習指導要領の理解
	4	「総合的な学習の時間」の成立と背景及び経過	学習指導要領の変遷の理解
	5	先行実践研究 種子島のサトウキビ ※先行実践検討 ②グループ協議 ③まとめと発表	実践的特長と指導法の関係の理解
	6	「総合的な学習の時間」の指導計画作成①『沖縄修学旅行プランづくり』	教材探しと特長を生かした教材化
	7	「総合的な学習の時間」の指導計画作成②『沖縄修学旅行プランづくり』の発表・検討・まとめ	教材化した内容の指導計画化・検討
	8	「総合的な学習の時間」の学習過程と指導方法及び評価 ※終了後、後日提出するレポートを課す。	総括と評価法
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ○文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』2008年、2017年。 ○白尾裕志『種子島から「日本」を考える授業—初期社会科の理想を求めて—』同時代社、2014年
-------	--

学びの手立て	①「履修の心構え」 ○「総合的な学習の時間」そのものが主体的・協働的な学習を求めている以上、受講にあたっては同様の態度を求めます。遅刻などは「平常点」、「授業参加度」として評価に加味します。また、「受講にあたって必要となる前提科目や推奨科目」「受講前に再度確認しておく知識」は特にありませんが、教育原理等で学修する教育的な視野や思慮深さ及び生徒の発達の・心理的特徴の理解は重要です。 ②「学びを深めるために」 ○『学習指導要領』は「総合的な学習の時間」だけでなく、「総則」も熟読し、並行した理解を進めることが重要です。また自らの学習経験を相対化して「総合的な学習の時間」の目標との関係から考察できるようにし
--------	--

評価	毎回の授業の最後に提出する小レポート(40%)、定期試験(30%)、作成した「『総合的な学習の時間』の指導計画案」で評価する(30%)。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 「総合的な学習の時間」はその背景となる学問体系は多様であるが、見方・考え方の基盤をつくるための専門性の確立も重要である。カリキュラムポリシーに掲げる「自らが専攻する学問的関心を喚起し、専門知識を系統的に習得させるための専門科目」を活用して学修を継続することが望ましい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

専門職業人として社会貢献できる能力を習得させるための専門的な知識と実践的な経験に基づく資格科目の提供。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地誌 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1 年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地誌 I では、オーストラリアとニュージーランド、ヨーロッパを取り上げ地誌的アプローチを試みる。	メッセージ 世界のできごとに関心を持ち、わからない場所については地図帳を引く習慣をつけよう。
	到達目標 オーストラリアとニュージーランドおよびヨーロッパの自然環境、人間の諸活動を通じて地誌的な見方、考え方の一端を理解できるようにする。	

学びの準備	到達目標 オーストラリアとニュージーランドおよびヨーロッパの自然環境、人間の諸活動を通じて地誌的な見方、考え方の一端を理解できるようにする。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地理学と地誌学そして地域区分	プリントおよび自筆ノートの確認
	2	オセアニアの自然環境	プリントおよび自筆ノートの確認
	3	オーストラリアの歴史と民族	プリントおよび自筆ノートの確認
	4	オセアニアの農業	プリントおよび自筆ノートの確認
	5	オセアニアの鉱工業	プリントおよび自筆ノートの確認
	6	オーストラリアの社会と環太平洋の結びつき	プリントおよび自筆ノートの確認
	7	ニュージーランド (1)	プリントおよび自筆ノートの確認
	8	ニュージーランド (2)	プリントおよび自筆ノートの確認
	9	ヨーロッパの自然環境	プリントおよび自筆ノートの確認
	10	ヨーロッパの農業	プリントおよび自筆ノートの確認
	11	ヨーロッパの鉱工業	プリントおよび自筆ノートの確認
	12	ヨーロッパの歴史と民族・宗教	プリントおよび自筆ノートの確認
	13	ヨーロッパの社会と生活	プリントおよび自筆ノートの確認
	14	EUの結成と拡大と今後	プリントおよび自筆ノートの確認
	15	まとめ	プリントおよび自筆ノートの確認
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：帝国書院『新詳高等地図』1800円、帝国書院『新詳資料地理の研究』1000円 参考文献：田辺裕監修（1997）『図説大百科世界地理』、朝倉書店
-------	---

学びの実践	学びの手立て 毎回、世界の各諸地域についてテキストとプリントおよび地図帳で説明の後、ノートにまとめるスタイルで授業をすすめる。 必ず、学習した地域はテキストやノートなどで復習しておくこと。 追試、再試は行わない。 【日文・英米以外対象】 ※地誌 I は中学校社会科、高校地歴科免許状の必修科目
-------	---

学びの実践	評価 成績は、レポートで評価する。
-------	----------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本国内の諸地域について関心を持ってもらう。→地誌 II 沖縄県内の諸地域について関心を持ってもらう→沖縄の地理(共通科目：沖縄関係科目群)
-------	--

※ポリシーとの関連性

専門職業人として社会貢献できる能力を習得させるための専門的な知識と実践的な経験に基づく資格科目の提供。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地誌Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地誌Ⅱでは九州地方と北海道地方を取り上げ、地誌的アプローチを試みる。	メッセージ 日本のできごとに関心を持ち、わからない場所については地図帳を引く習慣をつけよう。
	到達目標 日本の諸地域のうち、九州地方と北海道地方を事例として、それらの自然環境、人間の諸活動を通じて地誌的見方、考え方の一端を理解できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布プリントの確認
	2	九州地方の由来と地理的位置	資料地理の研究、ノートの確認
	3	九州地方の地形と気候	資料地理の研究、ノートの確認
	4	九州地方の産業	資料地理の研究、ノートの確認
	5	九州地方の工業	資料地理の研究、ノートの確認
	6	九州地方の農林水産業	資料地理の研究、ノートの確認
	7	九州地方の交通と通信	資料地理の研究、ノートの確認
	8	九州地方の人口と都市	資料地理の研究、ノートの確認
	9	九州地方の開発	資料地理の研究、ノートの確認
	10	北海道の地理的位置と地形・気候	資料地理の研究、ノートの確認
	11	北海道の歴史	資料地理の研究、ノートの確認
	12	北海道の農業と水産業	資料地理の研究、ノートの確認
	13	北海道の鉱工業と開発	資料地理の研究、ノートの確認
	14	北海道の都市と交通	資料地理の研究、ノートの確認
15	北海道の生活文化	資料地理の研究、ノートの確認	
16	まとめ	資料地理の研究、ノートの確認	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：帝国書院『新詳高等地図』1800円、帝国書院『新詳資料地理の研究』1800円 参考文献：日本の地誌. 朝倉書店, 2005、日本の地誌、立正大学地理学教室編. 古今書院, 2007. 1964年と2020年 くらべて楽しむ地図帳, 松井秀郎編, 山川出版社, 2021.		
	学びの手立て 毎回、日本の各諸地域について説明の後、パワーポイントをみてもらい、ノートにまとめるスタイルで授業を進める。 必ず、学習した地域はテキストやノートなどで復習しておくこと。 追試、再試は行わない。 【日文・英米以外対象】 ※地誌Ⅱは中学校社会科、高校地歴科免許状の必修科目		
	評価 成績は数回提出するレポートで評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 世界の諸地域について関心をもってもらう。→地誌Ⅰ 沖縄県内の諸地域について関心を持ってもらう→沖縄の地理(共通科目:沖縄関係科目群)
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	哲学概論	通年	木6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村井 忠康	1年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、古代から現代に至るまでの西洋哲学を概観しながら、哲学の基本的な概念や考え方を学んでゆく。哲学をするのに必ずしも哲学史の知識は必要ではないが、先哲たちの思索を追体験することは、現代に生きるわれわれ自身について、一歩引いて考えるための大きなヒントを与えてくれるはずである。	授業中の発言やリアクションペーパーを通じて、自分の理解や考えを言葉にしてみる。最初は漠然とした表現であっても、教師や出席者と対話を重ねることで次第に明確になるものである。

学びの準備	到達目標
	①さまざまな哲学的立場について、ポイントを押さえた理解ができるようになる。 ②哲学の問題について、例に即して考えることができるようになる。 ③概念的・原理的なレベルにまで掘り下げて、物ごとを考えることができるようになる。 ④根拠を挙げながら自分の理解や見解を論述できるようになる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：この授業の概要とスケジュール	シラバス・配布資料の確認
	2	ソクラテス以前の哲学者	配布資料の熟読
	3	ソクラテスとプラトン	配布資料の熟読
	4	アリストテレスの形而上学	配布資料の熟読
	5	アリストテレスの倫理学	配布資料の熟読
	6	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
	7	中世哲学（1）アウグスティヌス	配布資料の熟読
	8	中世哲学（2）普遍論争	配布資料の熟読
	9	中世哲学（3）トマス・アクィナス	配布資料の熟読
	10	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
	11	近世哲学と自然科学：フランシス・ベーコン	配布資料の熟読
	12	大陸合理論（1）デカルト	配布資料の熟読
	13	大陸合理論（2）スピノザ	配布資料の熟読
	14	大陸合理論（3）ライプニッツ	配布資料の熟読
	15	リアクションペーパー応答	期末試験準備
	16	イギリス経験論（1）ロック	配布資料の熟読
	17	イギリス経験論（2）バークリー	配布資料の熟読
	18	イギリス経験論（3）ヒューム	配布資料の熟読
	19	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
	20	カントの理論哲学（1）	配布資料の熟読
	21	カントの理論哲学（2）	配布資料の熟読
	22	カントの実践哲学	配布資料の熟読
	23	カントの判断力論	配布資料の熟読
	24	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
	25	ヘーゲルの哲学（1）	配布資料の熟読
	26	ヘーゲルの哲学（2）	配布資料の熟読
	27	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
	28	前期ワイトゲンシュタイン	配布資料の熟読
	29	後期ワイトゲンシュタイン	配布資料の熟読
30	リアクションペーパー応答	期末試験準備	
31	予備日		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストはとくに使用しないが、毎回プリントを配布する。参考文献は、入手しやすさや読みやすさ、価格などを考慮しつつ適宜紹介する。ここでは、以下の三つを挙げておく。</p> <p>岩崎武雄『西洋哲学史』、有斐閣、1975年 山本巍 他『哲学 原典資料集』、東京大学出版会、1993年 門脇俊介『現代哲学』、産業図書、1996年</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めること。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみる。 ・授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がる。
	<p>評価</p> <p>リアクションペーパーの提出状況（40%）、期末試験（60%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業の最後に10～15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設ける。授業内容についてのコメントや疑問を積極的に記入することが求められる。 ・前期後期ともに試験期間中に期末試験を実施する。哲学者たちの使う基本タームを知識として押さえると同時に、自分の理解を論理的に表現できることが求められる。
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>倫理学概論</p>

科目基本情報	科目名 特別活動研究	期別 後期	曜日・時限 火5	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 5号館5階 5505室 mimura*okiu. ac. jp(*は半角@に変換します)	

学びの準備	ねらい 学校における様々な構成の集団での活動を通し、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる諸活動の総体である特別活動の意義を理解し、人間関係形成・社会参画・自己表現の三つの視点等をもつとともに、学年の違いによる活動、教科等との往還的関連、地域住民や他校教職員と連携した組織的対応等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。	メッセージ 「班・核・討議づくり」とも言われる「学級集団づくり」の方法論について特に学びます。班活動の指導方法、リーダーシップとフォローアップの形成方法、話し合いによる合意形成の指導方法がその内容です。その前提として、今日の子どもの自立をめぐる問題状況の理解や子どもの否定的な言動の中に肯定を捉える子ども観を身につけておく必要があります。これらのことも深く学びます。
	到達目標 自立と依存の関係、自立をめぐる問題状況、共感的要求とその方法ならびに「学級集団づくり」の方法論（指導の見通しとしての3つの発展段階と指導の切り口としての3つの側面）について、その知識・理解を身につける。共感的要求の出発点となる否定的な言動の中に肯定を見つけることや、学級行事や学校行事の原案を作ることができる技能を身につける。これらの知識・理解や技能により、子どもに対して受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行い、子どもの抱える課題を理解できるようになり、子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して子どもを民主的な権利主体・自治主体に高める学級活動・ホームルーム活動を行うことへの関心・意欲・態度と自信を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義ガイダンス／学習指導要領と特別活動／学級びらきについて
	2	子どもの自立をめぐる問題状況1 自立の裏面としての問題行動
	3	子どもの自立をめぐる問題状況2 子どもらしくない子どもの増加
	4	子どもの自立をめぐる問題状況3 校内暴力・いじめ
	5	子どもの自立をめぐる問題状況4 不登校、体罰
	6	共感的要求とその方法1 共感的要求とは何か
	7	共感的要求とその方法2 否定の中に肯定を捉える
	8	「問題児はクラスの宝」／学級における3つの集団類型
	9	「学級集団づくり」の3つの段階と3つの側面
	10	「討議づくり」1 話し合いによる合意形成の指導方法
	11	「討議づくり」2 自主管理の指導方法／「核づくり」1 リーダーとフォローアの民主的関係づくり
	12	「核づくり」2 リーダーシップの形成方法／学級(HR)行事原案づくりコンテスト
	13	「核づくり」3 フォロアーシップの形成方法／「班づくり」1 居場所と自治の基礎単位としての班
	14	「班づくり」2 班編成の方法、班活動の種類と方法(係活動と当番活動)
	15	「学級集団づくり」から全校集団づくりへ(生徒会・学校行事・地域との連携)
16	試験	
	時間外学習の内容	
	中高学習指導要領特別活動の章精読	
	学級びらき実践の分析☆	
	資料pp. 2-7精読	
	資料pp. 10-17精読	
	全国と沖縄県の不登校生徒数調べ	
	別冊資料読み物精読	
	否定の中の肯定発見☆	
	資料pp. 19-22, p. 25精読	
	資料p. 26精読	
	資料pp. 27-32精読	
	学級行事原案づくり☆	
	資料pp. 33-35精読	
	資料pp. 36-40精読	
	資料pp. 41-42精読	
	資料pp. 43-53精読	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。 主要参考文献：①全国生活指導研究協議会(全生研)常任委員会編『新版 学級集団づくり入門 中学校』明治図書、1991年。②全生研編『生活指導』(隔月誌)高文研。③全国高校生活指導研究協議会(高生研)『高校生活指導』(季刊誌)青木書店。④文部科学省『中学校学習指導要領』2017年。⑤文部科学省『高等学校学習指導要領』2018年。残余については別途、指示する。
----	---

学びの手立て	①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②「学びを深めるために」：学級担任の役割とは何か、朝の会・帰りの会・SHR、学級会・LHR、生徒会活動及び学校行事でどんなことをしたか、また教師となったとき何をすればよいのか、生徒に何を語り、生徒と何をしたいのかを考えながら受講するとよい。レジュメ集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。
--------	---

評価	小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合、その3分の2以上の提出をもって期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験70%、期末課題20%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解及び関心・意欲・態度をなるべく網羅的に評価する。論述問題とする場合、各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に応じて配点する。期末課題は「学級集団づくり」の構造表の書写を予定している。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示する)。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習に行く年(3年次2月)の「特別活動演習」(集中講義)を受講する際、本講義と関連させると演習の理解が促進される。特別活動の内容には進路指導や教育相談を含むため、「進路指導・生徒指導」(旧課程「進路指導・生活指導」)と「教育相談の基礎と方法」(旧課程「学校カウンセリング」)と関係する。また、子どもの自立をめぐる問題状況については「教育心理学」と関係する。
-------	---

科目基本情報	科目名 特別活動研究	期別 後期	曜日・時限 火 3	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 5号館5階 5505室 mimura*okiu. ac. jp(*は半角@に変換します)	

学びの準備	ねらい 学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる諸活動の総体である特別活動の意義を理解し、人間関係形成・社会参画・自己表現の三つの視点等をもつとともに、学年の違いによる活動、教科等との往還的関連、地域住民や他校教職員と連携した組織的対応等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。	メッセージ 「班・核・討議づくり」とも言われる「学級集団づくり」の方法論について特に学びます。班活動の指導方法、リーダーシップとフォローアップの形成方法、話し合いによる合意形成の指導方法がその内容です。その前提として、今日の子どもの自立をめぐる問題状況の理解や子どもの否定的な言動の中に肯定を捉える子ども観を身につけておく必要があります。これらのことも深く学びます。
	到達目標 自立と依存の関係、自立をめぐる問題状況、共感的要求とその方法ならびに「学級集団づくり」の方法論（指導の見通しとしての3つの発展段階と指導の切り口としての3つの側面）について、その知識・理解を身につける。共感的要求の出発点となる否定的な言動の中に肯定を見つけることや、学級行事や学校行事の原案を作ることができる技能を身につける。これらの知識・理解や技能により、子どもに対して受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行い、子どもの抱える課題を理解できるようになり、子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して子どもを民主的な権利主体・自治主体に高める学級活動・ホームルーム活動を行うことへの関心・意欲・態度と自信を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	(対) ガイダンス/学習指導要領と特別活動/学級びらき/★初回限定：レジュメ集と資料集の直接配付
	2	(特) 子どもの自立をめぐる問題状況 1 自立の裏面としての問題行動
	3	(特) 子どもの自立をめぐる問題状況 2 子どもらしくない子どもの増加
	4	(特) 子どもの自立をめぐる問題状況 3 校内暴力・いじめ
	5	(特) 子どもの自立をめぐる問題状況 4 不登校、体罰
	6	(特) 共感的要求とその方法 1 共感的要求とは何か
	7	(特) 共感的要求とその方法 2 否定の中に肯定を捉える
	8	(特) 「問題児はクラスの宝」 / 学級における3つの集団類型
	9	(特) 「学級集団づくり」の3つの段階と3つの側面
	10	(特) 「討議づくり」1 話し合いによる合意形成の指導方法
	11	(特) 「討議づくり」2 自主管理の指導方法 / 「核づくり」1 リーダーとフォローアの民主的関係づくり
	12	(特) 「核づくり」2 リーダーシップの形成方法 / 学級(HR)行事原案づくりコンテスト
	13	(特) 「核づくり」3 フォロアシップの形成方法 / 「班づくり」1 居場所と自治の基礎単位としての班
	14	(特) 「班づくり」2 班編成の方法、班活動の種類と方法(係活動と当番活動)
	15	(特) 「学級集団づくり」から全校集団づくりへ(生徒会・学校行事・地域との連携)
16		
	時間外学習の内容	
	中高学習指導要領特別活動の章精読	
	学級びらき実践の分析☆	
	資料pp. 2-7精読	
	資料pp. 10-17精読	
	全国と沖縄県の不登校生徒数調べ	
	別冊資料読み物精読	
	否定の中の肯定発見☆	
	資料pp. 19-22, p. 25精読	
	資料p. 26精読	
	資料pp. 27-32精読	
	学級行事原案づくり☆	
	資料pp. 33-35精読	
	資料pp. 36-40精読	
	資料pp. 41-42精読	
	資料pp. 43-53精読	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。 主要参考文献：①全国生活指導研究協議会(全生研)常任委員会編『新版 学級集団づくり入門 中学校』明治図書、1991年。②全生研編『生活指導』(隔月誌)高文研。③全国高校生活指導研究協議会(高生研)『高校生活指導』(季刊誌)青木書店。④文部科学省『中学校学習指導要領』2017年。⑤文部科学省『高等学校学習指導要領』2018年。残余については別途、指示する。
----	---

学びの手立て	①「履修の心構え」：2回目以降は沖国大ポータル【授業連絡】【授業共有ファイル】【レポート】を使い、パワーポイントのデータ配信による講義(オンデマンド型)・宿題提示・宿題回収・宿題評価の流れで行う。期限内の宿題の未提出は、欠席となる。 ②「学びを深めるために」：学級担任の役割とは何か、朝の会・帰りの会・SHR、学級会・LHR、生徒会活動及び学校行事でどんなことをしたか、また教師となったとき何をすればよいのか、生徒に何を語り、生徒と何をしたいのかを考えながら受講するとよい。レジュメ集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。
--------	---

評価	毎回、宿題を課す。最終回には講義全体についての課題を別途、課す。また、期末課題として「学級集団づくり」の構造表の書写を予定している。評価の配分は、毎回の宿題に70%、最終回課題に15%、期末課題に15%とする。評価方法は、論述問題については設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に応じ配点する。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示する)。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習に行く年(3年次2月)の「特別活動演習」(集中講義)を受講する際、本講義と関連させると演習の理解が促進される。特別活動の内容には進路指導や教育相談を含むため、「進路指導・生徒指導」(旧課程「進路指導・生活指導」)と「教育相談の基礎と方法」(旧課程「学校カウンセリング」)と関係する。また、子どもの自立をめぐる問題状況については「教育心理学」と関係する。
-------	---

科目基本情報	科目名 特別活動の理論と方法	期別 後期	曜日・時限 火 5	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 5号館5階 5505室 mimura*okiu. ac. jp(*は半角@に変換します)	

学びの準備	ねらい 学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる諸活動の総体である特別活動の意義を理解し、人間関係形成・社会参画・自己表現の三つの視点等をもつとともに、学年の違いによる活動、教科等との往還的関連、地域住民や他校教職員と連携した組織的対応等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。	メッセージ 「班・核・討議づくり」とも言われる「学級集団づくり」の方法論について特に学びます。班活動の指導方法、リーダーシップとフォローアップの形成方法、話し合いによる合意形成の指導方法がその内容です。その前提として、今日の子どもの自立をめぐる問題状況の理解や子どもの否定的な言動の中に肯定を捉える子ども観を身につけておく必要があります。これらのことも深く学びます。
	到達目標 自立と依存の関係、自立をめぐる問題状況、共感的要求とその方法ならびに「学級集団づくり」の方法論（指導の見通しとしての3つの発展段階と指導の切り口としての3つの側面）について、その知識・理解を身につける。共感的要求の出発点となる否定的な言動の中に肯定を見つけることや、学級行事や学校行事の原案を作ることができる技能を身につける。これらの知識・理解や技能により、子どもに対して受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行い、子どもの抱える課題を理解できるようになり、子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して子どもを民主的な権利主体・自治主体に高める学級活動・ホームルーム活動を行うことへの関心・意欲・態度と自信を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義ガイダンス／学習指導要領と特別活動／学級びらきについて
	2	子どもの自立をめぐる問題状況 1 自立の裏面としての問題行動
	3	子どもの自立をめぐる問題状況 2 子どもらしくない子どもの増加
	4	子どもの自立をめぐる問題状況 3 校内暴力・いじめ
	5	子どもの自立をめぐる問題状況 4 不登校、体罰
	6	共感的要求とその方法 1 共感的要求とは何か
	7	共感的要求とその方法 2 否定の中に肯定を捉える
	8	「問題児はクラスの宝」／学級における3つの集団類型
	9	「学級集団づくり」の3つの段階と3つの側面
	10	「討議づくり」1 話し合いによる合意形成の指導方法
	11	「討議づくり」2 自主管理の指導方法／「核づくり」1 リーダーとフォローアの民主的関係づくり
	12	「核づくり」2 リーダーシップの形成方法／学級(HR)行事原案づくりコンテスト
	13	「核づくり」3 フォロアーシップの形成方法／「班づくり」1 居場所と自治の基礎単位としての班
	14	「班づくり」2 班編成の方法、班活動の種類と方法（係活動と当番活動）
	15	「学級集団づくり」から全校集団づくりへ（生徒会・学校行事・地域との連携）
16	試験	
	時間外学習の内容 中高学習指導要領特別活動の章精読 学級びらき実践の分析☆ 資料pp. 2-7精読 資料pp. 10-17精読 全国と沖縄県の不登校生徒数調べ 別冊資料読み物精読 否定の中の肯定発見☆ 資料pp. 19-22, p. 25精読 資料p. 26精読 資料pp. 27-32精読 学級行事原案づくり☆ 資料pp. 33-35精読 資料pp. 36-40精読 資料pp. 41-42精読 資料pp. 43-53精読	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。 主要参考文献：①全国生活指導研究協議会（全生研）常任委員会編『新版 学級集団づくり入門 中学校』明治図書、1991年。②全生研編『生活指導』（隔月誌）高文研。③全国高校生活指導研究協議会（高生研）『高校生活指導』（季刊誌）青木書店。④文部科学省『中学校学習指導要領』2017年。⑤文部科学省『高等学校学習指導要領』2018年。残余については別途、指示する。
----	---

学びの手立て	①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②「学びを深めるために」：学級担任の役割とは何か、朝の会・帰りの会・SHR、学級会・LHR、生徒会活動及び学校行事でどんなことをしたか、また教師となったとき何をすればよいのか、生徒に何を語り、生徒と何をしたいのかを考えながら受講するとよい。レジュメ集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。
--------	---

評価	小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合、その3分の2以上の提出をもって期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験70%、期末課題20%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解及び関心・意欲・態度をなるべく網羅的に評価する。論述問題とする場合、各設問に関わる講義内容（専門用語や重要事項）の出現率に応じて配点する。期末課題は「学級集団づくり」の構造表の書写を予定している。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する（随時案内・指示する）。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習に行く年(3年次2月)の「特別活動演習」(集中講義)を受講する際、本講義と関連させると演習の理解が促進される。特別活動の内容には進路指導や教育相談を含むため、「進路指導・生徒指導」(旧課程「進路指導・生活指導」)と「教育相談の基礎と方法」(旧課程「学校カウンセリング」)と関係する。また、子どもの自立をめぐる問題状況については「教育心理学」と関係する。
-------	---

科目基本情報	科目名 特別活動の理論と方法	期別 後期	曜日・時限 火 3	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 5号館5階 5505室 mimura*okiu. ac. jp(*は半角@に変換します)	

学びの準備	ねらい 学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる諸活動の総体である特別活動の意義を理解し、人間関係形成・社会参画・自己表現の三つの視点等をもつとともに、学年の違いによる活動、教科等との往還的関連、地域住民や他校教職員と連携した組織的対応等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。	メッセージ 「班・核・討議づくり」とも言われる「学級集団づくり」の方法論について特に学びます。班活動の指導方法、リーダーシップとフォローアップの形成方法、話し合いによる合意形成の指導方法がその内容です。その前提として、今日の子どもの自立をめぐる問題状況の理解や子どもの否定的な言動の中に肯定を捉える子ども観を身につけておく必要があります。これらのことも深く学びます。
	到達目標 自立と依存の関係、自立をめぐる問題状況、共感的要求とその方法ならびに「学級集団づくり」の方法論（指導の見通しとしての3つの発展段階と指導の切り口としての3つの側面）について、その知識・理解を身につける。共感的要求の出発点となる否定的な言動の中に肯定を見つけることや、学級行事や学校行事の原案を作ることができる技能を身につける。これらの知識・理解や技能により、子どもに対して受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行い、子どもの抱える課題を理解できるようになり、子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して子どもを民主的な権利主体・自治主体に高める学級活動・ホームルーム活動を行うことへの関心・意欲・態度と自信を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス/学習指導要領と特別活動/学級びらき/★初回限定：レジュメ集と資料集の直接配付	中高学習指導要領特別活動の章精読
	2	(特) 子どもの自立をめぐる問題状況 1 自立の裏面としての問題行動	学級びらき実践の分析☆
	3	(特) 子どもの自立をめぐる問題状況 2 子どもらしくない子どもの増加	資料pp. 2-7精読
	4	(特) 子どもの自立をめぐる問題状況 3 校内暴力・いじめ	資料pp. 10-17精読
	5	(特) 子どもの自立をめぐる問題状況 4 不登校、体罰	全国と沖縄県の不登校生徒数調べ
	6	(特) 共感的要求とその方法 1 共感的要求とは何か	別冊資料読み物精読
	7	(特) 共感的要求とその方法 2 否定の中に肯定を捉える	否定の中の肯定発見☆
	8	(特) 「問題児はクラスの宝」 / 学級における3つの集団類型	資料pp. 19-22, p. 25精読
	9	(特) 「学級集団づくり」の3つの段階と3つの側面	資料p. 26精読
	10	(特) 「討議づくり」1 話し合いによる合意形成の指導方法	資料pp. 27-32精読
	11	(特) 「討議づくり」2 自主管理の指導方法 / 「核づくり」1 リーダーとフォローアの民主的関係づくり	学級行事原案づくり☆
	12	(特) 「核づくり」2 リーダーシップの形成方法 / 学級(HR)行事原案づくりコンテスト	資料pp. 33-35精読
	13	(特) 「核づくり」3 フォロアシップの形成方法 / 「班づくり」1 居場所と自治の基礎単位としての班	資料pp. 36-40精読
	14	(特) 「班づくり」2 班編成の方法、班活動の種類と方法(係活動と当番活動)	資料pp. 41-42精読
	15	(特) 「学級集団づくり」から全校集団づくりへ(生徒会・学校行事・地域との連携)	資料pp. 43-53精読
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。 主要参考文献：①全国生活指導研究協議会(全生研)常任委員会編『新版 学級集団づくり入門 中学校』明治図書、1991年。②全生研編『生活指導』(隔月誌)高文研。③全国高校生活指導研究協議会(高生研)『高校生活指導』(季刊誌)青木書店。④文部科学省『中学校学習指導要領』2017年。⑤文部科学省『高等学校学習指導要領』2018年。残余については別途、指示する。
----	---

学びの手立て	①「履修の心構え」：2回目以降は冲国大ポータル【授業連絡】【授業共有ファイル】【レポート】を使い、パワーポイントのデータ配信による講義(オンデマンド型)・宿題提示・宿題回収・宿題評価の流れで行う。期限内の宿題の未提出は、欠席となる。 ②「学びを深めるために」：学級担任の役割とは何か、朝の会・帰りの会・SHR、学級会・LHR、生徒会活動及び学校行事でどんなことをしたか、また教師となったとき何をすればよいのか、生徒に何を語り、生徒と何をしたいのかを考えながら受講するとよい。レジュメ集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。
--------	---

評価	毎回、宿題を課す。最終回には講義全体についての課題を別途、課す。また、期末課題として「学級集団づくり」の構造表の書写を予定している。評価の配分は、毎回の宿題に70%、最終回課題に15%、期末課題に15%とする。評価方法は、論述問題については設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に応じ配点する。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示する)。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習に行く年(3年次2月)の「特別活動演習」(集中講義)を受講する際、本講義と関連させると演習の理解が促進される。特別活動の内容には進路指導や教育相談を含むため、「進路指導・生徒指導」(旧課程「進路指導・生活指導」)と「教育相談の基礎と方法」(旧課程「学校カウンセリング」)と関係する。また、子どもの自立をめぐる問題状況については「教育心理学」と関係する。
-------	---

※ポリシーとの関連性

教育実践者として、共生社会の実現のために特別支援教育の基礎的知識・技能を習得し、支援を要する子への理解と対応を可能とする

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	特別支援教育論	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-城間 園子	3年	sono0814@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>特別支援教育の理念及び歴史、社会的・制度的事項を含めた現状を踏まえ、障害種別ごとの教育の基本的な考えを理解し考察する。さらに、「共生社会の実現に向けた」我が国の取り組みやインクルーシブ教育システム構築における諸施策について理解し、特別な支援を要する幼児児童生徒への授業及び学級づくりに関する知識・技能を習得し、学校現場で活かすことができる人材を育成する。</p>	<p>我が国のインクルーシブ教育システムの構築の推進について考察していく。考察の過程においては交流及び共同学習、ユニバーサルデザインの授業、合理的配慮の提供等を、発達障害児を含め、幅広い視点で学習し、障害の有無に関わらず共に学び、共に生きていく共生社会について自己の教育観、人生観を深め、教育現場等で実践に活かすことができる人材の育成を目的とする。</p>
到達目標	<p>1. 我が国の障害のある子どもの歴史的処遇及び世界の障害のある子どもの教育の現状を理解する。 2. 特殊教育から特別支援教育への転換を理解し、インクルーシブ教育システムの推進について教育現場を見据えて考察ができ、具体的な対応方法等（UDLの授業・合理的配慮の提供）を教育現場で活用することができる。 3. 共に学ぶ教育という共生社会について自己の教育観、人生観を深め、自己の考えを教育現場等で実践に活かすことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	特殊教育から特別支援教育への転換	文部科学省：特別支援教育資料
	2	特別支援教育に関する歴史的背景と特別支援教育に関わる法制度とその整備	文部科学省：特別支援教育資料
	3	特別支援教育の理念と基本的な考え方	文部科学省：特別支援教育資料
	4	特別支援教育の場とその対象となる幼児児童生徒の現状と課題	特別支援教育体制整備資料
	5	障害分類と特別な支援を必要とする幼児児童生徒の理解（アセスメント）	心理発達検査について
	6	障害児の権利と特別支援教育に関する体制整備	障害者権利条約について
	7	特別支援教育に関する授業づくりと学級経営（5障害）	5障害の特性について
	8	特別支援教育に関する授業づくりと学級経営（発達障害）	発達障害の特性について
	9	インクルーシブ教育システムの構築に向けた教育制度	文科省資料（インクルーシブ）
	10	インクルーシブ教育システムと教育実践	個別の教育支援計画について
	11	インクルーシブ教育システムと就学支援	文科省就学支援資料
	12	インクルーシブ教育システムと多様な学びの場	通級指導・特別支援学級について
	13	インクルーシブ教育システムと合理的配慮及び基礎的環境整備	合理的配慮について
	14	インクルーシブ教育システムに向けた通常教育の改革	交流及び共同学習について
15	インクルーシブ教育システムにおける関係者及び関係機関との連携	トライアングルプロジェクト	
16	定期試験・レポート：共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進について		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考書・参考資料等 インクルーシブ教育システム構築に向けた地域における体制づくりのグランドモデル（国立特別支援教育総合研究所） 文部科学省：特別支援学校学習指導要領・同解説・特別支援教育資料、障害者に関する法制度</p>
-------	---

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講時に求められる態度；出席状況（30分遅刻した場合は欠課）、レポートの提出状況など</p> <p>②資料の提供（レポートの課題及び定期試験の内容を含む）。 ・文部科学省が提示した特別支援教育の資料を参照する。</p>
--------	--

評価	<p>①特別支援教育の対象となる幼児児童生徒個々の教育的ニーズに応じた指導・支援についての基礎的知識が身についている。</p> <p>②インクルーシブ教育システムの構築を踏まえ、関係者及び地域との連携についての具体的な取り組みが身についている。</p> <p>③「共生社会」の実現に向けた具体的な方策が身についている。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>・共生社会の実現のため、障害に関する理解を深め、支援が必要な子どもへの対応について主体的に取り組む</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義では、特別支援教育について基礎理論に基づいて本学の養成する教員像に求められる指導の在り方を実践的に学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	特別支援教育論	春期集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-村越 雄二	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目では、発達障害等に関する我が国の支援制度その歴史。学校教育における特別支援教育の意義等を踏まえつつ、対象の理解と具体的な教育や連携方法について講義し、グループワークや疑似体験等を実施し、体験的に学んでいきます。</p>	<p>特別支援教育とは、特別支援学校に勤務する教職員や特別支援学級の担任のみの仕事ではありません。通用学級担任を含む全ての教職員が取り組まなければならない教育です。多様な子ども達への教育的な関わりについて学びましょう。</p>
到達目標	<p>通常の学級にも在籍する発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	子どもの発達と学校教育	シラバスを読んでくる
	2	子どもの発達支援～特別支援教育と関連制度～	講義中に指示する課題①
	3	対象の理解Ⅰ～神経発達症を中心に～	講義中に指示する課題②
	4	対象の理解Ⅱ～視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱を中心に～	講義中に指示する課題③
	5	局限性学習症の理解と支援～疑似体験・グループワーク①学習面の支援を中心に～	講義中に指示する課題④
	6	注意欠如多動症の理解と支援～疑似体験・グループワーク②行動面の支援を中心に～	講義中に指示する課題⑤
	7	自閉スペクトラム症の理解と支援～疑似体験・グループワーク③対人面の支援を中心に～	講義中に指示する課題⑥
	8	生活スキルや感覚や運動面等に支援を要する場合の支援について～疑似体験等～	講義中に指示する課題⑦
	9	就学支援並びに義務教育段階における段階的な支援体制について	講義中に指示する課題⑧
	10	校内での支援体制～通級による指導並びに特別支援学級（自立活動）の指導を中心に～	講義中に指示する課題⑨
	11	個別の指導計画及び個別の教育支援計画	講義中に指示する課題⑩
	12	特別支援コーディネーターの役割と地域連携	講義中に指示する課題⑪
	13	家族との連携と保護者支援	講義中に指示する課題⑫
14	貧困問題や母国語の違う子ども達の理解と支援	講義中に指示する課題⑬	
15	まとめと振り返り～事例を通した支援の実際～		
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>(テキスト) 授業ごとに資料を配布する。 (参考書) 「発達と障害を考える本」1～4 (株) ミネルヴァ書房</p>		
学びの手立て	<p>①「履修の心得え」教職を目指す者として、積極的な姿勢で授業に臨むこと。また遅刻・欠席がないよう努めること。②「学びを深めるために」講義で実施するグループディスカッション等では、自身の考え等を積極的に発言すること。また講義を受講し内容を理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標達成には至らないため、指定された時間外学習を必ず行うこと。</p>		
評価	<p>講義への参加態度 (30%)、課題の提出状況・達成度 (30%)、期末試験 (40%) から総合的に判断する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義の内容は、発達障害等を持つ幼児・児童・生徒に対する理解と対応に関する内容で有り、学校教育に関する科目・講義には全て関連がある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	道徳教育の研究	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	三村 和則	2年	5号館5階 5505室 mimura*okiu. ac. jp(*は半角@に変換します)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>道徳教育は、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解し、教材研究や学習指導案の作成等を通して、実践的な指導力を身に付ける。</p> <p>到達目標 道徳と道徳教育の意味、諸外国の学校での道徳教育方法、近代的学校制度が導入された明治以降今日までのわが国の学校での道徳教育の歴史、特に戦前・戦中期の道徳教育を特徴づけた修身教育体制の生成・展開・消滅の過程と戦後道徳の時間が特設されその延長に道徳科が生まれた経緯についての知識・理解を身につける。また、教育課程の各領域(「教科」「道徳」「総合的な学習(探求)の時間」「特別活動」)で行う道徳教育の考え方と方法論についての知識・理解を身につける。特に「特別の教科 道徳」については教材や授業方法についての知識・理解を身につけるとともに、学習指導案づくりの技能を身につける。これらを通して学校での道徳教育のあり方を批判的に吟味し同時に道徳教育を創造的に実践する技能や思考力・判断力並びに関心・意欲・態度を身につける。</p>	<p>明治から今日までのわが国の学校での道徳教育の歴史を振り返り、その中で、なぜ沖繩戦に至るような考え方が日本人に形成されたかがわかります。また、「特別の教科 道徳」(以前の「道徳の時間」)の指導法として学習指導案づくりの経験をしてみる点が特徴です。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／学習指導要領の中の道徳	「学習指導要領」道徳の章精読
	2	道徳と道徳教育の構造	自分なりの道徳の樹状構造作成
	3	世界の学校における道徳教育 1 宗教(科)特設の国々と道徳(科)特設の国々	A国の学校での道徳教育調べ
	4	世界の学校における道徳教育 2 宗教(科)と道徳(科)併設の国々、特設時間(教科)無しの国々	B国の学校での道徳教育調べ
	5	教育勅語と修身教育体制 1 教育勅語発布の経緯	学事奨励被仰出書精読
	6	教育勅語と修身教育体制 2 教育勅語と修身教育体制の内容	教育勅語の書写と感想☆
	7	修身教育体制への批判と抵抗 1 川井訓導事件、新興教育運動、生活綴方教育	抜粋『ボクラ少国民』精読
	8	修身教育体制への批判と抵抗 2 私学等での実践、奈良の生活修身／戦後教育改革と道徳教育	どうやって国民を戦争に・・・感想☆
	9	修身教育体制の解体／全面主義道徳体制から特設道徳体制へ	教育基本法前文1条書写と感想☆
	10	特設道徳(「道徳の時間」)以降の道徳教育／道徳の教科化(「特別の教科 道徳」)について	日本教育学会の特設道徳見解精読
	11	教科における道徳教育(訓育的教授の理論)	抜粋教育基本法改正関係文書精読
	12	特別活動と総合的な学習(探求)の時間における道徳教育	抜粋「特活における道徳教育」精読
	13	「特別の教科 道徳」の実践方法 1 道徳授業の原則	中学校時の「道徳の時間」調べ☆
	14	「特別の教科 道徳」の実践方法 2 模索される授業方法、(道徳科教科書教材の研究)、評価方法	抜粋モラルジレンマ授業精読
15	「特別の教科 道徳」の実践方法 3 学習指導案づくりの方法、(模擬授業の実践と批評)	中学時の「道徳の時間」評価調べ	
16	試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。 主要参考文献：①藤田昌士『学校教育と愛国心ー戦前・戦後の「愛国心」教育の軌跡』学習の友社、2008年。 ②柴田義松編著『道徳教育ー理論と実際』学文社、1992年。③大庭茂美他編著『道徳教育の基礎と展望』福村出版、1999年。④文部科学省『中学校学習指導要領』2017年。⑤文部科学省『高等学校学習指導要領』2018年。 残余については別途、指示する。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え：「教育の思想と原則」と「教育心理学」(2017年度以前入学生)又は「進路指導・生活指導」(2018年度入学生)又は「進路指導・生徒指導」(2019年度以降入学生)の単位修得が受講条件。抽選の場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努める。 ②学びを深めるために：道徳とは何か、現代社会ではどんな道徳が望ましいか、中学校の「道徳の時間」で何をしたら、教育実習で「特別の教科 道徳」をどう授業したらよいか、教科の授業や特別活動の中で道徳性を育てるとはどうか、道徳教育はなぜ難しいのか、などの問題意識を持ち受講するとよい。レジュメ集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標を達成できないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合、その3分の2以上の提出をもって期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験70%、期末課題20%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、思考力・判断力及び関心・意欲・態度をなるべく網羅的に評価する。論述問題とする場合、設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に応じて配点する。期末課題は道徳授業の実践記録分析に基づく学習指導案作成を予定している。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示)。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教科でも特別活動でも道徳教育は行われる。「教育課程・教育方法」「教科教育法」「同演習」や「特別活動の理論と方法」(旧課程「特別活動研究」)等を受講する際、道徳教育と関連づけて受講するとよい。「特別の教科 道徳」には教科書があるが、教科書教材に依存するのは好ましくない。教材は日常生活にあふれている(自分や他者の言動、マスメディア、歌、小説等々)。それらを集め、教材の引き出しを豊かにしておくこととよい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	道徳教育の研究	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上地 完治	2年	kanji@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、道徳授業を「学習」の場と捉え、子どもたちに豊かな学びを提供できる教師になるために必要なことを、哲学的・歴史的・実践的側面から追究します。具体的には、(1)我が国の道徳教育の歴史、(2)学習指導要領、(3)道徳授業の実践、(4)道徳教育に関する理論について理解することをめざします。</p>	<p>【本講義はMoodleで行います。1週間以内に必ず受講して下さい】 道徳の授業はどうすれば躰や説教の時間ではなく「学びの場」となるのでしょうか。そもそも、道徳とは誰もが従うべき普遍的なものなのでしょうか。それとも価値の多様化を反映した相対的なものなのでしょうか。本講義では、受講生一人ひとりが自分の頭で論理的・多角的・批判的に考えることを求めます。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳や道徳教育について論理的および批判的に考察することができる。 2. わが国における道徳教育の歴史を理解することができる。 3. 学習指導要領における道徳教育の規定を理解することができる。 4. 道徳授業における「学び」を理解することができる。 5. 資料分析を通して、「授業のねらい」「中心発問」「ゆさぶりの発問」を考えることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	予習 (テキスト第1章)
	2	わが国における道徳教育の歴史 (1) 一戦前の修身科と教育勅語一	戦前の道徳教育の歴史の復習
	3	わが国における道徳教育の歴史 (2) 一戦後の道徳教育と道徳の時間の特設、そして教科化へ一	予習 (テキスト第2章)
	4	中学校学習指導要領 (1) 一道徳教育一	予習 (第10章1・2節)
	5	中学校学習指導要領 (2) 一道徳科一	予習 (第14章1・2節)
	6	中学校学習指導要領 (3) 一内容項目と道徳的価値一	予習 (序章第1・2節、3節の1・3)
	7	考え議論する道徳授業	予習 (第4章)
	8	道徳学習指導案の書き方 (1)	予習 (第6章)
	9	道徳学習指導案の書き方 (2)	予習 (第5章、第10章)
	10	道徳学習指導案の書き方と授業評価	発展 (第7章)
	11	授業のねらいと発問を考える	予習 (第13章)
	12	道徳とは何か	復習 (第14章2・3節)
	13	道徳的正しさと話し合いの意義	復習
	14	いじめ関連の教材を用いた授業	発展 (第15章)
15	まとめ		
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上地完治編『道徳教育の理論と実践』ミネルヴァ書房、2020年 ○文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』教育出版、2018年
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講義の内容をノートに整理するなど、毎回自分なりにまとめておくこと。 ○自分の意見をまとめるとき、「なぜそうなのか」という理由をきちんと説明できるように考える。 ○自分の考えを深めるために、教育関係の書物を多く読むだけでなく、新聞やニュース、雑誌などから多様な知的刺激を受けて、自分の意見を持つように心がける。とりわけ、新聞(できれば全国紙)を図書館などで毎日読む習慣をつけることは、よい道徳授業を実践する教師になるためにとても有効です。
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>授業の課題40%、学期末レポート60% 学期末レポートでは講義内容についてきちんと理解しているかどうかを評価します。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「哲学概論」「倫理学概論」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	道徳教育の研究	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	2年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	道徳教育とは何か。それは、ある一つの道徳の形を子どもたちに教え込むことではなく、「道徳とは何か」を子どもたちとともに考えることではないだろうか。本講義では、道徳教育の歴史を整理し、これまで学校教育に求められてきた「道徳」なるものの性格を確認する。そのことを通じ、受講者とともに、教職を志す者が道徳教育について今後考えていくべき課題を模索したい。	テストではおもに授業の理解度をはかるので、毎回、集中して受講すること。 これまでに学んだ近現代史、沖縄史の内容を復習したうえで授業に臨むこと。
到達目標	授業の内容を理解し、それを自分の言葉で語り直せるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業内容の復習
	2	道徳教育の歴史（1）—近代教育の幕開け	授業内容の復習
	3	道徳教育の歴史（2）—皇民化教育	授業内容の復習
	4	道徳教育の歴史（3）—戦後教育改革	授業内容の復習
	5	道徳教育の歴史（4）—逆コースと道徳教育	授業内容の復習
	6	道徳教育の歴史（5）—日の丸・君が代と道徳教育	授業内容の復習
	7	道徳教育の歴史（6）—戦後沖縄の教育と道徳教育	授業内容の復習
	8	道徳教育の歴史（7）—現代沖縄の教育と道徳教育	授業内容の復習
	9	道徳教育をめぐる理論的考察（1）—社会科学的考察	授業内容の復習
	10	道徳教育をめぐる理論的考察（2）—心理学的考察	授業内容の復習
	11	道徳教育をめぐる理論的考察（3）—学習指導要領の検討	授業内容の復習
	12	道徳教育をめぐる理論的考察（4）—道徳諸資料の検討	授業内容の復習
	13	学習指導案例の検討	授業内容の復習
14	学習指導案の作成	授業内容の復習	
15	授業実践	授業内容の復習	
16	期末試験	試験の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など	特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。	
学びの手立て	適宜、Microsoft Teamsを活用する。使用法に習熟しておくこと。 無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。 授業内容の復習は必ずおこなうこと。 毎回、授業終盤にリアクション・ペーパーを課す。数名分を次回授業時に紹介、コメントする。		
評価	期末試験によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 哲学概論 倫理学概論
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	道徳教育の理論と方法	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	三村 和則	2年	5号館5階 5505室 mimura*okiu. ac. jp(*は半角@に変換します)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>道徳教育は、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解し、教材研究や学習指導案の作成等を通して、実践的な指導力を身に付ける。</p> <p>到達目標 道徳と道徳教育の意味、諸外国の学校での道徳教育方法、近代的学校制度が導入された明治以降今日までのわが国の学校での道徳教育の歴史、特に戦前・戦中期の道徳教育を特徴づけた修身教育体制の生成・展開・消滅の過程と戦後道徳の時間が特設されその延長に道徳科が生まれた経緯についての知識・理解を身につける。また、教育課程の各領域(「教科」「道徳」「総合的な学習(探求)の時間」「特別活動」)で行う道徳教育の考え方と方法論についての知識・理解を身につける。特に「特別の教科 道徳」については教材や授業方法についての知識・理解を身につけるとともに、学習指導案づくりの技能を身につける。これらを通して学校での道徳教育のあり方を批判的に吟味し同時に道徳教育を創造的に実践する技能や思考力・判断力並びに関心・意欲・態度を身につける。</p>	<p>明治から今日までのわが国の学校での道徳教育の歴史を振り返り、その中で、なぜ沖繩戦に至るような考え方が日本人に形成されたかがわかります。また、「特別の教科 道徳」(以前の「道徳の時間」)の指導法として学習指導案づくりの経験をしてみる点が特徴です。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/学習指導要領の中の道徳	「学習指導要領」道徳の章精読
	2	道徳と道徳教育の構造	自分なりの道徳の樹状構造作成
	3	世界の学校における道徳教育 1 宗教(科)特設の国々と道徳(科)特設の国々	A国の学校での道徳教育調べ
	4	世界の学校における道徳教育 2 宗教(科)と道徳(科)併設の国々、特設時間(教科)無しの国々	B国の学校での道徳教育調べ
	5	教育勅語と修身教育体制 1 教育勅語発布の経緯	学事奨励被仰出書精読
	6	教育勅語と修身教育体制 2 教育勅語と修身教育体制の内容	教育勅語の書写と感想☆
	7	修身教育体制への批判と抵抗 1 川井訓導事件、新興教育運動、生活綴方教育	抜粋『ボクラ少国民』精読
	8	修身教育体制への批判と抵抗 2 私学等での実践、奈良の生活修身/戦後教育改革と道徳教育	どうやって国民を戦争に・・・感想☆
	9	修身教育体制の解体/全面主義道徳体制から特設道徳体制へ	教育基本法前文1条書写と感想☆
	10	特設道徳(「道徳の時間」)以降の道徳教育/道徳の教科化(「特別の教科 道徳」)について	日本教育学会の特設道徳見解精読
	11	教科における道徳教育(訓育的教授の理論)	抜粋教育基本法改正関係文書精読
	12	特別活動と総合的な学習(探求)の時間における道徳教育	抜粋「特活における道徳教育」精読
	13	「特別の教科 道徳」の実践方法 1 道徳授業の原則	中学校時の「道徳の時間」調べ☆
	14	「特別の教科 道徳」の実践方法 2 模索される授業方法、道徳科教科書教材の研究、評価方法	抜粋モラルジレンマ授業精読
15	「特別の教科 道徳」の実践方法 3 学習指導案づくりの方法、(模擬授業の実践と批評)	中学時の「道徳の時間」評価調べ	
16	試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：①配付するレジュメ集。②配付する資料集。 主要参考文献：①藤田昌士『学校教育と愛国心ー戦前・戦後の「愛国心」教育の軌跡』学習の友社、2008年。 ②柴田義松編著『道徳教育ー理論と実際』学文社、1992年。③大庭茂美他編著『道徳教育の基礎と展望』福村出版、1999年。④文部科学省『中学校学習指導要領』2017年。⑤文部科学省『高等学校学習指導要領』2018年。 残余については別途、指示する。</p>
-------	---

学びの手立て	<p>①履修の心構え：「教育の思想と原則」と「教育心理学」(2017年度以前入学生)又は「進路指導・生活指導」(2018年度入学生)又は「進路指導・生徒指導」(2019年度以降入学生)の単位修得が受講条件。抽選の場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努める。 ②学びを深めるために：道徳とは何か、現代社会ではどんな道徳が望ましいか、中学校の「道徳の時間」で何をしたら、教育実習で「特別の教科 道徳」をどう授業したらよいか、教科の授業や特別活動の中で道徳性を育てるとはどうか、道徳教育はなぜ難しいのか、などの問題意識を持ち受講するとよい。レジュメ集と資料集に一度、目を通して毎回の講義に臨むとよい。講義時間内だけでは到達目標を達成できないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献で補ったり深めたりするとよい。</p>
--------	--

評価	<p>小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合、その3分の2以上の提出をもって期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験70%、期末課題20%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、思考力・判断力及び関心・意欲・態度をなるべく網羅的に評価する。論述問題とする場合、設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に応じて配点する。期末課題は道徳授業の実践記録分析に基づく学習指導案作成を予定している。時間外の講演会・研究会等への参加報告書に10%加算する(随時案内・指示)。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教科でも特別活動でも道徳教育は行われる。「教育課程・教育方法」「教科教育法」「同演習」や「特別活動の理論と方法」(旧課程「特別活動研究」)等を受講する際、道徳教育と関連づけて受講するとよい。「特別の教科 道徳」には教科書があるが、教科書教材に依存するのは好ましくない。教材は日常生活にあふれている(自分や他者の言動、マスメディア、歌、小説等々)。それらを集め、教材の引き出しを豊かにしておくこと。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 「教科及び教職に関する科目」のうち「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に該当する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 道徳教育の理論と方法	期別	曜日・時限	単位
	担当者 野見 収	前期	火 4	2
		対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 道徳教育とは何か。それは、ある一つの道徳の形を子どもたちに教え込むことではなく、「道徳とは何か」を子どもたちとともに考えることではないだろうか。本講義では、道徳教育の歴史を整理し、これまで学校教育に求められてきた「道徳」なるものの性格を確認する。そのことを通じ、受講者とともに、教職を志す者が道徳教育について今後考えていくべき課題を模索したい。	メッセージ テストではおもに授業の理解度をはかるので、毎回、集中して受講すること。これまでに学んだ近現代史、沖縄史の内容を復習したうえで授業に臨むこと。
	到達目標 授業の内容を理解し、それを自分の言葉で語り直せるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業内容の復習
	2	道徳教育の歴史（1）—近代教育の幕開け	授業内容の復習
	3	道徳教育の歴史（2）—皇民化教育	授業内容の復習
	4	道徳教育の歴史（3）—戦後教育改革	授業内容の復習
	5	道徳教育の歴史（4）—逆コースと道徳教育	授業内容の復習
	6	道徳教育の歴史（5）—日の丸・君が代と道徳教育	授業内容の復習
	7	道徳教育の歴史（6）—戦後沖縄の教育と道徳教育	授業内容の復習
	8	道徳教育の歴史（7）—現代沖縄の教育と道徳教育	授業内容の復習
	9	道徳教育をめぐる理論的考察（1）—社会科学的考察	授業内容の復習
	10	道徳教育をめぐる理論的考察（2）—心理学的考察	授業内容の復習
	11	道徳教育をめぐる理論的考察（3）—学習指導要領の検討	授業内容の復習
	12	道徳教育をめぐる理論的考察（4）—道徳諸資料の検討	授業内容の復習
	13	学習指導案例の検討	授業内容の復習
	14	学習指導案の作成	授業内容の復習
15	授業実践	授業内容の復習	
16	期末試験	試験の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。		
	学びの手立て 適宜、Microsoft Teamsを活用する。使用法に習熟しておくこと。 無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。 授業内容の復習は必ずおこなうこと。 毎回、授業終盤にリアクション・ペーパーを課す。数名分を次回授業時に紹介、コメントする。		
	評価 期末試験によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 哲学概論 倫理学概論
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	道徳教育の理論と方法	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上地 完治	2年	kanji@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、道徳授業を「学習」の場と捉え、子どもたちに豊かな学びを提供できる教師になるために必要なことを、哲学的・歴史的・実践的側面から追究します。具体的には、(1)我が国の道徳教育の歴史、(2)学習指導要領、(3)道徳授業の実践、(4)道徳教育に関する理論について理解することをめざします。</p>	<p>【本講義はMoodleで行います。1週間以内に必ず受講して下さい】 道徳の授業はどうすれば躰や説教の時間ではなく「学びの場」となるのでしょうか。本講義では、受講生一人ひとりが自分の頭で論理的・多角的・批判的に考えることを求めます。”</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳や道徳教育について論理的および批判的に考察することができる。 2. わが国における道徳教育の歴史を理解することができる。 3. 学習指導要領における道徳教育の規定を理解することができる。 4. 道徳授業における「学び」を理解することができる。 5. 資料分析を通して、「授業のねらい」「中心発問」「ゆさぶりの発問」を考えることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	予習 (テキスト第1章)
	2	わが国における道徳教育の歴史 (1) 一戦前の修身科と教育勅語	戦前の道徳教育の歴史の復習
	3	わが国における道徳教育の歴史 (2) 一戦後の道徳教育と道徳の時間の特設、そして教科化へ	予習 (テキスト第2章)
	4	中学校学習指導要領 (1) 一道徳教育	予習 (第10章1・2節)
	5	中学校学習指導要領 (2) 一道徳科	予習 (第14章1・2節)
	6	中学校学習指導要領 (3) 一内容項目と道徳的価値	予習 (序章第1・2節、3節の1・3)
	7	考え議論する道徳授業	予習 (第4章)
	8	道徳学習指導案の書き方 (1)	予習 (第6章)
	9	道徳学習指導案の書き方 (2)	予習 (第5章、第10章)
	10	道徳学習指導案の書き方と授業評価	発展 (第7章)
	11	授業のねらいと発問を考える	予習 (第13章)
	12	道徳とは何か	復習 (第14章2・3節)
	13	道徳的正しさと話し合いの意義	復習
14	いじめ関連の教材を用いた授業	発展 (第15章)	
15	まとめ		
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p><テキスト> ○上地完治編『道徳教育の理論と実践』ミネルヴァ書房、2020年。 ○文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』教育出版、2018年。</p>		
学びの手立て	<p>○講義の内容をノートに整理するなど、毎回自分なりにまとめておくこと。 ○自分の意見をまとめるとき、「なぜそうなのか」という理由をきちんと説明できるように考える。 ○自分の考えを深めるために、教育関係の書物を多く読むだけでなく、新聞やニュース、雑誌などから多様な知的刺激を受けて、自分の意見を持つように心がける。とりわけ、新聞(できれば全国紙)を図書館などで毎日読む習慣をつけることは、よい道徳授業を実践する教師になるためにとっても有効です。”</p>		
評価	<p>授業の課題40%、学期末レポート60% 学期末レポートでは講義内容についてきちんと理解しているか、理解したことを適切に説明できているかどうかを評価します。”</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「哲学概論」「倫理学概論」
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本史	通年	火4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	1年	t.ichikawa@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>① 考古・古代から近代・現代にいたる日本の通史を、政治・外交・経済・文化を軸に概説する。</p> <p>② 高等学校の日本史の教科書の記述がどのように変化してきたのかを把握し、その理由を理解する。</p> <p>③ 講義の内容は最新の歴史学の研究成果に基づくものとする。</p>	<p>本講義は、教職課程の「教科に関する科目」であり、中学校社会科および高等学校地理歴史科教員免許取得のための必修科目である。</p>
到達目標	到達目標	
	<p>① 日本の通史を教科書叙述の変遷を軸に把握し、中学校および高校教員として必要な知識を身に着ける。各時代の特徴的な出来事や人物について理解を深め、因果関係を説明できるようになる。</p> <p>② 考古・古代から近代・現代にいたる日本の歴史がどのような史料をもとに語られているのかを理解する。</p> <p>③ 疑問に感じた事柄を、文献などによって自ら調べ解決することができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講ガイダンス	事前にシラバスを熟読のこと。
	2	日本列島の原始から古代へ	配布資料の読解、参考文献の確認。
	3	邪馬台国論争	配布資料の読解、参考文献の確認。
	4	律令国家への道	配布資料の読解、参考文献の確認。
	5	律令国家と天平文化	配布資料の読解、参考文献の確認。
	6	平安王朝の形成	配布資料の読解、参考文献の確認。
	7	平安政治の展開と大地変動・兵乱	配布資料の読解、参考文献の確認。
	8	摂関政治と国風文化	配布資料の読解、参考文献の確認。
	9	院政と文化	配布資料の読解、参考文献の確認。
	10	鎌倉と京	配布資料の読解、参考文献の確認。
	11	荘園と社会	配布資料の読解、参考文献の確認。
	12	室町時代の政治史	配布資料の読解、参考文献の確認。
	13	室町時代の社会	配布資料の読解、参考文献の確認。
	14	戦国時代の政治と文化	配布資料の読解、参考文献の確認。
	15	前期のまとめ	配布資料の読解、参考文献の確認。
	16	織豊政権と天下統一	配布資料の読解、参考文献の確認。
	17	江戸幕府の成立	配布資料の読解、参考文献の確認。
	18	江戸の都市生活	配布資料の読解、参考文献の確認。
	19	「鎖国」と「四つの口」	配布資料の読解、参考文献の確認。
	20	享保改革と社会変容	配布資料の読解、参考文献の確認。
	21	田沼時代から寛政の改革へ	配布資料の読解、参考文献の確認。
	22	幕藩体制の動揺：天保の改革	配布資料の読解、参考文献の確認。
	23	幕末の政治・外交	配布資料の読解、参考文献の確認。
	24	明治維新と地域社会	配布資料の読解、参考文献の確認。
	25	明治憲法と帝国議会の成立	配布資料の読解、参考文献の確認。
	26	日清・日露戦争と都市騒擾	配布資料の読解、参考文献の確認。
	27	植民地領有と日本社会	配布資料の読解、参考文献の確認。
	28	政党政治の展開	配布資料の読解、参考文献の確認。
	29	昭和の戦争・敗戦	配布資料の読解、参考文献の確認。
	30	政党の復活と地方自治	配布資料の読解、参考文献の確認。
31	学年末試験もしくはレポート	通年分の復習。	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>次の2点を必ず準備すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋秀樹ほか『ここまで変わった日本史教科書』（吉川弘文館、2016年）※大学図書館の電子ブックで閲覧・ダウンロード可能。1週目に紹介します。 ・自分が高校時代に使用した日本史Bの教科書。※手元にない学生は、笹山晴生ほか編『詳説日本史B』（改訂版、日B309）山川出版社、2017年を必ず購入すること。
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格科目のため出席と課題提出を重視します。課外活動などによる欠席届は考慮の対象となりません。 <p>②学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・moodleにこの科目のページを開設し、この科目のホームページとして使用します。連絡事項の通知、レジユメの配布、課題の提出など、随時情報をupするので、常に参照してください。https://bee.okiu.ac.jp/ → [コースカテゴリ] → [資格科目] → [2021 日本史 月3 市川智生] ・前回どこまで学習したのかを必ず確認しておくこと。配布資料への書き込みや自分のノートなど、講義内容をメモする習慣を身に着けること。
	<p>評価</p> <p>①講義中に小テストを実施することがあります。出席の確認も兼ねるため、遅刻・欠席者の提出は認めません。(3点×20回=60点)。</p> <p>②理解度の確認のため、前期および後期終了時に計2回、試験もしくはレポートを実施します(20点×2回=40点)以上の計100満点で成績評価します。なお、①の提出回数が2/3に満たない場合は、②の点数に関係なく不可となります。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教職課程の「外国史I」および「同II」と合わせて、自身で内容を比較・検討する。</p>

※ポリシーとの関連性 教職（情報）における「コンピュータ及び情報処理（実習を含む）」に類される実習形式での科目となる。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング実習	後期	水3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	2年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、基本的なプログラミング技術を習得した者を対象とした応用的な範囲を含む教職（情報科）の科目となります。教職課程を専攻する者を対象としてはいるが、それ以外の学生でプログラミングに興味がある者は登録を受け付けます。基本的にプログラミング言語としてはjavaを用い、実習および課題制作を中心に進めていきます。</p> <p>到達目標</p> <p>① 構造化プログラミングを理解し、その実装ができる。 ② オブジェクト指向プログラミングを理解し、その実装ができる。 ③ システム設計を行い、それに従った実装ができる。</p>	<p>プログラミングは、複雑な問題を単純な要素に分解することからはじまります。そして分解した各要素の関係を捉えることで、問題の理解が深まり、解決の糸口が掴めます。試行錯誤の連続になりますが、その経験によって問題解決能力が育まれていきます。</p> <p>【実務経験】 応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、実務領域までを念頭においたプログラミングの知識、技術を実習する。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解、配布資料の熟読
	2	構造化プログラミング	当該講義の復習、配布資料の熟読
	3	オブジェクト指向プログラミング1	当該講義の復習、配布資料の熟読
	4	オブジェクト指向プログラミング2	当該講義の復習、配布資料の熟読
	5	Javaプログラミング1	テキストpp. 01-68、次回講義予習
	6	javaプログラミング2	テキストpp. 73-114、次回講義予習
	7	javaプログラミング3	テキストpp. 123-136、次回講義予習
	8	javaプログラミング4	テキストpp. 151-178、配布資料熟読
	9	課題システム構築1	課題作成
	10	課題システム構築2	継続的な課題作成
	11	課題システム構築3	継続的な課題作成
	12	課題システム構築4	継続的な課題作成、発表資料の作成
	13	課題システム構築5	継続的な課題作成、発表資料の作成
	14	制作システムプレゼンテーション1	発表資料の作成、発表の振り返り
15	制作システムプレゼンテーション2	発表の振り返り	
16	講評、総括		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柴田 望洋「新・明解 Java 入門編」SBクリエイティブ (2016) ・柴田 望洋「新・明解Javaによるアルゴリズムとデータ構造」SBクリエイティブ(2017) ・小森裕介「なぜ、あなたはJavaでオブジェクト指向開発ができないのか」技術評論社(2004) ・Robert Simmons Jr. 「Java魂ープログラミングを極める匠の技」オライリージャパン (2004) <p>また理解の手助けとなる資料を随時配布します。</p>
----	--

学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席するのであれば、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。</p> <p>② 講義において、求められる課題(宿題)の提出期限は、必ず守るようにしてください。</p> <p>③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけてください。</p> <p>④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中に尋ねることはもちろん、オフィスアワーあるいはメールを利用しながら、自ら積極的に解消してください。</p>
--------	---

評価	<p>学習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題レポート(30%)そして制作システムプレゼンテーション(50%)の総合評価とします。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習におけるプログラミングの応用レベルの習得を基礎とし、教職（情報）における「情報システム」に類される「システム設計実習」、「情報処理システム演習」そして「データベース」に取り組んでもらいたいと考えます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	法学概論	通年	水5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-長嶺 弘善	1年	教室または授業時間前後の非常勤教員控室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>法は社会における人々の行為規範として機能しており、私たちは法と向き合って暮らさざるをえない。日常生活における契約関係、予期しない交通事故などの損害賠償、婚姻・離婚と親子関係における法的保護、そして人の生死にかかわる法律問題など、さまざまな法現象が存在する。社会人として有益な、これらの法現象理解の一助としたい。</p> <p>到達目標 講義はできるだけ具体的事例に即しておこなう。法とは何か、法はこの社会においてどのように機能しているのか、さらに、自分自身の行動がどのように法と関連づけることができるのかを理解しよう。そして、身の回りに生起する具体的な問題を法的に思考し、解決する助けとなることを期待する。</p>	<p>授業は一方通行ではなく、学生の間に入り、質問・対話を取り入れながら進める。教室はすべて自由席で、演劇鑑賞と同じく前方の席が特等席である。しかし鑑賞と違い、参加型講義を目指しているの で、常に思考回路を働かせてもらいたい。なお、飲食・携帯・私語は禁止です。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	(対) 導入：ガイダンス	本シラバス熟読
	2	(対) 受講の期待、法への意識、法の体系	教科書一読・再読、ノート整理
	3	(対) 六法の使い方、大学の単位と法、授業料	学則中「単位」に関する条文熟読
	4	(対) 法、道徳、慣習	身近な道徳・法律問題を探す
	5	(対) 法の存在形式と分類	教科書一読・再読、ノート整理
	6	(対) 法の適用と解釈	教科書一読・再読、ノート整理
	7	(対) 日本国憲法、基本的人権	教科書一読・再読、ノート整理
	8	(対) 憲法制定過程、押付か革命か	教科書一読・再読、ノート整理
	9	(対) 憲法4原則、自然権	教科書一読・再読、ノート整理
	10	(対) 人権主体と人権分類	教科書一読・再読、ノート整理
	11	(対) 精神的自由権、表現と信教	教科書一読・再読、ノート整理
	12	(対) 包括的基本権、幸福と平等	教科書一読・再読、ノート整理
	13	(対) 社会権、生存権と教育を受ける権利	教科書一読・再読、ノート整理
	14	(対) 刑法、罪刑法定主義、犯罪成立と刑罰	教科書一読・再読、ノート整理
	15	(対) 司法権、裁判員制度	教科書再読、ノート整理、総復習
	16	(対) 前期試験	ノート読み直し、試験問題復習
	17	(対) 前期試験講評、法的推論	前期ノート整理確認
	18	(対) 民法家族法：親族	教科書一読・再読、ノート整理
	19	(対) 婚姻成立：婚姻意思と届出	教科書一読・再読、ノート整理
	20	(対) 婚姻効力：身分と財産、日常家事	教科書一読・再読、ノート整理
	21	(対) 離婚：成立と効果、財産分与	教科書一読・再読、ノート整理
	22	(対) 離婚：子どもの親権・監護権	教科書一読・再読、ノート整理
	23	(対) 相続：遺言自由と非嫡出子	教科書一読・再読、ノート整理
	24	(対) 民法財産法：法律行為論	教科書一読・再読、ノート整理
	25	(対) 契約自由の原則：有効要件	教科書一読・再読、ノート整理
	26	(対) 消費者契約：特別法による保護	教科書一読・再読、ノート整理
	27	(対) 不法行為：成立、過失責任	教科書一読・再読、ノート整理
	28	(対) 不法行為の効果、特殊不法行為	教科書一読・再読、ノート整理
	29	(対) 労働契約、労働基準法	教科書一読・再読、ノート整理
30	(対) 権力分立：権力行使、法の番人	教科書再読、ノート整理、総復習	
31	(対) 期末試験	ノート読み直し、試験問題復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書：中川淳編『新やさしく学ぶ法学』法律文化社（2, 600円） 法令集：『ポケット六法 令和3年版』有斐閣（1, 800円）等 参考書：竜崎喜助『生の法律学【改訂版】』（尚学社）、稲垣明博『生活と法律—生命の誕生から終焉まで【改訂版】』（泉文社）、大村敦志『生活民法入門—暮らしを支える法』（東京大学出版会）、初宿正典『いちばんやさしい憲法入門【第3版】』（岩波書店）</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>授業は教科書に沿って進めるので、教科書一読し、六法持参して出席すること。講義に集中することが大切である。質問を大いに歓迎するが、飲食・携帯・私語は禁止する。さらに、講義の聞きっぱなしで終わるのではなく、教科書再読・ノート整理など、自学することが重要である。また、講義中に配布する資料・プリント類を読み込むことで、理解は一層深まるであろう。なお、上記参考書どれか一冊でも、土日など利用して、読み通すことを期待する。</p>
	<p>評価</p> <p>評価基準および欠席の扱いについては、『学則』・『学部履修規程』による。 前期期末試験及び後期期末試験（各50%）を合わせて評価する。試験の出題方法は穴埋式（選択肢なしで正解用語記入）および正誤式（問題文中の誤り箇所を指摘し正解用語記入）で行う。試験得点調整が必要な場合、授業参加度を考慮加味する（10%以内）。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>法学に興味があれば、法学部専門科目を聴講するのも良い。社会で発生する様々な法現象に、継続的に興味を持ち、法的推論を働かせることを期待する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルチメディア実習	前期	火3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中西 利文	2年	メールにて受け付ける ptt465@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本実習では、グラフィックツールの基本的な操作及び効果的な表現技術の習得を目的とする。ドロー系、ペイント系の特徴を理解し、うまく使い分け、統合することで効率的な画像資料作成技術を身につけ、オリジナルコンテンツ作成までを実習する。	メッセージ いろいろとチャレンジして慣れることが習得への近道です。初めてでも問題ないので興味のある学生は気軽に受講して下さい。
	到達目標 ドロー系、ペイント系それぞれの特徴を把握し、効率的にグラフィックコンテンツを作成することができるようになる。	

学びの準備	到達目標 ドロー系、ペイント系それぞれの特徴を把握し、効率的にグラフィックコンテンツを作成することができるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	Adobe Photoshop の効率的な操作について (1)
	3	Adobe Photoshop の効率的な操作について (2)
	4	Adobe Photoshop の効率的な操作について (3)
	5	Adobe Photoshop の効率的な操作について (4)
	6	Adobe Illustrator の効率的な操作について (1)
	7	Adobe Illustrator の効率的な操作について (2)
	8	Adobe Illustrator の効率的な操作について (3)
	9	Adobe Illustrator の効率的な操作について (4)
	10	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (1)
	11	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (2)
	12	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (3)
	13	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (4)
	14	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (5)
	15	作品提出、総括
16		
	時間外学習の内容	
	操作方法の復習、表現方法の応用	
	操作方法の復習、表現方法の応用	
	操作方法の復習、表現方法の応用	
	操作方法の復習、表現方法の応用	
	操作方法の復習、表現方法の応用	
	操作方法の復習、表現方法の応用	
	操作方法の復習、表現方法の応用	
	操作方法の復習、表現方法の応用	
	進行遅れの補完作業	
	進行遅れの補完作業	
	進行遅れの補完作業	
	進行遅れの補完作業	
	進行遅れの補完作業	
	進行遅れの補完作業	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する
-------	----------------------------

学びの実践	学びの手立て 普段よりいろいろなCGやwebサイト、印刷物などのグラフィック作品を見るようにして下さい。
-------	---

学びの実践	評価 出席状況と10回～15回のオリジナルグラフィックコンテンツ作成演習で作成した作品により、評価する 平常点30%、作品評価70%
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 他の演習、自主制作、卒業論文において、わかりやすく美しい説明図や視覚表現、レイアウトができるよう継続してグラフィックツールの操作技術の熟練を目指して下さい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	倫理学概論	通年	木5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 信哉	1年	講義時間内が望ましいのですが、講義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講座は教職を志す人を対象に、倫理学の概略を伝えることを目的としています。最近よく道徳教育の必要ということを耳にしますが、教職に就く人が倫理学を学ぶ必要があるのはそうした理由によるものではありません。倫理学研究では、そもそも道徳的であるとはどういうことかを再検討します本講座では主として前半に倫理学の学説史を紹介し、後半で現代の問題に即して具体的に検討します。</p>	<p>予備知識は取りたてて必要ありませんが、熱心に学ぶ意欲は期待しています。教室で語られるどんなことについてであれ、諸君が知らなかったということは悪くはありません。これから知り、判るようになれば良いだけです。ただ、自分が判るか判らないかを考えないのは良くありません。自分が判っているかどうかをつねに検討し、判らないときには遠慮なく質問してほしいと思います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理という語の本来の意味から、道徳的であるとはどういうことかまでを理解する。 ・現代のさまざまな倫理的立場の違いを知り、自分でも説明できるようになる。 ・教育を倫理の観点から考える視点を心得、どのような教育が望ましいかを考える。 ・倫理について、あるいは教育について、しっかりした自分自身の考えを作る。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	シラバスを読んでくるように。
	2	倫理という語の意味について考える。	講義後の復習をするように。
	3	倫理という語の成り立ちについても考える。	講義後の復習をするように。
	4	ソクラテスとプラトンの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	5	アリストテレスの倫理学を紹介する。	人物について自分でも調べる。
	6	カントの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	7	カントの考えについて教室で検討する。	講義後の復習をするように。
	8	功利主義の思想について考える。	現代の問題にあてはめてみる。
	9	功利主義的な自由主義について考える。	自由について自分でも考える。
	10	カント説と功利主義の対立点を考える。	講義後の復習をするように。
	11	正義とは何かを考える。	現代の問題にあてはめてみる。
	12	政治や経済と自由について考えてみる。	政治についても調べてみる。
	13	徳について考える。	講義後の復習をするように。
	14	共同体の意義について考える。	自分の立場にあてはめてみる。
	15	あらためて正義について考える。	講義後の復習をするように。
	16	前期のまとめ及びレポート課題提示。	自分の理解を確認する。
	17	レポート回収および近代倫理思想の概観。	自分の理解を再確認する。
	18	積極的自由と消極的自由の違いを考える。	現代の問題にあてはめてみる。
	19	自由と責任との関係について考える。	講義後の復習をするように。
	20	パターナリズムについて考える。	講義後の復習をするように。
	21	教育の倫理学を考えてみる①。	教職の特質について考える。
	22	教育の倫理学を考えてみる②。	教職の特質について考える。
	23	現代の倫理問題について考える①。	講義後の復習をするように。
	24	現代の倫理問題について考える②。	講義後の復習をするように。
	25	現代の倫理問題について考える③。	講義後の復習をするように。
	26	現代の倫理問題について考える④。	講義後の復習をするように。
	27	自由と権力との関係について考える。	講義後の復習をするように。
	28	趣味と教養とについて考える。	楽しむことについて考える。
	29	教育は誰のためのものかをあらためて考える。	自分の考えをまとめてみる。
30	どんな理解が得られたかを検討する。	自分の考えを再検討する。	
31	まとめ。およびレポート回収。	自分の理解を確認する。	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。直接教室で使用する以上の参考文献は必要に応じて教室で指示しますが、まずは図書館で各種事典類を引く習慣を身につけるように。なお、毎回感想を書いてもらう（いわゆるリアクションペーパー）ことを考えていますが（これについての詳細は講義第1回目に受講生諸君と話し合って決めようと思います）、ここに受講者諸君の資料の理解は反映されることになるでしょう。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>受講者の人数にも多少異なりますが、こちらから諸君にも質問します。活発な議論となることを望みます。出席も含めて評価については厳正であるように努めますが、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも講義には積極的に参加するように。あとでというのではなく、まずその場で考えるということをお願いしたいと思います。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとの確認で十分です。</p>
	<p>評価</p> <p>前期最終回でレポート課題を提示し、後期講義開始時に回収します。これが前期分となります。他に後期最終回にもレポートを提出してもらいます。それぞれ50パーセントの重みですので片方だけでは単位は取得できません。気をつけるように。評価方法の細部は、初回の合意作りのときに希望が出たら考慮します。考えがあれば聞かせてください。出席も取りますが、受講者が出席することは最低限の条件ですので出席それ自体を特別に評価することはありません。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>倫理学や哲学は抽象的な議論になりがちですが、具体的な問題を考えるときの重要なヒントを与えてくれます。特に専門家を目指すのでないかぎり人名などを細かく覚える必要はありませんが、教室で学んだ考え方のスキルは当人の努力次第で役立ちます。皆さんがこのあと多くのことを学ぶにあたってぜひ役立てるように努めてください。</p>